

中華民國二十五年十月初版

(356230)

中國經濟年鑑第三編二冊

每部實價 拾元
外埠酌加運費

特

編纂者 業部中國經濟
年鑑編纂委員會

發行人 王雲五
上海河南路

印刷所 商務印書館
上海河南路

發行所 商務印書館
上海及各埠

版 權 所 有
翻 印 必 究

(本對校者 蔡仲宣 沈鴻俊 金雲峯 王養吾 喻飛生 朱仁寶 華國章
林仁之 尤惠民 施伯朱 鮑嘉祥 楊瑞文 章德宣 王煊蕃)

第二十章 邊疆經濟

第一節 察綏寧三省

第一目 農業

- (一) 概述.....一
- (二) 察哈爾農業概況.....一
- (三) 綏遠農業概況.....四
- (四) 寧夏農業概況.....八

第二目 墾務

- (一) 綏遠墾務概況.....九
- (二) 察哈爾墾務概況.....一〇
- (三) 寧夏墾務概況.....一一

第三目 牧畜

- 第四目 工業.....一五
- (一) 概述.....一五

(二) 察哈爾手工業概況

(三) 綏遠手工業概況

第五目 商業

- (一) 察哈爾商業概況.....一九
- (二) 綏遠商業概況.....二〇
- (三) 寧夏商業概況.....二二

第六目 鑛業

- (一) 察哈爾鑛業概況.....二二
- (二) 綏遠鑛業概況.....二五
- (三) 寧夏鑛業概況.....三一

第七目 財政

- (一) 察哈爾財政概況.....三三
- (二) 綏遠財政概況.....三五
- (三) 寧夏財政概況.....三五

第八目 交通

- (一) 鐵路交通.....三六
- (二) 公路交通.....三六
- (三) 水道交通.....三七
- (四) 郵政.....三七
- (五) 電政.....三八

第二節 外蒙古

第一目 農墾

第二目 牧畜

- (一) 外蒙歷年家畜數額之統計.....四〇
- (二) 外蒙家畜分佈之狀態.....四一
- (三) 外蒙牧畜事業之前途.....四一
- 第三目 工業.....四二

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟詳目

(T) 二

第四目 商業..... 四二

第五目 礦業..... 四三

第六目 漁獵及森林..... 四三

第三節 新疆..... 四三

第一目 農業..... 四三

(一) 民國二十四年新疆農業概況..... 四三

(二) 各縣支配春耕貸款辦法..... 四四

第二目 墾務..... 四四

(一) 民國二十四年新疆之兵墾..... 四四

(二) 新疆屯墾使公署辦理開墾之經過..... 四五

第三目 水利..... 四六

第四目 牧畜..... 四七

(一) 新疆近年綿羊產額..... 四七

(二) 新疆近年羊皮毛出產及畜羣生產之能力..... 四八

第五目 工業..... 四八

(一) 紡織..... 四八

(二) 製革..... 四八

第六目 商業..... 四八

(一) 壟斷新疆商業之兩大公司..... 四八

(二) 新疆歷年對外匯貨貿易之統計..... 四九

(三) 裕新土產公司之經營..... 四九

(四) 新疆與內地商業之沒落

第七目 礦產..... 五〇

(一) 金礦..... 五〇

(二) 石油礦..... 五一

(三) 其他各礦..... 五一

第八目 財政..... 五一

(一) 新疆歲入歲出相差之懸絕..... 五一

(二) 最近整理財政金融之計畫..... 五一

第九目 金融..... 五一

(一) 硬幣及紙幣..... 五一

(二) 匯兌情形..... 五二

(三) 新疆省銀行..... 五二

第十目 交通..... 五三

(一) 新疆公路通車概況..... 五三

(二) 汽車運輸情形..... 五三

(三) 駱駝運輸情形..... 五四

第四節 青海..... 五四

第一目 農業..... 五四

(一) 農作物之環境..... 五五

(二) 主要農產物..... 五五

(三) 租佃制度..... 五六

(四)田賦.....五七

(五)農村借貸.....五七

第二目 墾務.....五八

第三目 土地.....六〇

第四目 水利.....六五

第五目 牧畜.....七一

(一)牧人生活.....七二

(二)牲畜種類.....七二

(三)牧畜統計.....七二

(四)牲畜產品.....七六

第六目 工業.....七三

第七目 商業.....七九

第八目 礦業.....八三

(一)金礦.....八三

(二)煤礦.....八三

(三)其他礦產.....八五

第九目 漁業.....八六

第一〇目 獵業.....八六

第一一目 鹽業.....八七

第一二目 森林.....八八

第一三目 藥材.....八九

第一四目 財政.....九〇

第一五目 金融.....九一

第一六目 交通.....九一

(一)公路.....九一

(二)水道.....九二

(三)郵政.....九二

(四)電政.....九二

第五節 康藏.....九三

第一目 農墾.....九三

甲 關於西康方面.....九三

(一)西康各縣墾地及土壤氣候.....九三

(二)西康農產品統計.....九五

(三)西康各縣農產品及耕作概況表.....九七

乙 關於西藏方面.....九八

第二目 工業.....九八

(一)丹巴之織絨業.....九八

(二)丹巴人之砌牆術.....九八

(三)德格白玉兩縣之金屬工業.....九八

(四)甘孜縣之抓絨種種.....九八

(五)瞻化縣之種子工業.....九八

(六)巴安之栽絨毯.....九八

(七)巴安之毛織物.....九八

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟詳目

(八) 西康各縣之造紙工業..... 九八

第三目 商業..... 九九

(一) 康藏主要商品輸出概況..... 九九

(二) 康藏主要商品輸入概況..... 九九

(三) 康定城區商業統計..... 一〇〇

(四) 康定瀘關輸出統計表..... 一〇一

(五) 康定瀘關輸入統計表..... 一〇二

第四目 鑛業..... 一〇四

(一) 西康鑛務之概況..... 一〇四

(二) 西康鑛產調查..... 一〇四

第五目 財政..... 一〇五

(一) 糧賦及捐稅..... 一〇五

(二) 貨幣種類..... 一〇七

第六目 交通..... 一〇八

(一) 公路..... 一〇八

(二) 郵政..... 一〇九

(三) 無線電..... 一〇九

(四) 川康邊防總指揮劉文輝開闢西康交通四年計畫..... 一一〇

第七目 電氣業..... 一一九

(丁) 四

中國經濟年鑑二十年第三編

第二十章 邊疆經濟

第一節 察綏寧三省

第一目 農業

縣	耕地面積(畝)	農民數	農人	每農戶平均佔有之耕地面積(畝)	每農民平均佔有之耕地面積(畝)
萬全縣	五三五,〇〇〇	一一,八六九	四九,八六九	四五〇八	一〇・七二
蔚縣	八六七,〇五三	三七,二七六	一二三,六五六	二二二・二六	三・八八
宣化縣	一,二八二,五九九	三五,四九五	一三九,五〇九	三六・一三	九・一九
陽原縣	八八四,一〇九	二一,六一三	七九,五〇九	四〇・九一	一一・一二
龍關縣	三四六,七四九	一一,九六三	五一,八九一	二八・九九	六・六八
赤城縣	三四二,二四〇	一〇,五二五	五二,九五二	三三・五一	六・四六
涿鹿縣	三五五,九四〇	一〇,二二四	四六,三三四	三四・八一	七・六八
懷來縣	四五〇,〇二〇	一八,〇〇〇	一四五,〇〇〇	二五・〇〇	三・一〇
懷安縣	六〇七,一八三	一三,八〇〇	一一八,九〇〇	二五・五一	五・一一
延慶縣	二二一,二二四	一三,六〇〇	七〇,一一一	一五・五三	三・〇一
張北縣	三,二四九,五〇〇	二五,〇六四	一〇五,六六九	一二九・六五	三〇・七五

一 概述

察綏寧三省之地，半屬蒙人游牧之區，半係漢人農墾之地，自清代康乾以後，漢人出塞移殖，農墾逐漸發達，蒙區亦漸就同化，其近長城者墾井耕田，與漢人無異，故現在察綏寧三省之農業，乃正由游牧而趨耕種之過渡時期也。其農墾沿革及耕作情形，已略見於本年鑑二十四年續編，不再冗述，茲僅將最近察綏寧各區農業概況，分述於下：

二 察哈爾農業概況

察哈爾之農田面積及農戶人數，據察省建設廳最近之統計如左：

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

(T) 四

張心一氏中國農業概況估計所載

小	米	三,八〇七	三,七一六	四,〇二〇	七,〇七〇	六,七九〇	六,二七〇	一八六	一八三	一五六
糜	子	一五八	二〇三	二五五	一四〇	三三〇	三〇〇	八九	一六三	一一八

	畝	數以千畝 為單位	總產量 以千擔 為單位	每畝產量 以斤為 單位
秈	類	一四一	二二五	一六〇
糯	類	一七	二六	一五三
小	麥	一,六四〇	一,二四七	七六
大	麥	六六四	六一〇	九二
高	粱	一,六五二	二,六九六	一六三
玉	蜀黍	四一八	八九五	二二四
小	米	三,三五〇	四,三二二	一二九
其他穀類		四,九六〇	四,五四八	九二
甘	薯	六四	四四七	六九八

	畝	數以千畝 為單位	總產量 以千擔 為單位	每畝產量 以斤為 單位
馬	鈴薯	九四二	七,七三九	八二二
大	豆	一,〇二五	一,〇九四	一〇七
黑	豆	六九	一一七	一七〇
豌豆		五四〇	三七三	六九
其他豆類		二七七	一四〇	五一
油	菜子	一四六	八四	五八
大	麻	二二三	七	三〇
胡	麻	二〇一	六一	三〇

三 綏遠農業概況

(見開發西北三卷二期合刊)

綏遠各縣農戶口及耕地面積如左:

縣	國民政府主計處統計月報所載		綏遠省通志館調查		縣調查概況所載		綏遠省政府調查	
	農戶數	田面積(頃)	農戶數	田面積(頃)	種	面積	升	科耕地(頃)
歸綏	縣	三三,〇〇〇	一三,四五〇	一五,三二八	下	一三,〇〇〇	一四,六〇一	
薩拉齊	縣	三四,六〇〇	一五,九〇〇	一〇,〇二二		一五,三五二	一五,三五二	
包頭	縣	一一,三〇〇	七,三七〇	一一,〇〇〇		一一,〇〇〇	一一,〇六二	
豐鎮	縣	一一,五〇〇	一一,六三〇	三〇,〇七〇		二七,七三二	三六,六〇九	

五原縣	五,四〇〇	二,九二〇	九,〇〇〇	二,七〇〇	一,五七四
武川縣	三六,四〇〇	一六,七四〇	八,〇四三	八,〇〇〇	二四,二一五
集寧縣	一三,八〇〇	一七,七七〇	一〇,三三〇	六,四〇〇	一〇,四八二
興和縣	一四,五〇〇	一八,三二〇	一二,五三九	一二,〇〇〇	一八,〇四七
托克托縣	六,五〇〇	七,四二〇	七,八四二	四,〇〇〇	七,〇〇四
清水河縣	七,〇〇〇		一〇,三三一	一〇,二九二	六,〇七九
和林格爾縣	九,四〇〇		九,九八六	四,四八〇	八,八〇九
東勝縣	三,五〇〇	一三,八五〇	一一,一四一	四,四八〇	一一,二〇八
固陽縣	二一,〇〇〇	一五,〇〇〇	四,〇〇〇	七,八〇〇	二四,一〇四
陶林縣	七,九〇〇	八,五一〇	八,八一九	六,七五四	八,八一〇
涼城縣	二三,七〇〇	一八,二九〇	一七,八二五	一六,〇〇〇	二三,三二五
臨河縣	八,五〇〇	四,六八〇	六,二九二	四,〇〇〇	一,五二九
安北設治局	二,七〇〇		五,七三一	一四,〇〇〇	四,七三一
合計	二四九,七〇〇	一七二,八四〇	一八九,二六九	一五二,五一八	二二九,五四〇

綏遠農民戶口,每年變遷頗大,不易統計,因一部分之農民,係遊農制者(此種農民多來自晉北,即今年在甲地租田種植,俟收穫後仍返家鄉,明春則往乙地租田耕種)。春來秋去,無固定土著,若遇荒年或地方不靖,即棄地而去。各縣耕種面積,較之升科地畝,或多或少,相差有達數倍者,其原因甚為複雜。綏遠私墾,極屬普遍,私墾之土地,不經官廳勸收丈放升科之手續,而由蒙旗私自放與漢人耕種;又因放丈墾地領戶以官戶居多,只知攬領,不諳農事之經營,故已放土地中,荒廢

者甚多;又有多數農民不堪土匪之擾亂,而離鄉逃亡者,亦不計其數,故綏遠之實際耕種面積,除實地調查青苗面積外,不能用其他估計方法,求得正確之數值。實際下種之面積,較升科地畝及已耕地面積均小,想以行休閒制度,為其最大原因。全省農民共約二十五萬,據中央農業實驗所之估計,就中自耕農佔五五%,半自耕農佔一九%,佃農佔二六%。每農戶耕種之面積,普通為一百二十八畝。又據民國二十年政治實察所報告,全省共有地主七十戶,佔有耕地九千二百八十二頃。

中國經濟年鑑 第三編 第二十章 邊疆經濟

(丁)六

此外尙有河套一帶之教堂地五萬頃，及蒙旗地七萬餘頃，皆爲地主教會所有。

綏遠各縣主要農作物之產量，根據省政府編印之綏遠概況建設季刊，綏遠

民衆教育館編印之綏遠省分縣調查概況，及綏遠社會教育所編印之綏遠物產

概要，取其較近似之數值，列表於下，數值相差過大者，則併記之。（表內之產量均
以百石爲單位，惟麻一項，則以千斤爲單位。）

縣	大小麥	苜蓿	麥	蕎麥	穀	子糜	子黍	子高	梁	雜	豆	馬鈴薯	菜	子胡	麻	子麻	子麻(千斤)
歸綏	九〇	七〇	四〇	四〇	九〇	五〇	五〇	一〇〇	九〇	九〇						三〇	二〇九
包頭	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	八〇	八〇	五〇	五〇	五〇						三〇	一九
豐鎮	四〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇						三〇	三
集寧	五〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇						三〇	二二
清水	九					三	三		八	七							一五
興和	三九	五九				一七	四			六							一七
陶林	三九	四九				三	三		天	三							一六
薩縣	一〇〇	七				五〇	三〇	五〇〇	五〇〇	一〇〇						四九五	三〇〇
和林	七					六		二〇	三〇	三〇							六
武川	一〇〇																六
五原	一〇〇					五	七		九	一〇							一〇
東勝	二四					二	三										八
臨河	二四					三	五										七
固陽	七					一〇	一〇										一
涼城	一〇					一〇	一〇										一
托縣	八					三	六		八	四							三

大余太	三九	七〇	一七〇	一五〇	二	七	六	一四〇	一七	二
總計	三六六〇 一四三	三八六 一八四	一〇四 五八六 三三七	六五七 四六六	一〇六〇 一〇六〇	七二五 一八八	二八〇 一七〇	二四三 七三五	全	三〇九 三七

又據中央農業實驗所及張心一氏之估計，綏省主要作物之種植面積單位面積之產量及全省總產量如左：
中央農業實驗所農情彙編所載

(見開發西北三卷二期合刊)

種	植	面積	積(以千畝為單位)	總	產	量(以千擔為單位)	每	畝	產	量(以斤為單位)
小麥	二	二五四五	二	二五七二	二	二六九	二	二六五	二	二六五
大麥	一	三九三	一	三九三	一	二九五	一	二九五	一	一五六
高粱	三	〇三五	二	七一六	一	九九七	六	七四	七	五五
小米	三	一六四	三	七三九	四	〇六八	五	九二	八	九四
糜子	一	七二三	一	九四六	一	六四二	—	—	—	—

張心一氏「中國農業概況」估計所載

種	植	面積	積(以千畝為單位)	總	產	量	每	畝	產	量
小麥	二	二六七九	二	三〇九	八	九	—	—	—	—
大麥	九	七四	七	七三	七	九	—	—	—	—
高粱	一	九九七	二	八四五	一	四二	—	—	—	—
小米	四	一〇九	五	六六七	一	三八	—	—	—	—
玉米	五	一	一四	—	—	—	—	—	—	—
其他穀類	五	三七〇	六	一六七	一	一五	—	—	—	—

種	植	面積	積(以千擔為單位)	每	畝	產	量
馬鈴薯	一	三六	七	八四	五	七六	—
豌豆	一	九六	一	八六	九	五	—
其他豆類	五	八四	五	四一	九	三	—
油菜子	二	九二	一	五六	五	三	—
大麻	三	二六	二	四六	七	五	—
胡麻	三	四〇	一	四〇	四	一	—

(見開發西北三卷二期合刊)

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

四 寧夏農業概況

寧夏各縣主要農作物之產量，據傅作霖氏寧夏考察記所載（民國二十二年度）如左（單位石）

	寧夏寧朔	中	寧平	羅金	積靈	武鹽	池豫	旺磴	口合	計
糯米	11,000	11,000	6,000	11,000	11,000	11,000			11,000	11,000
白米	6,500	10,000	1,000	6,000	6,000	10,000			6,500	6,500
黃米	6,000	10,000	2,000	6,000	3,000	7,000	11,000	16,000	5,000	103,000
小米	4,500	10,000	8,000	8,000	15,000	6,000	11,000	11,000	500	103,000
小麥	11,000	11,000	15,000	16,000	11,000	10,000	6,000	1,500	1,500	161,000
大麥	3,000	10,000	1,000	1,000	4,000	3,000				11,000
胡麥	1,800	1,000	2,000	1,000	2,000	3,000			300	11,000
豌豆	1,800	1,000	2,000	1,000	2,000	3,000			300	11,000
豌豆	1,800	1,000	2,000	1,000	2,000	3,000			300	11,000
扁豆	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000			1,000	6,000
青豆	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000			1,000	6,000
黃豆	5,000	1,000	3,000	3,000	3,000	4,000			6,000	11,000
黑豆	5,000	1,000	3,000	3,000	3,000	4,000			6,000	11,000
高粱	10,000	8,000	6,000	10,000	10,000	10,000			10,000	44,000
綠豆	5,000	1,000	6,000	5,000	1,000	3,000			5,000	11,000
麻子	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000			1,000	6,000
蕎麥	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000			1,000	6,000
大豆	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000			1,000	6,000

芝	入	八	三〇	二〇〇				三元
瓜子	〇	三〇	五〇	元	一〇			三元
玉	一〇〇	一五	六〇	四	一元			二元

第二目 墾務

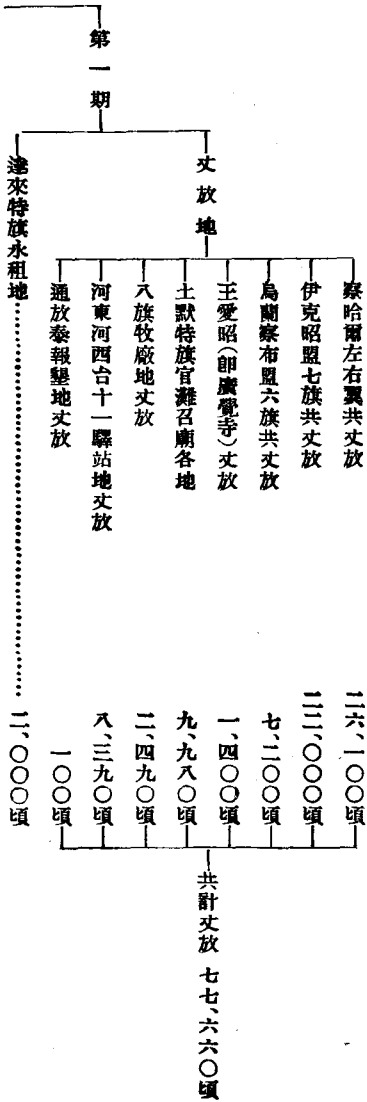
一 綏遠墾務概況

綏遠墾務之沿革，已見於本年藍二十四年續編，計開墾初期，共丈放各項地畝七萬七千六百六十頃，及歸公永租地二千頃。直至民國四年，僅增丈放一千一百頃。十四年改組察綏兩區墾務機關，推進墾務，至十九年，共報墾地十萬三千二百一十餘頃，共丈放十一萬七千一百五十餘頃。民國二十年冬季以後，墾務上分兩種辦法，一面整頓舊墾，清理舊欠，查報餘荒及新荒，而丈放地畝；一面計劃屯墾，創造新村。總計綏遠墾務，截至二十一年度止，共丈放各項地十九萬五千九百一十餘頃。（二十二年七月分撥屯墾辦事處地二百八十三頃九十畝未計入）及永租

地二千頃，各項報墾未放地，尚有二萬五千八百二十餘頃。此外據綏遠墾務計劃調查，綏遠未墾地尚有一百七十餘萬頃，至少能救濟失業人民七百餘萬丁口，能增加生產五百萬萬零一十萬元，能增加田賦五百餘萬元，而林牧漁礦各副業尚未計入，可知綏遠農墾前途尚有無限之發展也。茲將綏遠自清末迄今放墾頃數列表如下：

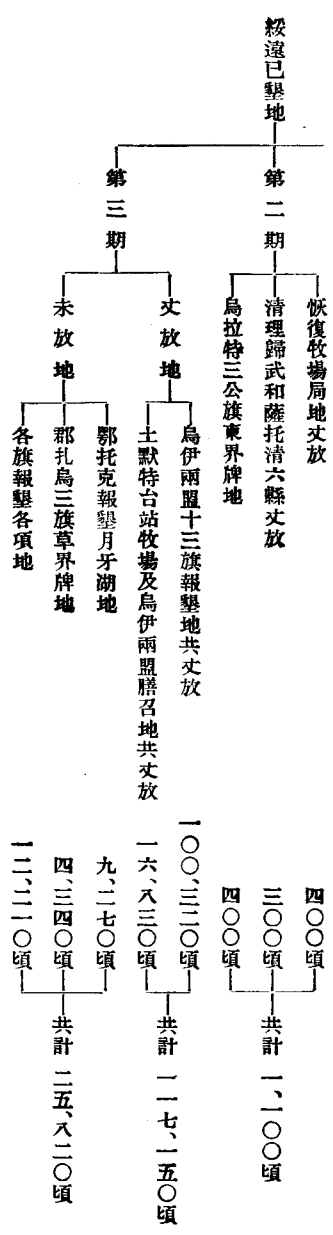
綏遠墾務三期報墾丈放頃數統計表（據西北問題一卷一期）

- （自光緒二十八年至宣統三年為第一期）
- （民國元年至四年為第二期）
- （民國四年至二十一年為第三期）



中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

(T) 10



二 察哈爾墾務概況

察哈爾墾務，在前清綏本視同一區，民國後，於四年設立墾務總局，其時政局安定，故領戶踴躍，成效大著。自十三年後，政變迭興，土匪肆擾，已墾之地，復多荒

蕪。十六年，墾務局裁併於實業廳內，改設放墾、清丈、收價三處，但荒亂之局，毫無成就，至十七年，三處撤消，墾務乃完全停頓。總計前後二十餘年，口外六縣所放之地，計共約四萬九千餘頃，茲列表如下：

察哈爾口外六縣墾務統計表（單位畝）

項別	縣別	張	北多倫商都沽源寶昌康保總計					
			北多	倫商	都沽	源寶	昌康	保總計
已墾	水田	5,000	3,600,000	1,000,000	450,000	400,000	83,700	4,516,700
畝數	園藝		5,000				200	5,000
總計	荒地	1,571,000	1,311,000	1,000,000	450,000	400,000	83,700	4,916,700
未墾	荒山		5,000	1,000,000	1,000,000	100,000	不計畝	100,000

察哈爾省內盟旗可墾荒地概況表

(見開發西北三卷一二期合刊)

地 名	畝 數		總 計
	城 灘	其 他	
錫 林 果 勒 盟 達 里 岡 崖 牧 場 十 二 旗 羣	5,000	30,000	35,000
在十二旗羣之北	1,000	10,000	11,000
錫盟十旗之正北	1,000	1,000	2,000
沿張北多倫康保商都等縣北邊一帶	100,000	30,000	130,000
約三六大畝地二百三十六萬二千八百四十四頃	50,000	67,750,000	67,800,000
約三六大畝地二百三十六萬二千八百四十四頃	1,000	7,000,000,000	7,001,000,000
約三六大畝地二十八萬六千五百三十三頃	1,000	1,000	2,000
此為軍馬牧場	1,000	1,000	2,000
該地雖在內蒙極北鄙已與外蒙接壤然土質較錫盟尚優故宜改牧為墾	1,000	1,000	2,000
土質與錫盟相似亦多砂礫	1,000	1,000	2,000
此係八旗四羣界內歷年放墾之餘荒散在各處地權仍屬於各旗羣	1,000	1,000	2,000
該盟全部共十旗由蒙古王公分界管轄統歸盟長節制土地所有權雖屬各旗但對外接洽悉由盟主主持	1,000	1,000	2,000
砂土參半雖不盡屬肥沃然可以墾種者佔十分之六	1,000	1,000	2,000
山河多泉流少預防旱災宜多鑿井	1,000	1,000	2,000
交通雖不便但彌望平原隨處皆行駛汽車惟遇沙漠則困難故交通工具除汽車外均以駱駝牛馬為代步	1,000	1,000	2,000
嚴寒雖盛暑早晚尚須衣棉蓋由人口稀少地氣閉塞所致如墾闢後必有變化也	1,000	1,000	2,000
與錫盟北部相等	1,000	1,000	2,000
與錫盟同惟距省更遠	1,000	1,000	2,000
與錫盟形勢略同	1,000	1,000	2,000
境內雖有閃電河上都河蘇爾濟河及黑河然平時流量甚小且山河佔多數故應鑿井引渠相並而行	1,000	1,000	2,000
距平綏鐵路二百至五百里不等汽車可通行而蒙人平日交通情形與錫盟相似	1,000	1,000	2,000
寒度較錫盟稍遜但植物發育期每年亦不過只有四個月	1,000	1,000	2,000

(見開發西北三卷一二期合刊)

三 墾夏墾務概況

墾夏墾務，現雖設有墾荒局，辦理墾荒事務，人民承領者實屬寥寥若晨星，未見成效。私人之經營墾殖事業者，僅一樂土公司，又因資本太少，經理不善，年有虧損，以致無移民移資之根本辦法耳。

幾難維持。據調查寧夏中衛平羅金積等縣，地接黃河唐徕美利七星漢延惠農諸大渠，可謂水豐草茂之地，而各縣荒地最少亦在萬畝之上。其不能推進之故，大數

中國經濟年鑑 第三編 第二十章 邊疆經濟

第三目 牧畜

察綏寧、遼野青蒼，水草豐肥，實天然遊牧之區，蒙人生計，專賴牧畜，故三省牧

畜事業，尤以各蒙旗草地為盛，其牲畜種類，以牛羊馬驢騾駝豬雞為主。
據察哈爾邊綏廳之統計，察省各縣主要牲畜如左：

縣別	牛	羊	馬	驢	騾
縣全	二五七	七、六五二	八七六	二六八	一八五
宣化縣	一一〇	二一、五六〇	一〇〇	一、九〇〇	七〇〇
蔚縣	一〇五	一二、四八〇	六三	一、〇四五	二二八
陽原縣	七八五	三、八二五	三四八	四五五	二八四
龍關縣	三〇	五〇〇	一五	一〇〇	二五
赤城縣	七、一一五	一〇、六二五	七六〇	一、〇四〇	一一八
延慶縣	二五〇	二六、三〇〇	一一〇	一、五二〇	一八〇
涿鹿縣	五六	二、五六〇	七〇	六三	一〇〇
懷來縣	一、六〇〇	三四、五〇〇	一、五〇〇	一八、〇〇〇	四、五〇〇
懷安縣	—	二、六〇〇	—	—	—
張北縣	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	—	五〇〇
沽源縣	一、三〇〇	一四、〇〇〇	二四〇	—	—
商都縣	一、八〇〇	一五、〇〇〇	一、二〇〇	三四〇	四五〇
康保縣	三、二二三	一三、七六五	一、七四五	三三〇	一六二
寶昌縣	五八三	一六、七二四	二四二	一一四	一五
多倫縣	×	×	×	×	×
總計	二七、二二四	二二二、〇九一	二二二、二七九	二五一八五	七、四五七

據綏遠建設廳二十一年之調查統計，綏省各縣主要牲畜如左：

縣別	馬	牛	羊	駱駝	騾	驢	猪	雞
歸綏縣	一八、二〇〇	二二、一〇〇	一一四、〇三〇	四二、八〇〇	四、八五〇	七、五二〇	二八、六八〇	
包頭縣	一、〇〇〇	五、〇〇〇	三九、一〇〇	一、五〇〇		四、〇〇〇		
薩拉齊縣	一五、二〇〇	二四、三〇〇	一二五、〇〇〇	一九、七〇〇		六、三二〇	二九、六〇〇	
豐鎮縣	二、九九四	四、三七〇	一四、六九〇	九五〇	一、八七〇	二四、二〇〇	四、一九〇	二八、五〇〇
集寧縣	九四〇	五〇〇	四、五〇〇	五、〇〇〇	三、六八〇	七二〇	三、六〇〇	
涼城縣	七、〇〇〇	五、〇〇〇	五八、〇〇〇		五、〇〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	七〇、〇〇〇
興和縣	四、九七〇	七、九八〇	一〇、四〇〇		三五、六〇〇	一、二〇〇	二、七〇〇	一七、二〇〇
陶林縣	一、九〇〇	二、一〇〇	七、八〇〇	八五〇	一、九二〇	一、二〇〇	一、九五〇	五、一〇〇
武川縣	八〇〇	四、八〇〇	二九、八八〇	六〇〇	六一	六〇〇	六〇〇	三〇、〇〇〇
固陽縣	二、五〇〇	四、四〇〇	二二、〇〇〇	一、二〇〇	一、〇二〇	一、六〇〇	一、三〇五	一、五二〇
托克托縣	一、五六〇	一、七〇〇	七八、〇〇〇		九六〇	一、八〇〇	二、九〇〇	
和林格爾縣	三、〇〇〇	五、〇〇〇	一四〇、〇〇〇		二、五〇〇	六、〇〇〇	一、二〇〇	九〇、〇〇〇
清水河縣	三〇〇	一、二〇〇	二、五〇〇		六〇〇	九八〇	八〇〇	五、〇〇〇
五原縣	九〇〇	二、五〇〇	一一、五〇〇	三七四	二八八	一、六〇〇	六、四三〇	三、四〇〇
臨河縣	一七、四〇〇	九、五二〇	三九、六五〇			二、八三〇	二五、八四〇	
東勝縣	七五〇	四、七〇〇	一一、〇〇〇		二、三〇〇	四、五〇〇	一、一五〇	
安北設治局	一、一五〇	一、二〇〇	三六、〇〇〇	九二〇	九八〇	一、五〇〇	八、〇〇〇	一、五〇〇
合計	八〇、五六四	一〇六、三七〇	七四六、〇五〇	七三、八九四	五五、〇五九	六四、七四〇	一、三三一、七四五	二、三三八、七二〇

(據西北問題一卷二期及開發西北三卷二期合刊)

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

又據中央農業實驗所之估計，察綏兩省之牲畜頭數如左（以千頭為單位）

察 哈 爾	畜					肉		備	考
	牛	馬	騾	驢	羊	豬	雞		
遠	二七五	九三	三七	六一	一七四	四、六五一	三九九	二、二五〇	—
綏	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

寧夏之牲畜統計，據傅著寧夏省考察記所載各縣主要牲畜如左：

縣	羊	牛	駝	馬	備	考
寧夏縣	二四、〇〇〇	一、〇〇〇	三〇〇	四、〇〇〇		
寧朔縣	四〇、〇〇〇	三、五〇〇	三〇〇	二、五〇〇		
平羅縣	三二、〇〇〇	五、〇〇〇	一、二〇〇	三、〇〇〇		
中衛縣	九五、〇六〇	八、五〇〇	三、五〇〇	四、〇〇〇		
金積縣	二八、〇〇〇	一、五〇三	一、五〇〇	五〇〇		
靈武縣	四五、〇〇〇	三、五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇		
鹽池縣	一五〇、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇		
豫旺縣	六〇、〇〇〇	六、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇		
磴口縣	五〇、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	三、五〇〇		
中寧縣						
總計	四七八、〇六〇	三五、五〇三	一四、八〇〇	二五、〇〇〇		

此縣由中衛劃出以上中衛之牲畜數目即二縣之總數

上述三省牲畜統計數值，僅指各縣局而言，各盟旗地之牲畜，尙未在其內。蒙地面積廣漠，且蒙人專以游牧為生，其牲畜亦當較縣局為多，惟無詳確之調查統計耳。

第四目 工業

一 概述

察綏寧等省，工業均極幼稚，除各項小手工業外，並無大規模之工廠，暨機器工業，因之亦無集合之大部份勞工團體，少數手工業工人，居常零星散處，多自作小工藝以謀生。手工業之最有成績者，察省爲製造毛帽毡毯及造紙等項，綏省爲

察哈爾省各縣民營手工業狀況統計表

毛毡皮貨麵粉木廠各業，寧省則絨絨毛毯，花紋精美，遠近馳名，實爲本省之特產，他如製造皮貨毛毡，亦較優良，此外則無足稱也。

二 察哈爾手工業概況

察哈爾手工業狀況，茲就最近調查實際情形，分別列表如次：

毛			製 紙 業				項 別	業 所 在 地
蔚縣	宣化縣	萬全縣	懷來縣	涿鹿縣	蔚縣	宣化縣		
五	八	六	三	一七	二一	八	家	
三、二八〇	二、五〇〇	五四〇	三、五〇〇	三、五五〇	五二、〇〇〇	四、〇〇〇	元	
毡帽	毡帽	毛 毛 毛 帽 鞋 毡	糙紙	白麻紙	草紙	麻紙	種 類	
一五、三〇〇	二〇、〇〇〇	六〇〇 四五一 六二〇	二、〇〇〇	一、五八八	一、二二〇	二五、〇〇〇	數 量	
〇頂	〇頂	五雙	捆	刀	塊	〇刀	總 出	
七、六五〇	八、〇〇〇	三、五〇〇	四〇、〇〇〇	三、二九二	一五、二二〇	四〇、〇〇〇	值 值	
東三省	本縣	本縣	本縣張家口 遠平津	張家口	北平	本縣	銷 場	
羊毛	羊毛	牛 羊 毛 毛	蒲 草	廢 紙	碎 麻	麻繩 草頭	種 類	
六、一五〇	二〇、〇〇〇	二、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二七、二〇〇	二七、二〇〇	四三〇、〇〇〇	數 量	
三、七九〇	四〇〇〇〇	四〇〇	三〇、〇〇〇	一、二一九	一九、〇〇〇	四、〇〇〇	元	
本縣	本縣	本縣	新保安縣	本縣	蔚縣	本縣	值 來 源	
六二	二一	三七	四〇	六〇	一八四	二〇	工 人 數	

繩 製			業 皮 製						業 織				
蔚縣	宣化縣	萬全縣	寶昌縣	赤城縣	陽原縣	蔚縣	宣化縣	張口市	寶昌縣	康保縣	懷來縣	涿鹿縣	陽原縣
三	九	三五	二	六	二	三	二六	二八	二	一	三	三	一
七、八〇〇	三、五〇〇	三〇〇	二〇〇	六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一八、二三五	五二、〇〇〇	四、一〇〇	一〇〇	四〇	二、〇〇〇	六六〇	三〇〇
麻繩	麻繩	麻繩	衣羊料皮	衣羊料皮	衣羊料皮	衣羊料皮	羊熟皮山	皮靴	毡帽	毛毡襪	毡帽	毡帽	毛毡帽
二五、八〇〇	二五、〇〇〇	二、五〇〇斤	四〇〇件	三〇〇件	三、〇〇〇件	四、五〇〇件	三〇、〇〇〇張	四五、〇〇〇雙	四、〇〇〇頂	二〇〇件	六、六〇〇頂	三〇、〇〇〇頂	四〇〇件
五、一六〇	五、〇〇〇	四〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	二二、〇〇〇	六七、五〇〇	九〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	三、〇〇〇	四〇〇	一、九八〇	七、五〇〇	四〇〇
本縣	本縣	張家口本縣	本縣	本縣	平津	張家口本縣	天津	蒙古	本縣	本縣	關本赤城龍	東北三省平	本縣
麻	麻	麻	羊皮	羊皮	羊皮	羊皮	羊皮	牛皮	羊毛	羊毛	羊毛	羊毛	羊毛
二八、九〇〇	三〇、〇〇〇	二、七〇〇斤	二、〇〇〇	六五〇	一〇、〇〇〇	三三、〇〇〇	三〇、〇〇〇	五、六〇〇張	一〇、〇〇〇	六〇〇	四、〇〇〇	一一、二五〇	一、五〇〇
二、三二二	三、〇〇〇	二五〇	一、四〇〇	一、〇〇〇	九、〇〇〇	三、六三四	七〇、〇〇〇	八九、六〇〇	一、七〇〇	二〇〇	四〇〇	五、〇六二	二五〇
本縣	蔚縣	本縣	本縣	沽源	本縣	張家口本縣	張家口本縣	蒙古	蒙古	本縣	各地縣	宣化縣	本縣
二七	四五	六五	八	二八	二六	八七	五一〇	一五〇	五	四	二四	六〇	七

業	
龍關縣	赤城縣
四	三
一〇〇〇	一、五〇〇
麻繩	麻繩
一、五〇〇	一三、〇〇〇
六〇〇	三、四〇〇
本縣	多本倫縣
麻	麻
二、〇〇〇	一五、〇〇〇
三〇〇	一、八四〇
本縣	張本北縣
五八	一九

察哈爾省各縣小工廠狀況統計表

(見開發西北三卷一二期合刊)

廠名	廠址	設立年月	性質	資本金額	工業種類	全年度產額		出品	人職數	工員數
						全年	總額			
俗民蛋廠	宣化縣城	民國二十年七月	商營	一五、〇〇〇元	打蛋青	八、〇〇〇斤	八、〇〇〇斤	元	八	四五
宣化縣城	宣化縣城	民國十九年十月	官辦	三〇〇	編物	二、〇〇〇個	二、〇〇〇個	元	三	二〇
宣化平民習藝所	宣化縣城	民國九年八月	官辦	三、〇〇〇	染織	二、〇〇〇疋	二、〇〇〇疋	元	七	一五
蔚生工廠	蔚縣西關	民國七年十月	官辦	二、九二一	染織	一、五〇〇疋	一、五〇〇疋	元	三	四七
赤城縣	城內廟	民國十三年十月	官辦	三、五〇〇	毛織	七、〇〇〇斤	七、〇〇〇斤	元	七	一五
龍關縣	縣城西關	民國二十二年七月	官辦	一、三〇〇	毛織	五、〇〇〇斤	五、〇〇〇斤	元	一	三

(開發西北三卷一二期合刊)

三 綏遠手工業概況

綏遠手工業狀況，據調查所得，各縣概況如左：

歸綏縣 本縣工業，皆係手工業，並無大規模之工廠，茲分述如次：

1. 麵粉業 有製麵公司二家，一則利用水利，一則利用電燈公司電力，規

模俱小，出品亦不多。

2. 毛毯業 從事該業者，計有六七家，年產一萬六千七百餘方尺。

3. 毛毡業 從事該業者，有四五家，年產絨毛毡二萬餘方尺，此外尙產毛帽毛鞋等。

4. 毛布業 紡織毛布者，有五六家，但資本無多，並無工廠設備，每家僅置有木機三四架，年產毛布二萬餘尺。

5. 毛單業 有製毛單者二三家，年產毛單二千餘塊，其製法以牛羊驢馬等種毛紡織而成，又有製造毛口袋者數家，其製法與毛單同。

豐鎮縣 縣內工業，種類繁多，惟皆係小本營業，如鐵木泥染各種工業，均係手工製造，不能利用機器，死守成法，不加研究。茲略舉數種，分述如左：

1. 鑄鐵爐 共有三家，其資本額各約三百餘元，大宗製品爲鍋、爐、犁等物，原料以收買破鍋爐碎鐵等爲最多，每年營業數最多者達四千餘元。

2. 打蛋廠 營此業者，計有三家，其資本額各爲八九千元，製造品分蛋白、蛋黃兩種，其營業狀況，年可達萬餘元，多者每日打蛋約六七千個。

3. 木廠 此業共計十五家，其資本額至多一千元，至少二三百元，普通五百元，普通以農具、傢具、棺材等爲大宗，每年營業數最多六千元，最少八九百元，普通約在二三千元。

4. 石廠 營此業者計有二家，其資本額各約一百元，出品以礮、磨、石條、石臼、石碑、欄杆等爲大宗，每年營業數各在一千元左右。

興和縣 本縣工業，種類數多，然均屬小本經營，無從發展，除縫紉、打鐵、馬鞍、銅鉛店等爲一二人力經營外，其他如毡房、皮房、磨房、跌房等，亦全由私人經營，資本最多者三百元，最少者二十元，普通百十元。

集寧縣 除小規模之成衣、打鐵、木作、釀酒、製油外，其可舉述者，僅皮毛之手

工業而已。昔縣內有製皮業七八家，資本最多一千五百元，最少二百元，普通五百元，製造熟羊皮、熟狗皮，每年營業數最多者五千元，普通千餘元；又毛貨業四五家，資本最多者一千元，最少者百十元，普通二三百元，以製毡帽、毛鞋、毛毡等，每年營業數最多者千餘元，普通僅二三百元。

涼城縣 如成衣、打鐵、木作、磨房、馬鞍、銅器等店，均係小手工業，無舉述之必要。最著名者爲紅毡毛鞋各業，其資本額有七百元者，亦有一千元者不等，出產數量，紅毡年約五百餘塊，毛鞋年約三千餘雙，惟其製造方法，沿用舊規，出品無多。

陶林縣 本縣工業，極爲幼稚，可舉述者有毡房二家，資本額約八九百元，出產以羊毛、毛毡、毛鞋、毡帽爲大宗，其營業狀況，僅能維持生活，無利可求。

包頭縣 工業惟麵粉廠、毛毯廠、與甘草廠等，規模略具，設備較全。以麵粉廠爲最大，置有新式磨機，並用電力製麵。其最著者：一爲電燈麵粉股份有限公司，成立於民國十九年，資本八萬元，（一說三十萬元）股東多直、晉等省人，經營電燈製麵二業，於十九年五月開始發電，製麵部份於二十年開始，所置德國清麵機、篩粉機、及美國電動機，價值共約六萬餘元，據云麵粉營業不佳，自開辦以來，已虧累三萬餘元，僅有電燈營業，尙足維持現狀而已。一爲晉源西油糧麵粉公司，於十七年七月開辦，資本十萬元，股東多山西籍，除製麵外，兼營收買油糧之業，所置磨粉機，價值約二萬四千餘元。毛毯爲縣內著名工業，計有毛毯廠二三十家，資本大者二千元，小者一二百元，全年所織毛毯約有二萬二千餘方尺，其總值約計三萬九千餘元。甘草廠一家，名永茂源甘草公司，十九年十月成立，爲芬蘭人維利俄斯所創辦，資本約二三千元。

武川縣 該縣有石楠工廠一處，資本三千餘元，每年約產三十萬斤，獲利在

千元以上，此外皆製造日用品之手工業而已。

薩拉齊縣 薩縣工業，不甚發達，現今利用木機以製造物品者，僅有毛織工廠四處，其他如黑皮房，木泥鐵匠等，均係手工業，無可贅述。

托克托縣 托縣工業不振，並無工廠之設置，亦無團體行會之組織，如毛毯、紅柳篩筐、鐵器、本器等業，均係小本經營，獲利甚微。

清水河縣 工業極為幼稚，祇有燒盜業、麻紙業、毛品業、鑄鐵業，以至製粉業十餘家，資本至多五百元，普通百餘元，獲利甚微。

此外如和林、固陽、東勝、五原、臨河、安北、沃野等縣，工業均極不發達。如縫紉、打鐵、木作、馬鞍、銅器等業，規模極小，無甚可述。

(見開發西北三卷一二期合刊)

第五目 商業

一 察哈爾商業概況

察哈爾全省各縣商業概況統計表

縣別	商號		資本		店員		全年內營業總額	
	獨資	夥資	獨資	夥資	數	學徒	數	全年內營業總額
張家口市	六二〇家	七七九家	三三三、八六五元	四二九、四〇〇元	六、四二一人	三、三六六一人	一一、〇五九、三四六元	
萬全縣	四九	二	四二、五〇〇	五、五〇〇	一〇七	九〇	五二、九〇〇	
蔚縣	二〇一	一五二	九六、九四〇	一一二、一九〇	三、五九九	六二	一、〇九一、八七〇	
宣化縣	二九	六二	三三、五〇〇	一一三、六〇〇	四八八	一七八	四三三、六五〇	
陽原縣	一九	二五	二〇、四〇〇	一六、四〇〇	一一〇	一〇八	三三、六〇〇	

察哈爾商業，以張家口為最盛。張家口為通庫倫之唯一要道，自前清咸豐十年與庫倫同時開為商埠後，與庫倫通商，日益頻繁，成為內地與外蒙貨物交易之最大商埠。在民國七年以前，僅恃牛車駱駝為運輸工具，當時大境門外之西溝外管業，(專營口外蒙古商業者)即達一千四百百家，每年貿易額已有口秤一萬二千兩之鉅。自民國七年汽車路通後，交通愈便，商業益盛，當時張垣大小商號有七千餘家，銀號三十餘家，進出口貿易額達三萬萬元，是為鼎盛時期，有塞北上海之稱。自外蒙變亂後，商業遂衰，十八年中俄絕交以來，張庫交通，幾完全斷絕，張垣商業，乃一落千丈，察省經濟頓形衰枯。今大境門外西溝一帶，昔日繁盛之市廛，已成荒涼之僻巷，外管僅餘五六家，亦惟一二人看守門戶，誠不勝今昔之感。現在商人渴望恢復張庫通商，以救經濟之凋敝，但蘇俄統制外蒙經濟，已有基礎，外蒙人民所需，除少數物品現尚仰給中國外，大多數已由蘇俄供給，即使張庫通商實現，華貨能否暢銷，尚難樂觀。最近全省商業概況，據察省建設廳調查，約如下表：

附註	龍關縣	延慶縣	赤城縣	懷安縣	涿鹿縣	懷來縣	張北縣	商都縣	沽源縣	康保縣	寶昌縣	總計
一、本表材料係根據二十二年終實況編列	四三	二四	—	七六	三八	二四四	一二六	四六	—	一九	一七	一、五五一
二、多倫縣因特殊情形未能舉行調查商業概況無從統計編列	—	三八	—	七九	七〇	一三一	一七四	七一	二九	三五	四	一、八〇五
	—	三八	一五四	七九	一四、九〇〇	五三八、五〇〇	九六、七二三	八、四五〇	—	二、八〇〇	三、七〇〇	一、二三五、八〇〇
	—	八〇〇	—	三三、三六二	一一六、八六五	一、一一、〇〇〇	一三七、三〇〇	二九、〇七八	九、九〇〇	八、二〇〇	八〇〇	二、二四八、八一六
	—	一八、六五〇	一〇一、五〇〇	三七、四三三	八二二	三、六五七	九四一	二七三	一五七	二五一	九六	一八、三九四
	—	二四九	六一〇	五六〇	五六〇	二七〇	四二二	四二二	一八	—	一〇	七、一九三
	—	四二	三八一	四五七	四七五	一、二八九	九二	四二二	四二	—	—	二七、四五五、七七六
	—	一七三、九五〇	一、七六二、一〇〇	九三三、二三〇	六七八、〇七五	一〇、二〇〇、四〇〇	四七五、六四五	一五六、六〇〇	四二、二〇〇	一〇六、九〇〇	一三、八〇〇	
	—	六三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

二 綏遠商業概況

綏遠商業，以歸綏包頭為盛。普通商人所稱為東口西口，東口即張家口，西口即包頭，張家口為察省與外蒙通商要道，而包頭則綏省與外蒙通商之要道也，從前商務之盛，與張家口有並駕齊驅之勢。自外蒙交通斷絕，張家口一落千丈，而包頭尚能維持不墜者，賴有西通新疆與甘肅之一路。自隴海路發展，陝甘公路便利後，甘肅貨物，有一部份由陸路經陝西至內省，加以河道航行，有種種阻礙，運輸大

減，包寧汽車公司，亦於數年前停駛，寧夏貨物亦少。而希望最大者為新疆，因新疆大宗貨物，惟此一賂也。惟新疆貨物受經濟政治及交通影響，運往內地者日少，然以最不景氣之十九年至二十三年間統計之，由新疆運赴綏遠出口之土產貿易額，尚達五百四十四萬六千四百元，（內羊腸一項即值二百四十萬元）由津綏運赴新疆之日用品貿易額，達二百七十一萬九千零六十二元，可知新疆運關係之重大。但自新疆政變，交通完全斷絕，包頭歸綏之商業，乃大受影響，加以蘇俄

四土鐵路成後，圍繞新疆西境數千里，貨物運輸，異常便利，而新綏汽車，反因新變被阻，近雖恢復行駛，然亦僅能通至哈密，未能直達迪化，加以運費奇昂，限制種種，

新綏商務，仍無昭蘇之望。全省商業概況，據最近調查，約如下表：

綏遠全省各縣商業概況統計表

縣別	商號	家數	資本總額	夥友總數	全年輸出物總值	全年輸入物總值
歸綏縣		五四九家	一,二二四,二〇五元	九,三八九人	六六六,五〇〇元	三,四〇七,五五〇元
豐鎮縣		三八九	四六九,三〇〇	三,二五六	四七七,二一〇	三二七,三三一
包頭縣		二二八	六七〇,一〇〇	三,四五九	三四〇,二四一	三五,三一八,一九二
集寧縣		四四	二二,四七〇	二六八	五三〇,四六八	一七六,七〇九
固陽縣		一八	三,四四八	五〇	三五九,三二二	七〇,二五二
清水河縣		二九	一四,四二〇	三三三	九四,二五〇	一四,四三四
五原縣		四九	五六,〇〇〇	三八七	一二九,三三三	六七,三三一
陶林縣		四〇	五六,六〇〇	四三六	二一三,二八三	二〇七,七七〇
臨河縣		八一	三九五,七〇〇	一,三九〇	一,三二四,五二七	七八七,八四八
薩拉齊縣		二八	四四,五七〇	五四七	二,七一〇,八七一	八二五,八五二
托克托縣		六八	四四,四〇〇	五五八	一〇八,七二五	一五九,二四五
托縣河口鎮		五〇	七九,六〇〇	五四八		
涼城縣		三三	一四,四五〇	二〇五	四九六,〇九九	六四〇,〇八三
東勝縣		一一	五九,〇〇〇	七八	五九,七二一	
興和縣		四三	三五,七五〇	二九九	一七九,七二一	一五四,六八一
武川縣		八九	三八,〇三四	三四一	一,〇一二,八九七	三三四,七四五

和林縣	四八	一七、六〇〇	一六六	一一八、九九二	五四、二二〇
安北設治局	四七	八、一五〇	一四六	九一八、〇九〇	三五、三二八
沃野設治局			五二、二六五	九、七四五、四八五	二、三六〇
總計	一、八四四	三、二五四、七九七	二一、八五六	九、七四五、四八五	四二、五八三、八二一
附註	本表商號家數資本總數夥友總數三項係據開發西北三卷一二期合刊填列沃野設治局未經調查故關至全年輸出入總值兩項則係據西北問題季刊一卷二期所載填列東勝縣輸入總值未據查載故暫闕				

三 寧夏商業概況

寧夏全省商業，以省會寧夏為中心，計有大商戶八家，共資本二百五十萬元有奇，中商戶四十餘家，共資本一百五十餘萬元，小商戶三十餘家，共資本三十餘萬元。其次當推吳忠堡，該地雖係一鎮，因其介乎金積靈武兩縣之間，商業亦頗繁盛，計有大小商戶四十餘家，共有資本約一百萬餘元。再次則為中衛，該縣係本省通甘涼蘭州之要道，位於黃河左岸，商務尙稱發達，計有大小商戶四十餘家，共有資本八十餘萬元。除以上三商業區外，其他各縣之商號，大多規模狹小，進出口貨，皆無直接採辦之能力，不過上列三處之分銷所及採辦場而已。全省商業以布疋為大宗，烟土次之，皮毛又次之，藥材又次之，其他雜貨又次之，至於錢莊銀行，則絕不經見，當舖以前尙有六家，今則完全停業矣。茲將二十二年度進出各貨調查統計於左：

口	種類	數	值	
			量	價
出	煙土	三、〇〇〇、〇〇〇兩	二、四〇〇、〇〇〇元	
	細羊皮	二〇〇、〇〇〇張	六〇〇、〇〇〇元	
	粗羊皮	四〇〇、〇〇〇張	三〇〇、〇〇〇元	

入口貨物					出口貨物				
糧食	棉花	煙草	雜貨	綢緞呢絨及化粧品	布疋	髮菜	羊毛	甘草	枸杞
七、〇〇〇擔	一五〇、〇〇〇斤	一、五〇〇擔	二、五〇〇擔	五〇〇擔	七、〇〇〇擔	一〇〇、〇〇〇斤	一、五〇〇、〇〇〇斤	一、五〇〇、〇〇〇斤	一、五〇〇擔
三〇〇、〇〇〇元	一五〇、〇〇〇元	五〇〇、〇〇〇元	一、二〇〇、〇〇〇元	三〇〇、〇〇〇元	一、四〇〇、〇〇〇元	五〇、〇〇〇元	二四〇、〇〇〇元	五〇、〇〇〇元	四〇〇、〇〇〇元

(據傅作霖著寧夏省考察記)

第六目 礦業

一 察哈爾礦業概況

察哈爾之礦產，以煤鐵硫磺及食鹽為最多，煤礦埋藏尤豐。據估計察省無煙

煤儲量約有一千七百萬噸，烟煤約四萬八千七百萬噸，共計五萬零四百萬噸，礦區面積達十二萬二千五百餘公畝。現已掘探者，皆係沿用上法，產量不多。茲將察

省各縣煤礦概況列於下：

名	稱	地	組	織	理	藏	量(噸)	礦	質	年	產	量(噸)
雞鳴山煤礦		宣化縣平綏路下花園站東三里	商	平綏路局管理	辦	一、二、六〇〇、〇〇〇	烟煤不良	七〇、〇〇〇				
寶興煤礦公司		宣化縣玉帶山福成地	商	辦		三、八〇〇、〇〇〇	烟煤不良	六五六、九一〇				
天興煤礦		宣化縣西南涿鹿縣西武家溝	商	辦			半烟煤	三三、〇〇〇				
恆升煤礦公司		張北縣土木路村	商	辦			無烟煤不良	五三、三二七				
成平煤礦公司		張北縣馬連塚村	商	辦			無烟煤	四三、八一				
德成煤礦		豐鎮縣牛青山	商	辦							(十八年)	一、二〇〇
開源煤局		張北縣西村地	商	辦			烟煤	六〇〇				
永興煤礦公司		陶林縣紅砂壩	商	辦							(十七年)	一、九二〇
永寧煤礦公司		集寧縣馬連灘	商	辦			褐煤	二、五〇〇				
協力煤礦		沽源縣古傍子	商	辦			烟煤	六〇〇				
集沙壩官礦		張北縣集沙壩	官	辦								現停
懷來入寶山煤田		平綏路新保安棧	商	辦		五、〇〇〇、〇〇〇	無烟煤	未採掘				
三成地煤礦		懷來縣入寶山石門溝	商	辦			無烟煤	二八、〇〇〇				
北平煤礦		懷來縣入寶山結子	商	辦			無烟煤	一、〇〇〇				
雙合地煤礦		懷來縣入寶山艾家溝	商	辦			無烟煤	三、四〇〇				
遼大煤礦		懷來縣入寶山	商	辦			半烟煤	二、三〇〇				
世合地煤礦		懷來縣入寶山紅砂溝	商	辦			無烟煤	二、六五〇				

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

(T)二四

寶成地煤礦	懷來縣白岔山水溝溝	商	辦		無烟煤	一,二五〇
永成地煤礦	懷來縣八寶山	商	辦		無烟煤	一,五五〇
北正環煤礦	蔚縣條子溝北正環	商	辦			一一〇〇
三順煤窩	蔚縣五岔村	商	辦			三,五〇〇
福祥煤窩	蔚縣花山	商	辦			一,〇〇〇
白土溝煤礦	蔚縣皇溝	商	辦			四一〇
寶明煤窩	蔚縣五岔村	商	辦			五一〇
老虎山煤窩	蔚縣五岔村	商	辦			
雙順煤窩	蔚縣高莊村	商	辦			一,四四〇
長益煤窩	蔚縣雙水澗	商	辦			三,一〇〇
廟梁煤窩	蔚縣白草窩村	商	辦			二四,〇〇〇
華北煤礦	宣化縣太平村	商	辦			
協豐煤礦	宣化縣黃土灣	商	辦		烟煤	五,〇〇〇
原豐煤礦	宣化縣紅砂石山	商	辦		烟煤	三,一〇〇〇
復興煤礦	沽源縣古子坊	商	辦		烟煤	
張拐子溝煤窩	蔚縣張拐子溝	商	辦			
張下煤礦	懷來縣八寶山	商	辦		半烟煤	一一〇〇
糜子溝煤窩	蔚縣糜子溝	商	辦			九,〇〇〇

(見新蒙古月刊四卷五期)

二 綏遠礦業概況

綏遠礦產，現已探知者，計凡六種，即煤、石棉、水晶、鐵礦、鹽、礬，而鹽礬二者例不屬於礦，茲以其出自地面以下，勉強納之。然此六礦中，除煤外，又僅鹽礬在本省頗占經濟地位，故嚴格言之，綏省礦產，不過鹽礬與煤而已。鹽礬正當產地在河套內，即伊盟各旗地，或含於各死水之池潭中，或著於平原沙土之內，各縣除山地外，凡大平原地，亦多含之，雨露之後，樹根草梗，多結晶霜，即鹽礬隨水分自土中上潤而結者。故察綏寧各縣，均產土碱土鹽，銷行頗廣。煤炭隨大青山脈展佈，大青山脈由四徂東，橫貫綏省中部，延綿一千餘里，凡大青山所經諸縣，無不有煤，似係一整片煤田，被大青山隆起而突出者。煤質為油質烟煤（土名大炭）及無烟煤（土名

明炭）凡大青山脈間火成岩附近之煤，常為無烟，煤層亦較錯亂，離火成岩遠處者為有烟，大體層厚平行。就現在所知，本煤田之中心，均認為在固陽之石拐灣一帶，跨固陽包頭薩縣之間，延長幾五十里，以近平綏路線，採之者衆，故作如是觀，而究係中心與否，尙難確定，因包頭以外，固未曾著實一探也。煤炭亦為本省之特產，其產地大都在大青山脈以外，現所知者均在近伊盟之地，雖地勢平坦，採掘甚易，惟以距鐵路太遠，黃河又難為力，不能外銷，關於本地，遂與他煤同等不為人所珍視。全省煤質，均係土法，無一有機械之設備者，實因銷場不大，無用乎增高產額也。茲將綏省各縣旗礦產概況及煤炭產銷情形分別列表於左：

縣 旗		名 稱	產 處	地 狀	情 况
豐 鎮 縣		雲 母	官村車站東南十里之天皮山	尙未經人領採	
		鹽	鹽池有二一為第二區岱海泊一為第三區黃旗海子	兩處各有鹽鍋十餘口每年共產一萬五千斤為附近農民副業因稅重未能遠銷	
		鹼	同上	年產一萬四千斤	
		煤	第二區裕厚莊	煙煤質劣現由土人採掘量不詳	
		銀	吉祥村	曾經晉晉公司開採現已停	
興 和 縣		雲 母	縣西岱青山天皮山	儲量頗大據估計約為百萬噸民國五六年間曾經土人採掘有天津商人收買現以時局關係停頓	
		水 晶	縣東大小青山一帶	現尙無人領採	
		煤	利豐鄉白腦包山梁一帶	煙煤質劣年產約五六百噸銷本地附近	
		石 墨	第三區叢麻營及馬蓮灘	尙無人領採	
		鉛	麻地溝等處	未採	

集寧縣		涼城縣		陶林縣		歸綏縣	
鹽	鹼	鹽	鹼	煤	水	鹽	煤
第三區之中特拉有鹽海一	第三區有鹼海四處	縣治西北十五里之馬連灘及壩王河以北一帶	縣東岱海泊	第三區營盤梁	第三區黃花屹洞	第三區有鹽池八十個	現分三大煤田(一)壩口子煤田(二)畢克齊煤田(三)察素齊煤田
土人熬製鹽質不佳產量甚小	土人熬製產量甚少	所產褐煤成分甚高民國十年土人張琦魏殿臣等領探名永寧煤礦公司資本五百餘元現有直井一每日可出煤一千二百餘筐每筐約重三四十斤共合二十九公噸全年約出一萬噸上下	產量甚小	產煙煤現有土人張耀斗領探	除水晶外尙有綠寶石清時曾採現已封禁然私採者仍多	第四區有鹽池三個	亦名黑牛灘煤田(三)察素齊煤田
						第四區全年共出鹽二萬三千餘斤	縣城東二十里
						產石楠甚豐尙未開採	大青山脈之南白石頭溝附近
						曾採現封禁	縣城東二十里
							亦名黑牛灘煤田(三)察素齊煤田

(一)屬下侏羅紀地層大致向東北傾斜面積約三十二平方公里為牛煙煤層厚數寸至尺許灰分甚高礦產有試探數處因層薄灰重殊經濟價值(二)屬下侏羅紀岩層傾角約二十度至七十度厚半公尺假深五百公尺則儲量約為二十萬噸長約七十公尺探之西北多與隆及鳥樹層相連(三)凡珠爾木特柳家灣四大探帶均屬之為現在出煤最多之處(四)珠爾木特柳家灣屬無煙煤帶各煤層厚三尺至四尺現各探者均為煤礦(五)畢克齊煤田現探者均為煤礦(六)壩口煤田現探者均為煤礦(七)察素齊煤田現探者均為煤礦(八)畢克齊煤田現探者均為煤礦(九)壩口煤田現探者均為煤礦(十)察素齊煤田現探者均為煤礦

包頭縣		武川縣		薩拉齊縣	
石	第二區孔獨倫溝	鹽	第七區達不素潭村附近鹽池	石	石窩子及五當召一帶
鹽	本縣內各鹽池	鐵	本縣西北喀爾喀右翼地白靈廟北之白雲山	鐵	產地在第一區第三區河套內外其最盛者為板仲氣灘
白石粉	第四區沙爾開灣	煤	本縣煤礦可分三區(一)烏拉山南麓區在本縣第三區極力更廟後(二)河南區在第四區第七鄉地方又分爲兩處(三)石拐子區在縣治東北六十餘里(爲固陽石拐子煤田之尾段)	煤	產地在老窩鋪溝及後腦包
煤	長寬各三十里礦層散漫距包頭車站百餘里可通火車尚未開採	石	第七區達不素潭村附近鹽池	煤	縣北境大青山脈之南而屬第三區爲固陽石拐子大煤田之東南段現採之地有板甲氣村黑麻板水
煤	每年共產鹽二萬八千餘斤銷本縣	水	礦在第六第七區	煤	田之東南段現採之地有板甲氣村黑麻板水
煤	年產約五十萬斤運銷縣城及歸綏薩縣等地者約十萬斤代管石灰作粉飾牆壁之用	煤	本縣煤礦可分三區(一)西南區現探者有第八區之馬王廟第十區之六道垣(二)中區現探者有第八區之炭窩村(三)東南區在平綏路旗下營附近現探者東北之伏虎村又車站西北之康垣村亦有煤三四十處又車站南之靈溝有煤窩三處	煤	以上礦層亦鐵礦礦北平地質調查所之調查本礦含鐵在百分之五六十十二萬餘噸若用土法開採製成農具則可然不足以稱大礦
煤	千噸運銷包頭及歸綏等處(三)年產煤一千五百餘噸均由磴口車站運銷包綵	煤	本縣煤礦可分三區(一)西南區現探者有第八區之馬王廟第十區之六道垣(二)中區現探者有第八區之炭窩村(三)東南區在平綏路旗下營附近現探者東北之伏虎村又車站西北之康垣村亦有煤三四十處又車站南之靈溝有煤窩三處	煤	請諸岩層勻整離花崗岩遠爲煙煤其最佳處爲巴圖溝內郭豐店店煤層四最上之層最厚達二丈五尺稍夾頁岩惟岩質太鬆煤層傾斜近於垂直次之爲腦包溝之煤層二在溝北者厚一丈傾斜五十五至七十度在濟南者厚五尺東向延長不遠近水潤溝遇一斷層再次爲五當溝之煤
煤	諸量約二千餘萬噸尚未開採	煤	本縣煤礦可分三區(一)西南區現探者有第八區之馬王廟第十區之六道垣(二)中區現探者有第八區之炭窩村(三)東南區在平綏路旗下營附近現探者東北之伏虎村又車站西北之康垣村亦有煤三四十處又車站南之靈溝有煤窩三處	煤	以上礦層亦鐵礦礦北平地質調查所之調查本礦含鐵在百分之五六十十二萬餘噸若用土法開採製成農具則可然不足以稱大礦
煤	又有平津礦商領探然產額甚少共計不過年約千餘斤兩處之石棉均運銷平津	煤	本縣煤礦可分三區(一)西南區現探者有第八區之馬王廟第十區之六道垣(二)中區現探者有第八區之炭窩村(三)東南區在平綏路旗下營附近現探者東北之伏虎村又車站西北之康垣村亦有煤三四十處又車站南之靈溝有煤窩三處	煤	以上礦層亦鐵礦礦北平地質調查所之調查本礦含鐵在百分之五六十十二萬餘噸若用土法開採製成農具則可然不足以稱大礦
煤	曾採	煤	本縣煤礦可分三區(一)西南區現探者有第八區之馬王廟第十區之六道垣(二)中區現探者有第八區之炭窩村(三)東南區在平綏路旗下營附近現探者東北之伏虎村又車站西北之康垣村亦有煤三四十處又車站南之靈溝有煤窩三處	煤	以上礦層亦鐵礦礦北平地質調查所之調查本礦含鐵在百分之五六十十二萬餘噸若用土法開採製成農具則可然不足以稱大礦
煤	(一)爲無烟煤銷本縣(二)窩在土坡中煤質待味臭而烟大每年產量可供本地兩千戶之用(三)所產爲無烟煤除附近銷售外均運車站	煤	本縣煤礦可分三區(一)西南區現探者有第八區之馬王廟第十區之六道垣(二)中區現探者有第八區之炭窩村(三)東南區在平綏路旗下營附近現探者東北之伏虎村又車站西北之康垣村亦有煤三四十處又車站南之靈溝有煤窩三處	煤	以上礦層亦鐵礦礦北平地質調查所之調查本礦含鐵在百分之五六十十二萬餘噸若用土法開採製成農具則可然不足以稱大礦
煤	均由附近居民採取由平津商人來山收售	煤	本縣煤礦可分三區(一)西南區現探者有第八區之馬王廟第十區之六道垣(二)中區現探者有第八區之炭窩村(三)東南區在平綏路旗下營附近現探者東北之伏虎村又車站西北之康垣村亦有煤三四十處又車站南之靈溝有煤窩三處	煤	以上礦層亦鐵礦礦北平地質調查所之調查本礦含鐵在百分之五六十十二萬餘噸若用土法開採製成農具則可然不足以稱大礦
煤	所產之鹽每年不下百萬斤運銷包頭固陽武川等縣	煤	本縣煤礦可分三區(一)西南區現探者有第八區之馬王廟第十區之六道垣(二)中區現探者有第八區之炭窩村(三)東南區在平綏路旗下營附近現探者東北之伏虎村又車站西北之康垣村亦有煤三四十處又車站南之靈溝有煤窩三處	煤	以上礦層亦鐵礦礦北平地質調查所之調查本礦含鐵在百分之五六十十二萬餘噸若用土法開採製成農具則可然不足以稱大礦

周陽縣	鹽	石	水	煤	銀	托克托縣
第二區老爺廟坨下 第三區大鹽海子	第四區白彥溝山中	第一區銀號山 第四區塞林忽洞	第四區銀洞溝	可分二處(一)第一區煤田北段在第一區之興隆遠 塔密沁濼卜爾合一帶南段在第二區之興隆遠 村(二)石拐煤田在青南縣之連北本縣西等 端(三)頭齊兩縣北也深達本縣西等 山(四)深溝而諸山均係自包薩放火車運至沿路各城 現(五)著大齊兩縣北也深達本縣西等 山(六)深溝而諸山均係自包薩放火車運至沿路各城 市(七)深溝而諸山均係自包薩放火車運至沿路各城	各色水晶均產曾探現有人竊取	第一區之東西鹽坊村
在石拐東五里許有蘆頭七層其中二層各厚六尺至八尺煤質皆向東 傾斜與巴圖溝後山煤田相連層土開採現如大商所產之煤均用所產之煤 煙煤大小共十四處皆係土產除就地銷售外其餘均用所產之煤 土人採掘大小共十四處皆係土產除就地銷售外其餘均用所產之煤 煉成焦炭出售各礦之煤除就地銷售外其餘均用所產之煤 車站銷於各處	每月各產鹽一百餘擔	尙未開採	各色水晶均產曾探現有人竊取	年產約六千餘擔除供本縣之外餘多運售清水河及和林等縣	上(一)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 管(二)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 內(三)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 水(四)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 量(五)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 頗(六)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 大(七)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 常(八)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 因(九)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 以(十)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 停(十一)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘 工(十二)現探地距城南四五里為煙煤含硫頗多土人採取自用餘	年產約六千餘擔除供本縣之外餘多運售清水河及和林等縣

和林縣

鹽

第三區之前猛獨牧郭林一間房章蓋管子等地

年產約二百餘擔銷本縣

清水河縣

礆

撓爾板申圪報子廠汗忽洞等村

年產約六百數十擔銷本省各縣

鐵

在第四區之劉胡梁掛羅嘴等地

產於煤系中質量均不甚佳

陶磁土

第四區劉胡梁煤系中

現該區黑蒙溝有磁器三家所出磁器四座年出黑蒙盆缸磁器每六百餘萬個約一千餘萬掛嘴現有磁器四座年出黑蒙盆缸磁器每六百餘萬(每畝一百五十斤)

水

第一區楊家寨三王墓

玉

第一區後六盤

白

第四區石圪洞

除供本縣需要外運銷綏包者年約數千擔

煤

第四區劉胡梁掛羅嘴棟木溝黑蒙溝等處

東勝縣

煤

縣治東北十餘里之水頭溝

清光緒末年始採開創人爲本地杜姓現每日可出五十餘擔銷本縣

五原縣

煤

(一)第二區狼山脈萬和長
(二)烏蘭腦包鎮北烏補勒山溝

臨河縣

煤

(一)第二區北境之狼山脈
(二)第二區北境之義和久

安北縣

石

第二區崑崙獨溝後日子

水

第一區什那干

黑

第一區什那干格少溝

煤

大青山脈之煤田自本縣之北端起隨山脈而西展沿途均有露頭其在本縣境內者可分四段爲拴馬棒什那干烏蘭湖洞及四官井

斜

(一)拴馬棒產無烟煤區面積二十餘方里現爲漢南公司領採有斜井二煤層平整採取甚易工人四十名每人每日能出煤一公噸以上(二)什那干產烟煤區面積百餘方里亦由漢南公司領採有煤窩(三)烏蘭湖洞產無烟煤區面積百餘方里爲劉志大領採有煤窩(四)四官井產烟煤面積一百八十方里以上儲量超過一萬萬噸現由漢南公司領採有土窩一工人三十名

未

探採現有土窩一工人三十名

探

探現有土窩一工人三十名

探

探現有土窩一工人三十名

探

探現有土窩一工人三十名

探

探現有土窩一工人三十名

沃野縣	煤	縣北拉僧廟溝爾漢及毛爾哈嗎烏素三處	其中以拉僧廟及溝爾漢產銷頗旺多銷售於石嘴子一帶未採之煤已發現者在銀山之北卓子山之西係爾格斯太溝
烏盟四旗	銀	產地在銀山內	未採
烏盟達爾汗旗	煤	與武川交界之新地速力免地方有煤著	煤質不佳產量亦少
烏盟茂安旗	煤	貝勒廟東西及近旗府西南之山麓	有煤層露頭牽連數十里未嘗開鑿
烏盟烏拉特旗	煤	毛打不素及膠打不素二鹽渾	產額視雨水之大小而定雨量充足亦足敷本旗之用
	鹽	近固陽縣地有煤著數處	質量劣小
	煤	近固陽縣地有鹽灘二處	
	煤	中公旗府正南四十餘里那勒更地方	產烟煤質佳惟禁止開採
	石棉	產地在旗府正南大余大東烏拉山	
	綠菊玉石	產地在旗府西數十里習思太山間	曾有人私採現禁止
伊盟準格爾旗	煤	產地在旗府之南	面積甚大有烟煤及煨炭二種煨炭之產量較多質甚佳現由土人開採
伊盟鄂托克旗	煤	見沃野縣	
	鹽	最大鹽渾凡四(一)察斌達布素鹽渾(二)大碱鹽渾(三)苟池鹽渾(四)勝色池鹽渾	除察斌達布素所產之鹽以供蒙民自用外其餘三鹽渾所產之鹽銷售陝西靖邊定邊諸縣及鄂旗附近一帶
	碱	本旗以產碱著最大之碱渾凡九(一)大納林(二)小納林(三)哈嗎坨太(四)敖龍(五)察汗(六)巴彥(七)大克泊(八)小克泊(九)伊肯	前四渾全年可出淨碱五千四百擔現均無人採取察汗一渾全年可出淨碱一萬擔有人租渾採碱年納租金五千元質甚佳運銷陝甘察綏等省巴彥一渾現已採質稍次後三渾碱質不佳現無人租採
伊盟杭錦旗	鹽	有大鹽池亦名哈拉莽奈池或白鹽池	鹽質甚佳為伊盟各旗冠凡郡王達拉特準格爾札薩克等旗食鹽多取給於此

綏遠各縣最近一年之煤炭產銷概況如左：

縣別	煤類	產量(噸)	山	價(元)	至車站里數	銷場及由鐵道運出境外者(噸)
興和	煙煤劣	五五〇		三〇	集寧站 一二〇	銷本地
豐鎮	煙煤劣	不詳			官村站 二〇	銷本地
集寧	褐煤高硫	一〇,〇〇〇		二〇	集寧站 二〇	鐵路運外銷 一,〇〇〇
陶林	煙煤	一〇〇〇		三〇	福生莊站 三〇	鐵路運外銷
歸綏	無煙煤	四八,〇〇〇		二六	歸綏站 二〇—三〇	鐵路運外銷 一二,〇〇〇
包頭	煙煤及焦炭	一五,〇〇〇		三〇	包頭站 七〇—二〇	鐵路運外銷 一〇,〇〇〇
武川	無煙煤	一,五〇〇		三〇	燈口站 三〇	鐵路運外銷 一,三〇〇
薩拉齊	無煙煤	二,〇〇〇		三〇	旗下營站 五一—五	鐵路運外銷 一,五〇〇
	煙煤及焦炭	一,二〇〇		三〇	陶思浩站 三〇	鐵路運外銷 一,〇〇〇
		八,一〇〇		二五	薩縣站 三〇—六二	鐵路運外銷 二,〇〇〇
		二,六〇〇		二五	公積板站 三一—二七	鐵路運外銷 一,八〇〇
固陽	煙煤及焦炭	五〇,〇〇〇		一五—二三	公積板站 六〇	鐵路運外銷 三〇,〇〇〇
清水河		九〇,〇〇〇		二〇—三〇	包頭站	黃河水運銷包頭寧夏
東勝	煙煤	一,〇〇〇		〇九—一〇		銷本地
五原	煙煤	一,〇〇〇		二五		銷本地
臨河	半煙煤	三三五〇		三〇		銷本地
安北	無煙煤	三,六〇〇		二五		銷本縣及鄰縣
	煙煤	一,九〇〇		三〇		銷本縣及鄰縣

其他	煙煤及無煙煤	一,〇〇〇	二〇一三〇	銷本處及鄰縣
共計		二二七,七九〇		鐵路運外銷
				六〇,六〇〇

(見開發西北三卷二期合刊)

三 寧夏礦業概況

寧夏礦產現以煤炭食鹽為出產大宗。煤之產量以中衛、平羅、靈武為最。磴口、豫旺、寧朔次之。每年產量共約二千餘萬斤。鹽則寧夏五大特產之一。(鹽、甘草、枸杞、羔皮、髮菜。)佔本省出口土產第一位。除供給全省人民食用外。每年行銷陝甘兩省者約一千五百萬斤左右。產鹽地區計有：花馬池、惠安池、狗池、爛泥池、蓮花池、

同湖池、紅鹽池等處。鹽之質色約分青鹽白鹽兩種。青者味鹹。白者微苦。在產地每斤值洋二分至三分。運往銷地則需二角至三角。至金、銀、鉛、石油各礦。據開民國前後。均曾有人實地化驗。證明礦質成分。頗為豐富。惟迄今多未開採。殊為可惜耳。茲據傅作霖著寧夏省考察記所載。寧省礦產概況如左：

種類	產地	面積	估計	曾否開採	開採方法	礦質成分	產量(二十年)	價值(二十年)
煤	靈武縣磁營堡	三五、二八七	公畝	民國十二年六月開採	炭井分立洞橫洞均由人工掘挖	炭質佔一五五%	五、二六〇,〇〇〇	一一,七〇〇
煤	中衛縣上下沿河	三三、二八七		民國七年一月開採	洞為波狀由人工掘	炭質佔二〇〇%	三、七四〇,〇〇〇	九,四〇〇
煤	中衛縣、滅溝山	三三、三六七		民國十九年開採	同右	炭質佔一八三%	七、八二〇,〇〇〇	二、二二〇
煤	中衛縣、梁山	二八、四		民國十九年開採	同右	炭質佔一七五%	五、四〇〇,九〇〇	一、二二〇
煤	平羅縣汝箕溝	三、六八〇		清光緒年間開採	由人工掘挖	炭質佔一七五%	四、二五〇,〇〇〇	一〇,七〇〇
煤	靈武縣石溝堡	二五、七六三		民國二十年開採	同右	炭質佔一八五%	五、八四〇,〇〇〇	一四,六〇〇
煤	寧朔縣素峪口	一、三七五		未開採	土人間有偷挖者法與上同	炭質佔二〇〇%		
方鉛礦	寧朔縣黑影洞	七、八九		光緒年間開採今停辦	由人工掘挖後加以提煉			
銀	中衛廣武牛頭山	五、六七四		曾開採因款絀停辦	同右			
硫磺	中衛縣上下沿河			土人常有提煉者				

又據開發西北月刊二卷四期所載，寧夏鑛產概況如左：

石	賀蘭山							
天然鹼	鄂托旗擦拉哈湖及納林湖	周圍四十餘華里	清光緒年間開採	用人工掘挖不經提煉者為行銷本地之自然鹼塊	氯化鈉 硫酸鎂 硫酸鈉	六五% 二五% 三五%	每年約產一千餘萬斤	每百斤產地值洋一元三角
礮石	高臺寺五臺寺 得別墩張亮堡 鎮安堡王景堡 西馬營平羅		清同治年間開採	礮湖中瀆以水經日蒸曬三四日俟滿湖全陳六柱形之結晶體撈出曬乾即得	純體 水 土	六五% 三五% 五〇%	八歲礮湖產量各不相同但平均每年產均在千餘擔以上	每擔在產地可值洋一元餘
礮石礦	中衛縣上河沿			土人常有提煉者				

鑛名	出產地	帶開採方法
金	中衛沙壩頭鳴沙洲	未開採
銀	金積牛首山	未開採
鐵	麥梁山	未開採
石油	磴口平羅石咀	未開採
石英	各縣均產	人工開採
方鉛	寧朔中衛	人工開採
硫黃	中衛上下河沿	人工開採
礮石	中衛上下河沿	人工開採
硯石	賀蘭山	人工開採

又據開發西北二卷四期所載，寧夏省權運局公布二十二年度全省各鹽池產銷數量如左：

鹽池名稱	收鹽數目(斤)	銷鹽數目(斤)
中衛鹽稅局	六三〇、一三〇	五四七、六四四
同湖池鹽稅局	六一七、三六〇	六三三、二七一
紅鹽池鹽稅局	九二一、〇四〇	九二一、〇四〇
花馬池鹽稅局	二、六八四、二二〇	二、三四六、二四〇
惠安堡鹽稅局	三、四三二、四〇〇	二、七二五、七四〇
葉昇堡鹽稅局	五九六、七〇五	九〇二、三五六
定遠營鹽稅局	一、〇二二、五三二	一一七、三七〇
合計	九、八九四、二八六	八、一八三、六六一

第七目 財政

一 察哈爾財政概況

察哈爾財政，以前主要收入為釐金，而田賦反居於次要之地位。全省田賦之額，雖達六十餘萬元，而歷年實收僅有四十八萬元左右。至於釐金，在昔旺時，張庫

間往來貨物，其值年逾七千萬，收盤約有四百萬餘元之譜。自裁釐以後，乃專徵進口貨之銷場稅，年亦可得二百萬元左右，合田賦契稅等項約二百七十餘萬元，再加國稅一百萬元，出入尙可相抵。但自中俄失和，庫倫封鎖，致張家口商業一蹶不振，地方捐稅及張多關收入驟減，日積月累，以致收支不敷甚鉅。當局乃提高牙稅稅率，以增加收入，又將國稅交還中央，原有每月協餉亦由國庫撥付，此舉實行，察省每年可減七十萬元之負擔，收支自可相抵矣。

民國二十三年度察哈爾省地方普通歲入概算（單位元）

（歲入經常門）

科	目	概	算	數
第一款	察哈爾省地方普通歲入		三、五二三、九〇三	
第一項	田賦		四九四、六八〇	
第二項	契稅		一〇七、一八六	
第三項	營業稅		一、二〇三、一六三	
第四項	房捐		六〇、〇〇〇	
第五項	地方財產收入		八、九五二	
第六項	地方行政收入		二九七、三七一	
第七項	補助款收入		九七四、〇六四	
第八項	其他收入		三七八、四八七	

民國二十三年度察哈爾省地方普通歲出概算（單位元）

（歲出經常門）

科	目	概	算	數
第一款	察哈爾省地方普通歲出		三、二九〇、一八八	
第一項	黨務費		四四、六二八	
第二項	行政費		六九三、七二〇	
第三項	司法費		一八八、三三三	
第四項	公安費		三七四、八五六	
第五項	財務費		三五二、四二七	
第六項	教育文化費		三六八、四一七	
第七項	實業費		一一、七五六	
第八項	交通費		七、四八八	
第九項	衛生費		五〇、三〇四	
第十項	建設費		四八、九九四	
第十一項	協助費		八二〇、〇〇〇	
第十二項	撫卹費		四、八〇〇	
第十三項	預備費		六六一、〇六四	

（歲出臨時門）

科	目	概	算	數
第一款	察哈爾省地方普通歲出		二、三三三、七一五	
第一項	黨務費		四、〇〇〇	
第二項	司法費		一一、七九五	

第三項	財務費	一、〇二〇
第四項	教育文化費	一六、九〇〇
第五項	實業費	一〇〇、〇〇〇
第六項	建設費	一〇〇、〇〇〇
普通歲出經臨合計		三、五三三、九〇三

二 綏遠財政概況

綏遠財政，向以釐金為大宗，年可收一百二十餘萬元。裁釐以後，開辦營業稅以為抵補，惟以外蒙商路斷絕，西路常受時局影響，以致商業蕭條，營業稅收入年不過二十餘萬元，抵補裁釐損失，所差殊鉅。田賦亦為綏省財政之主要收入，額徵為五十餘萬元，歷年實收不過四成左右，後經整理，亦僅徵至六成，約年收三十餘萬元，再加以性捐各款年約五十餘萬元，每年所入不過一百零九萬餘元，至於支出政教各費年需一百四十餘萬元，若合國庫收支合計，在二十一年度統計，收入二百三十餘萬元，而支出達三百餘萬元，每年虧累在百餘萬元以上。綏省財政困難之所在，稅捐減收固不失為主要原因，而負擔軍費額之過鉅，亦不能忽視。自二十一年以後，綏省負擔軍費逐年有增，現時規定之數，為每月二十六萬元，全年合計在三百萬元以上，現雖月減四萬五千元，為數尚鉅。歷年綏省財政之能支持，最重要者厥為禁煙稽查處之挹注，該處每月雖有十餘萬元之收入，但不足抵補所負軍費之額，省庫尚須負擔大部，結果祇有向督省借債或拖欠了事。綏省地方概算，歷年皆未見有所公布，惟據上文之敘述，亦可略見綏省財政困難之所在及其近況矣。

三 寧夏財政概況

中國經濟年鑑 第三編 第二十章 邊疆經濟

寧夏財政，平時收支不敷年達一百五十六萬七千九百二十餘元，支出大部為軍費，收入方面即以善後罰款與臨時維持費為大宗。善後罰款即鴉片罰款年可收二十餘萬元，臨時維持費即有類乎釐金，年可收五十餘萬元之譜。現時寧省當局頗致力於財政之整理，若清丈土地，劃一課稅等事切實實行，其最近之要政即為力求財政公開，寧夏之徵收糧款均以區公所任其事，所有經徵數目，從無公開報告，浮收移用，在在皆有，於是財廳訓令各縣轉飭按月公告，以示公開，而樹廉潔之風。近年寧夏之預概算尚皆能收支適合，但事實上則以軍費之關係常多虧累，其收入以善後罰款及臨時維持費為大宗，就正當理財之道而言，似須改絃易轍也。

民國二十三年度寧夏省地方普通歲入概算（單位元）

（歲入經常門）

科	目	概	算	數
第一款	寧夏省地方普通歲入			一、五三六、七四八
第一項	田賦			六〇六、四〇一
第二項	契稅			一七、九二二
第三項	營業稅			七八三、三八八
第四項	地方行政收入			七八、二二六
第五項	地方財產收入			一、八二二
第六項	地方營業收入			一八八、四四〇
第七項	其他收入			一三九

（不列臨時門）

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

(T)三六

民國二十三年度寧夏省地方普通歲出概算(單位元)

(歲出經常門)

科	目	概	算	數
第一款	寧夏省地方普通歲出		一、五三六、七四八	
第一項	黨務費		一二七、三〇四	
第二項	行政費		四三五、二四八	
第三項	司法費		二九九、二六四	
第四項	公安費		一一七、二二七	
第五項	財務費		一七〇、〇〇二	
第六項	教育文化費		一九七、八六〇	
第七項	建設費		一二九、四〇一	
第八項	實業費		一三、一〇〇	
第九項	路政支出		四七、三五二	

(不列臨時門)

(見二十四年申報年鑑)

第八目 交通

一 鐵路交通

察綏兩省鐵路交通，現僅平綏一線，平綏路起自北平，北行通過察哈爾南部，而西達綏遠之包頭，總計經過察哈爾省境者凡二百一十八公里，經過綏遠省境者凡三百九十五公里。原定計劃，擬自包頭西展，經五原南下以達寧夏，並擬自張

邊疆經濟

家口北築一路遠多倫，然因經費無着，迄未實現。

二 公路交通

察省現已通車之公路，計凡三千六百三十二公里，擬省計凡二千零四十六公里，察省計凡一千六百九十七公里，其餘計劃興修之公路，均未計入。茲將察綏三省公路現況列表如左：

察哈爾省公路概況表

(全省公路計長三、六三三公里)

路線名稱	起	訖	地點	全長(公里)	備考
張庫路	張家口	庫倫		一、三三三	祇通二連
張白路	張家口	百靈廟		六〇一	
張多路	張家口	多倫		二七七	
張貝路	張家口	貝子廟		六〇一	
張平路	張家口	北平		一七七	
宣蔚路	宣化	蔚縣		一〇二	洋河未築
萬北路	萬全(張家口)	張北		五二	
懷劉路	懷來	延慶劉斌堡		五七	
宣沽路	宣化	沽源		一八四	
懷蔚路	懷來	蔚縣		一二七	
張懷路	張家口	懷安縣		六九	
張柴路	張家口	柴溝堡		五二	

綏遠省公路概況表

(全省公路計長二〇四六公里)

路線名稱	起訖地點	全長(公里)	備考
包烏路	包頭—烏加河	三六四	即包寧路之一段新開
綏白路	歸化市—百靈廟	一八六	新開
綏清路	歸化市—清水河	一九三	舊官道
隆武路	隆盛莊—武川縣	三二三	舊官道
歸武路	歸化市—武川縣接隆武路	五二	舊官道
綏托路	綏遠—托克托	九二	舊官道
包武路	包頭—武川	一六一	舊官道
陶卓路	陶林—平綏路卓資山站	五二	舊官道
綏興路	歸綏—興和縣	三一一	舊官道
卓涼路	卓資山—涼城	九八	舊官道
包東路	包頭—東勝縣	二〇二	舊官道
東天路	東勝縣—天令太蒙	一一	舊官道

寧夏省公路概況表

(全省公路計長一、六九七公里)

路名	起訖地點	全長(公里)	備考
寧蘭路	寧夏—甘肅蘭州	三二二	沙土路
寧包路	寧夏—綏遠包頭	四〇六	沙土路

金靈路	金積—靈武	二五	沙土路
寧靈路	寧夏—靈武	四〇	沙土路
寧定路	寧夏—定遠	一二七	沙土路
寧鹽路	寧夏—鹽池	二〇一	沙土路
寧中路	寧夏—中衛	二〇七	沙土路
寧豫路	寧夏—豫旺	一六一	沙土路
寧固路	寧夏—甘肅固原	二一八	沙土路

(上表見二十四年申報年鑑)

三 水道交通

察省水道交通，僅灤河上折至多倫之茶棚，略可行舟，為本省僅見之水利。至於綏寧兩省，則因黃河經流，水勢平緩，適於航行，故包頭寧夏之間，頗有舟楫之利。其裝運貨物，帆船之外，尚有羊皮筏牛皮筏，為他處所罕見。帆船之大者，可載重三萬餘斤，小者則載重萬餘斤，或數千斤。牛羊皮筏載貨之輕重，視皮球之多寡而定。帆船由中衛至包頭需時十三日，由寧夏至包頭，則七八日可達。由石咀子啓碇，則六日可插包頭矣。惟在結冰期間（每年十一月、十二月、三個月），水路交通，則完全斷絕。

四 郵政

察哈爾郵政，隸於北平郵務區。張家口設一等局，宣化、張北、懷來、蔚縣、柴溝、豐、南口、多倫設二等局，獨石口、新保安、西合營、陽原、懷安、延慶、康莊、涿鹿設三等局；下轄代辦所凡三十六所。

綏遠郵政，亦隸於北平郵務區。歸綏設一等局，豐鎮、薩拉齊、包頭設二等局；興

中國經濟年鑑 第三編 第二十章 邊疆經濟

(T) 三八

和隆盛莊、集寧、陶林、卓資山、涼城、河口鎮、臨河、隆興長設三等局；下轄代辦所三十所。

寧夏郵政，隸於甘肅郵務區。寧夏、中衛、磴口設二等局；平羅、石咀子、吳忠堡、鹽池、中寧設三等局；下轄代辦所凡十八所。

五 電政

(甲) 有線電 察綏兩省電政，均屬察、熱、綏、蒙電政區。在察哈爾境內之線路，自張家口起：(一) 東南沿平綏鐵路經宣化(七五華里)，懷來(一五三華里)，至北平(一九二華里)；(二) 西北沿張庫汽車路，經張北(一一〇華里)，滂江(五〇四華里)，二連(三〇〇華里)，北上入蒙，至恰克圖，與西比利亞電線相接，並有大北電報公司一線同行，與上述第一線合稱平蒙幹線；(三) 西南沿平綏鐵路經柴溝堡(一三五華里)，入山西大同(一八六華里)，此外尚有線路自張北東北行經沽源(二〇〇華里)，多倫(二〇〇華里)，以通熱河經棚(四八〇華里)。在綏遠境內之線路，為自察之張家口經山西大同，入綏境，迄豐鎮，自豐鎮分兩路，一北行一百五十華里達平地泉；一西行經歸化(二九三

附蒙古地方自治政務委員會無線電臺一覽表

臺名	所在地	管理人	電力	立期	通訊處	所附	記
第一分臺	南	京彭如阜	一百瓦特	二十三年七月	百靈廟北平		
第二分臺	錫盟蘇尼特旗	陶克陶胡	十五瓦特	二十三年八月	北平百靈廟張家口索王府		
第三分臺	歸化城	王振華	五瓦特	二十三年八月	百靈廟張家口沙王府哈沙圖		
第四分臺	張家口	王之翰	五瓦特	二十四年四月	百靈廟北平綏遠德王府		
總臺	百靈廟	濟儒穆圖	一百瓦特	二十三年七月	南京北平張家口歸化齊海甘州寧夏德王府索王府		

華里)，薩拉齊(二二二華里)，包頭(九三華里)，大余太(二〇六華里)，五原(一六六華里)。至此折南行經臨河(一八五華里)，入寧夏之磴口(二八八華里)，除以上之線路外，另有一線路，為自察之張北經綏之東北部滂江，復入察之二連，北上入蒙。寧夏之有線電報，自省垣起：(一) 北經石咀子、磴口，入綏經臨河五原，至包頭，稱爲包寧線；(二) 南經寧安堡，入甘經靖遠而達皋蘭，是爲寧蘭線；又包蘭之間，亦可直接通報。此外尚有由大壩經金積至吳忠堡之支線一條。

(乙) 無線電 察省張家口設有國營商用無線電臺一座，呼號XKV，天線電力爲一百瓦特，與天津綏遠等處通報；察省府亦有電臺一座，天線電力爲二百五十瓦特，呼號YFL，與南京北平天津等處通報；此外尚有一百五十瓦特之軍用電臺兩座，屬於陸軍第二十九軍。綏省歸綏亦有國營商用電臺一座，呼號XKY，天線電力一百五十瓦特，與天津張家口蘭州等處通報；綏省府置有一百瓦特電機一部，與北平太原南京等處通報；此外包頭尚有軍用電臺一座，屬於省會綏靖公署。寧夏省垣現有電臺一座，屬省政府，電力一百五十瓦特，波長四十米達，與南京北平西安蘭州太原洛陽等處通報。

第五分臺	阿拉善旗署	何其仁貴	五十五特	二十四年十一月			
第六分臺	百靈廟	濟儒穆圖	五瓦特	二十四年八月	歸化德王府張家口哈沙圖沙王府		此機係德王所原有現在捐助本會
第七分臺	烏盟中公旗哈沙圖	錫哩格圖	五瓦特	二十三年十二月			
第八分臺	伊盟盟長公署	額爾德尼巴圖爾	五瓦特	二十四年一月	百靈廟歸化張家口哈沙圖		
第九分臺	錫盟盟長公署	趙清泉	五十五特	二十四年四月	百靈廟歸化沙王府哈沙圖		
第十分臺	伊盟杭錦旗署	周祥民	五瓦特	二十四年五月		保安隊臨時應用	
第十一分臺			五瓦特			此機係本會自購	
北平分臺	北平	胡日勒巴圖爾	一百瓦特	二十四年七月	南京百靈廟張家口德王府		

(丙)電話 察省長途電話除多倫一縣外其他各縣均已聯線通話線路計共長一八五五里並設總局一處分局十九處分所五處管理通話及工務事宜茲將各線路概況列表如次：

路線名稱	起點	終點	經過地點	名共計里數
張寶線	張北	寶昌	康保	二九〇里
宣延線	宣化	延慶	下花園 沙城 懷來	二〇〇
張沽線	張垣	沽源	宣化 龍關 赤城 獨石口	三八〇
張柴線	張垣	柴溝堡	無	九〇
張商線	張垣	商都	張北 公會 大青溝	三八〇
洗懷線	洗馬林	懷安	柴溝堡	一〇〇
宣陽線	宣化	陽原	化稍營 東城	二〇五

下蔚線	下花園	蔚縣	涿鹿	桃花堡	二一〇
統計					一、八五五

(二十四年八月據蒙古辦事處呈報)

至於察省城市電話只有張家口電話公司一家共有磁石式電話機八〇〇具云。

綏省長途電話其專修已成之電話線路則有綏遠經興松壩至武川計程九十里由綏遠經東雲壽至托縣計程一六〇里由綏遠經大黑河至和林縣計程九十里由綏遠經東雲壽至托縣計程一六〇里又由和林縣東南通山西之殺虎口包頭縣北通固陽豐鎮縣西通天成村分卡集寧縣(平地泉)北通陶林南經隆盛莊至鄭紅口及由興和縣西南通張阜分卡南經鄭門堡以達山西之陽高除由鄭門堡至山西之陽高係屬軍電局電線外餘均係專修電線歸電信總局管理現在武川托縣和林清水河涼城陶林集寧興和等縣均設有電信分局以司收發其由綏遠經畢

克齊察素齊、麥達召、以至薩縣二百七十里間之電線，並由薩縣經磴口至包頭九十里，再由包頭西經安北、五原，以至臨河計五百五十餘里，由綏遠經涼城，以至豐鎮三百六十里，及由豐鎮北至集寧一百五十里間之電線，均係借用電報局桿，由省府自行掛線，節電信總局建修者，此數路電線均歸電報局管理，惟於包頭豐鎮兩處，設有電信分局，以司收發也，至由和林縣東北通公喇嘛分卡，涼城縣西通得勝營子分卡，東經香火分卡，以達天成村分卡，及由豐鎮向東北進展，經隆盛莊分局，以達興和縣屬之張學分卡，則均係區修電線也。此外綏省尚有民營城市電話，歸綏電話公司有磁石式電話機四〇〇具，包頭電話公司有磁石式電話機二〇〇具，豐鎮電話公司有磁石式電話機一〇〇具。

寧夏之有電話自民國十八年始，當時僅供各機關之通話，至二十二年始設立長途電話局，而省垣各商號亦多安置電話，並可隨時與各縣通話矣。茲將寧省電話路線開列於下：

- 甲、南路 寧夏—寧朔—大壩—金積—吳忠堡—靈武—惠安堡—鹽池—
- 章州堡
- 乙、北路 寧夏—平羅—石咀子—磴口

第二節 外蒙古

第一目 農墾

外蒙因地質水源氣候及習慣關係，多不適於農業之發展，雖有可耕之地，僅為附業而已。且耕地若干，未見確實統計，一般估計，耕地面積合計，不過四萬三千海克脫（見二十五年一月二十二日上海大美晚報）。蒙人鮮有操耕作，農業多由漢人經營之。然莽莽平原，不乏展拓之地，細加考驗，當不少農區也。

自赤化後，俄人在外蒙提倡發展國家農業，於庫倫附近，劃定農業區，實行組織所謂「國家農場」，提出消滅富農之口號，經營農業之漢人，首受根本打擊，自不待言。即飼養牲畜較多之「丹加特」（即富農），亦沒收其牲畜，強令其加入國家農場。其不願者，多犧牲財產，逃出外蒙，流入內蒙者，不在少數。一九三〇年之頃，由俄購入耕種機兩架，以作國家農場內農作試驗之需。其成效如何，尙難確知也。（見邊事研究三卷一期）

第二目 牧畜

一 外蒙歷年家畜數額之統計

牧畜為蒙古之唯一產業，亦為最大富源，其在蒙古經濟上所佔地位之重要可知矣。內外蒙古之四大家畜為牛羊馬駱駝，其品種飼養情形，已見第二回經濟年鑑。外蒙牧畜業之動態，自一九二四年以來，迭有增加，迄於一九三二年九年之間，其家畜總數，已增加百分之八十九，即由一三、七七〇、〇〇〇頭增至二六、〇六〇、〇〇〇頭，其逐年詳細數字如下：

外蒙近年家畜總數升降表（採自邊事研究一卷三期）

年	次	家畜總數	百分比
			(以一九二四年為一〇〇)
一九二四	一三、七七六、一一九	一〇〇	
一九二五	一六、四五〇、八九七	一一九	
一九二六	一九、二二一、七二四	一三九	
一九二七	二〇、一四一、八六五	一四六	
一九二八	二二、四三五、四二九	一五五	
一九二九	二二、九五〇、〇五一	一五九	

一九三〇	二四、五五二、七五〇	一七八
一九三一	二五、二〇五、一三〇	一八二
一九三二	二六、〇六六、九四〇	一八九

按一九二四年之調查，外蒙人口總數為五四六、〇〇〇人，家畜總數為一三、七七六、一一九頭，每人平均有二十五頭餘。至一九三〇年之調查，外蒙人口七六〇、〇〇〇人，家畜總數為二四、五五二、七五〇頭，每人平均有二十二頭半，是每人平均增加七頭，其發展可謂速矣。然自一九二七年以後，則逐漸減少，如一九二五年對其前年之增加率為百分之十九又四者，至一九二七年，則僅為百分之四又七，至一九三二年，則更減為百分之三又四矣。

二 外蒙家畜分佈之狀態

至外蒙家畜分佈之狀態，本可以南中北三個地帶劃分之。但外蒙政府於一九三二年一月十六日，已將其領域劃分為十三個行政區域，其家畜分佈之狀態，有如下表：

一九三二年外蒙家畜分佈表（採自邊事研究一卷三期）

區名	區面積(單位平方方)	家畜數(單位頭)	每一平方方所包含之頭數
東區	二〇二、九〇〇	二、六一四、五五〇	二二·八
肯特區	七五、三〇〇	二、三四六、四二〇	三二·一
中央區	一四九、三〇〇	二、五〇三、一七〇	一六·九
農業區	六九、一〇〇	一、一〇〇、五七〇	一五·九
科爾沁區	一〇七、一〇〇	二、一四三、九二〇	二〇·〇

後漢階區	前漢階區	禮布臣區	托爾伯圖區	科布多區	阿爾泰區	南戈壁區	東戈壁區
五七、四〇〇	一〇七、七〇〇	九五、二〇〇	八四、一〇〇	七七、九〇〇	二〇七、一〇〇	一五五、四〇〇	一六四、九〇〇
三、四七五、六〇〇	二、五六五、一一〇	一、六〇八、〇一〇	二、〇八〇、五二〇	二、二〇五、二四〇	一、〇八九、〇八〇	一、〇三五、九八〇	一、二八九、七七五
六〇五	二三八	一六八	二四七	二八三	五三	六·六	七八

後漢階區之牧畜，每方斤包含六十頭，在外蒙古佔第一位，因其地在鄂爾渾河及倭帖爾河之間，水草極為豐富故也。次之者為肯特區，科布多，托爾伯圖，前漢階四區。至東南戈壁兩區，則因沙漠地帶之植物，僅有硬草及刺叢，不適於家畜之飼養。故牧畜業之盛衰，實以水草之美惡豐歉而定也。

三 外蒙牧畜事業之前途

據蘇俄專家意見，外蒙可供牧畜之地，約為三分之一，實能飼養家畜二千六百萬左右之譜。如其說可靠，現在外蒙牧畜情形，似已達到飽和之點。然外蒙牧畜截至現在，尚多墨守古法，苟能如科學方法之採用，牧草之栽培，家畜之保護等，加以改進，則其前途決不止此。又聞俄人獎勵蒙人貯置乾草，此舉於牧業大有裨益。據報一九三〇年度，外蒙由四五、九三六黑克脫 (Hector) 之地上，刈取三、二一五、六〇四布度 (約合八千三百餘萬斤) 之草，且仍有繼續增加之趨勢，可以概見。更據俄人麥斯基 (E. Msky) 實地研究報告：每一俄方里之原野，平均可產八十布度之乾草，如以五十萬俄方里為刈取乾草場，則採取四十萬萬布

度之乾草，在冬期可以飼養六千萬頭家畜。如再以燕麥等雜之，則可望養一萬萬家畜，亦於牧業上甚值注意之研說也。

第三目 工業

外蒙工業，向無足道，其製皮革器皿等工業，已於第二回經濟年鑑內略陳梗概。餘如製材、製磚瓦、鑄造機械、製革、及酒類蒸餾等工場，均係國營。茲將一九三〇年之生產額及一九三一年一月以前所投之資本額，分別表記於下（此表採自邊事研究三卷一期）

工場	資本(單位元)	生產額(單位元)
刺拉伊赫炭坑	八三·九九〇	八五〇〇
製材工場	一四九·九三五	五二·八六〇
磚瓦工場	二五〇〇·九五	一七五〇〇·三
鑄造機械工場	四一四·一四〇	二五·二八八
製革工場	八九二·三五〇	四九三·五〇
酒類蒸餾工場	一、五八六·五七〇	八二〇·一
合計	三、三七七·〇八〇	一、一四一·二五三

一九三二年，外蒙各處增設若干手工坊，製造糕餅、蒙靴、馬鞍等物，以應蒙人需要，並將此等作坊聯合成立全蒙手工組合，從事計劃生產。然合計工人不滿千名，出品亦供不應求，大多數日用品，仍由俄國輸入。

俄國各工廠之創設，無論建築材料、機械設備、管理實權，幾完全操於俄人之手。俄籍機師工匠，待遇極優，享有無限制之滙兌權利。至普通工人，則漢人頗多，大都係財產被蒙人沒收之漢商，不得已而為之者也。

第四目 商業

外蒙經濟落後，工業尤不發達，一切日用必需之品，曩多仰給於我國，故外蒙與內地，在商務上早已發生極密切之關係，雖一針一線，亦由我國運往，張家口多倫等處，即內地與外蒙通商之要道也。自赤化以後，漢商大受限制，一九二九年中俄開戰時，一方斷絕外蒙與中國通商，同時對外蒙漢商課以重稅，使其不能立足。而蘇俄則在外蒙設立若干商業機關，如蒙古中央消費合作社、俄蒙貿易公司、蒙古轉運公司、蒙古銀行之類，以壟斷外蒙商業，掌握外蒙經濟。故外蒙對外貿易，幾全為對俄貿易。茲據柏林出版，蘇俄經濟與外國貿易載蘇俄通商代表部之報告（見邊事研究二卷六期），一九三五年三月第二部記載，蒙古在蘇俄外國貿易上所佔之地位，有如下表（單位千盧布，其百分比為貿易總額之百分比）

輸出入	一九三三年	百分比	一九三四年	百分比
輸 出	三八、五六二	七八	四四、八〇六	一〇·七
輸 入	一七、二六九	四九	二〇、五六一	八·八

自蘇俄佔領外蒙市場後，外貨幾至絕跡，而蘇俄物質缺乏，不能供應，故物價高漲，民生苦痛。據日人調查外蒙物價，約如下表（見邊事研究三卷一期）

一 茶磚	每塊	一·五〇	托格利克(外蒙貨幣單位)
二 麥粉	上等每包	九·一四	
三 牛肉	每磅	〇·一四	
四 羊肉	每磅	〇·二三	
五 白糖	每磅	〇·三五	

六	方塊糖	每	磅	〇.五〇
七	麵包	每	磅	〇.一五
八	粗布	每	匹	二.五〇

第五目 礦業

外蒙煤鐵金鹽等礦之儲量產地及其估計之價值，業載於第二回經濟年鑑。但近年來開發情形如何？未見確報。茲據二十五年一月二十二日上海大美晚報載：外蒙煤礦最有名者，在烏拉巴爾市東方拿那伊湖，一九二七年，掘發八千五百二十噸；蒙科爾沙金公司從一九〇二年至一九一九年約採一千零五十萬盧布；湖沼全部皆為鹽水，每年鹽產額達五千噸。

又據邊事研究三卷二期載：在距庫倫市東南約六十華里之莫斯齊地方，有一煤礦，內有俄工約二百人，漢工約一百人，及少數蒙工，但其產量若干，尙未知之。

第六目 漁獵及森林

外蒙人因篤信宗教，不食魚類，故河流湖泊，鱗介充斥，誠水族動物之樂園也。今雖觀念漸變，練習俗難移，故魚類之捕捉，多為日本人，其產量如何，無從知之。

獵業在外蒙甚關重要，野獸野禽，極為蕃殖，其毛皮及羽毛，在外蒙輸出貿易上，僅次於畜產物而佔重要地位，至在特爾巴安一帶，則佔第一位。

外蒙西北山岳為森林地帶，松栎檉楊柳之屬，非常茂盛，地方政府防止濫伐，蒙古建築材料，多從此取給焉。

第三節 新疆

第一目 農業

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

一 民國二十四年新疆農業概況

新疆近年，迭遭兵燹，農村經濟，因以破產。但此種破產現象，仍僅限於戰區——天山南北，自哈密至迪化，及迪化附近之阜康、綏來、乾德等縣；——如南疆之疏勒、和闐、阿克蘇等縣，北疆伊犁河流域，固未見如何破產也。據新疆春耕委員會調查，天山北路各縣，二十四年度春耕下種，不及耕地面積百分之二十五，其不能下種之耕地，大多數為王族私產，原因農民為避免戰禍，率皆棄耕就牧，逃往阿爾泰及南疆各地，而王族私產又非經王公特許，他人不得承租耕種。次為哈密、奇台、吐魯番等縣，各經兵燹，受禍特重，二十三年秋收絕望，形成北路各縣空前之糧食恐慌。南疆各縣，雖告豐收，但繼回性食，善貯藏，其每年收穫農產品，願埋諸地下，不願出售。因有南疆各縣穀賤，每石售洋二元八角，北疆各縣麥價每百斤漲至十七元，此種畸形現象之發生，最大原因為省內交通阻塞，牛馬缺乏。例如阿克蘇至迪化計程二十四站，每站以六十里計，約長一千四百四十里，如以牛車運糧，往返需三個月。伊犁至迪化計程十八站，約長一千一百餘里，往返日程，亦需兩月以上。去年（二十四年）四月間，迪化糧價飛漲，每百斤麵粉售省票一萬八千兩（每元以一千二百五十兩折合），而伊犁麵價每百斤為六千五百兩，阿克蘇竟低至三千八百兩，相差不可道里計。於是迪化商人，輒雇毛驢數隻，往來迪伊間，作其糧食小販，獲利甚豐。新疆農村經濟癡結在乎無法調劑，而不在于農產供不應求也明矣。

關於新疆農業，其間尙有一事足資敘述者，即省府去年對於擴大春耕運動之提倡是也。省府為復興農業，救濟農村起見，特於去年三月間發行春耕貸款省票一萬萬兩，其支配情形如下表：

新疆省春耕委員會春耕貸款統計表（採自徐著新疆印象記）

縣名	款數	額(單位一兩)
迪化	三八、四八〇、〇〇〇	
乾德	一八、八〇〇、〇〇〇	
奇台	三、二〇〇、〇〇〇	
阜康	一〇、八〇〇、〇〇〇	
綏來烏蘇	一一、六〇〇、〇〇〇	
哈密	四、〇〇〇、〇〇〇	
統計	八六、八八〇、〇〇〇	

註 春耕貸款發行總額爲一萬萬兩，支出實數，則僅八千六百八十八萬兩，餘款用途，計農村救濟部辦事費一百三十萬兩，哈密行政長公署移作修築公署費三百一十二萬兩。

二 各縣支配春耕貸款辦法

春耕貸款支配數額，已如上表，各縣支配是項貸款辦法，約分三種：(一)由農戶按所種耕地戶數，向縣府借貸。(二)由縣府購置耕牛，農具，籽種，按農戶需要程度分配。(三)由縣府派員調查各鄉村荒地畝數，轉飭鄉村長向縣府具領，按實際情形分配。一二兩項辦法，原係政府計劃，第三項辦法，則爲實施步驟。故政府接濟農民籽種耕牛農具等，均由鄉村長間接發給，發給數量，亦惟根據新疆現役及編餘軍隊分配各縣屯墾概況表(採自徐著新疆印象記)

新疆現役及編餘軍隊分配各縣屯墾概況表(採自徐著新疆印象記)

隊號	屯墾地點	屯墾人數	旱地水田組數	籽種數目	牛隻數目	車輛數目	每組補助款項數目	種菜借款數目	馬匹數目
教導團	昌吉乾德	二五〇人	旱地二組 水田三組	麥種六〇〇石 稻種四〇石	八〇隻	無	旱地三〇萬兩 水田六〇萬兩	一〇萬兩	無

據若輩調查情形之呈報爲準則，於是發生種種弊端，失卻政府救濟貧農之真意，其一爲農民貸款手續過繁，由省府發給縣府，縣府轉配各鄉，鄉長又分給各村長，始入農戶之手，此點不僅時間延宕，使春耕時期耽誤，貪污之徒，且可從中漁利中飽，農民所得實惠之微，實出政府理想之外，甚至農戶有負債貸款百元以上，而僅獲籽種一擔者。其次爲春耕貸款之歸還，規定於本年秋收後歸還半數，餘俟翌年春收歸還，鄉村長以自身爲居間份子，皆據此爲發給貸款之原則，凡小戶農家，彼輩即不願代爲呈請貸款，因恐其無力償還故也。是小戶自耕農及貧農仍不得救濟實利，貸款利權仍多操縱於居間階級之手也。

第二目 墾務

一 民國二十四年新墾之兵墾

新疆墾務，清季分爲軍屯戶屯，軍屯按兵分配耕地，每營爲五十戶，每哨爲十戶，戶屯按移民戶口授田，大約每三口至五口之農戶，授田三十畝，稱爲一戶，每月可播種兩石，收穫二十石，除完納田賦百分之五外，墾戶所獲甚豐。此制相沿至今仍未大變。近年新省變亂迭起，農村破產，食糧缺乏，墾荒之需日亟，當局除積極提倡春耕運動外，並力勸墾荒，軍隊編遣之餘，亦皆移作墾民，此實繁榮新疆經濟至要之圖也。

去年(二十四年)新省當局，以軍事既定，軍隊亟應整理，乃實行編遣，並辦理軍屯，以節軍需。茲將新省現役及編餘軍隊分配各縣從事屯墾情形，統計如左：

統	編		役						現										
	餘	編	軍官大隊	第三十團	殘廢軍人	教養院	工兵隊	團	處	督	保	團	團	工	城	衛			
							呼	奇	百	黃	迪	呼	綏	呼	實	乾			
計	二七八三人	水田三〇六組	早地六六組半	麥種一三三〇石	五八八隻	一六〇輛	早地一〇三〇萬兩	九五萬兩	一六〇匹	呼圖壁	奇台	百戶	黃武化	迪化	呼圖壁	綏來	呼圖壁	實格達湖	乾德
	五〇人	早地一組	麥種一三三〇石	一六隻	無	無	早地二組	一〇萬兩	無	早地二組	二五五人	五〇人	五〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人
	一〇四〇人	早地二〇組	麥種二四〇〇石	三三隻	一〇四輛	四二〇萬兩	一〇萬兩	無	無	早地二組	二五五人	五〇人	五〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人
	五八八人	早地二八組	麥種三三六〇石	一六八隻	五六輛	四二〇萬兩	無	五六匹	無	早地二組	二五五人	五〇人	五〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人
	一〇〇人	早地二組	麥種六〇石	三三隻	無	三〇萬兩	一〇萬兩	無	無	早地二組	二五五人	五〇人	五〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人
	一〇〇人	早地二組	麥種六〇石	三三隻	無	三〇萬兩	一〇萬兩	無	無	早地二組	二五五人	五〇人	五〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人
	一〇〇人	早地二組	麥種六〇石	三三隻	無	三〇萬兩	一〇萬兩	無	無	早地二組	二五五人	五〇人	五〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人
	一〇〇人	早地二組	麥種六〇石	三三隻	無	三〇萬兩	一〇萬兩	無	無	早地二組	二五五人	五〇人	五〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人
	一〇〇人	早地二組	麥種六〇石	三三隻	無	三〇萬兩	一〇萬兩	無	無	早地二組	二五五人	五〇人	五〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人	一〇〇人

軍隊屯墾，新省雖以鉅額公款移作經費，但規定辦法，仍按春耕貸款辦理，即屯墾部隊，須將秋收所獲，歸還半數以上，繼續種植三年之後，耕地始撥與耕者所有，現役編餘屯墾部隊，在秋收前，政府則繼續供給給養，故軍隊屯墾事業在新疆，目前只可說是提倡時期，未可遽言效率也。

二 新疆屯墾使公署辦理開墾之經過

又據報載，新省屯墾使公署，曾於去春派視察員曲源，前往特克斯（在伊犁之南）喇嘛昭，辦理撥地開墾事宜，頗見成效。其辦理經過，據曲君報告云：「四月

二十日，由屯墾出發。二十日下午六時，到達喇嘛昭。二十三日，協同維蒙兩族首領，前往踏看地勢。維族要求之大小胡納海，中間確屬肥沃平原，兩邊泉水暢流，勢如蜂腰肚節，胡納海山，南連特克斯水，地面廣大，土質肥沃，時值暮春，豐草綠草，茁壯爭榮，實墾牧之天府地方。北頭山腳，有廣大煤礦，煤質已露土外，若有人倡辦，則燃料可更充裕也。惟此地為蒙族冬夏牧場，遷移必經之路，均不願撥給。所指給南頭特克斯河沿一段平原，距喇嘛昭太遠，且開渠工程浩大，不但窮人無力前往，且必誤今年春耕。雙方意見，難取一致。二十四日，召集雙方首領，在喇嘛昭開會討論，先

宜告開會宗旨，總解釋政府注重春耕，與不廢棄遊牧，必須雙方兼顧之意旨，並言維族種地，所納之糧，每與蒙族少有提成，以補助教育。結果將喇嘛昭南方平原一段，撥給維族耕種。此地較胡納海中間之地，面積為小，惟以現在戶民之人數分配，尙足播種。二十五日，協同雙方首領，前往劃分界線，埋置木椿。因此地南低北高，水由大胡納海取出，遠地用水，頗感困難，為避免戶民爭執，於二十六日，按各戶分割地界。二十六日，附近有哈族六十一月，亦要求撥地耕種，但因逃哈盜竊行為過多，蒙族頗不願意，然新政府既對各民族一律平等待遇，亦應一律撥給，此等哈民雖有頭目管轄，但相距甚遠，將此六十一月哈民，撥歸那買特鄉約管轄。又鑒於蒙哈感情不洽，乃將哈民之地，撥在中間，以免與蒙古牧場毗連，時起糾紛。二十七日，繼續昨日未完之地，分舉並召集維哈民衆，忠告春耕之意義，並以後舉牧，各守界線，勿起糾紛。此次共計按戶二百十八丁，撥地六千餘畝。現已有多數農民，攜帶洋犁前往經營，歡聲遍野，咸督辦及屯墾使爲民造福之結果。今年秋收，當較去年大有增加，民食當不致困難矣。」

第三目 水利

新疆水利情形，已詳本年鑑二十四年續編。茲據青海正開分社云，新疆灌田之水源，分爲河水雪水井水三種，惟該省水利事業年來頗少調查，茲就民國二十一年以前，各方所調查關於該省之水渠及灌田情形，列表如左：

新疆各縣水渠數目及灌田面積統計表

縣名	幹渠數	支渠數	灌田面積(畝)
迪化	四四	六六	一八六、六三七
昌吉	一三	九六	九六、六七四

縣名	幹渠數	支渠數	灌田面積(畝)
呼圖壁	三八	六四	五三、八〇〇
奇台	二〇	三〇	三一六、二八〇
阜康	六	三四	五一、七五九
綏來	五一	一六三	一〇九、七四八
孚遠	七	二二	一一二、〇三九
吐魯番	三四	二二三	八二、一四九
鄯善	四六	二二	七五、一五九
鎮西	三四	二四	四一、一七五
哈密	二二	二二三	一九、二二〇
烏蘇	一七	三四	一一、四〇五
塔城	一五	一〇	四三、八〇七
精河	七	九	四、二二七
綏定	一五	二八	二九、一四〇
寧遠	一三	七	六四五、五五〇
焉耆	三〇	七	一六七、八〇五
新平	一八	一	九、五六四
輪台	七	一七	一六五、七〇〇
庫車	四〇	一〇八	六五四、四七六
沙雅	三〇	五三	三〇三、七四七
拜城	二二	一四	四四五、五七七

第四目 牧畜

由上表可知新省渠道，尙頗發達，而南路農業較北路爲盛，故有水渠各縣亦佔多數。蓋新省河渠，自漢已有，數千年來逐漸開拓，乃有今日之成效。

溫宿	一七	一二三	九一九、四七五
烏什	三六	一一七	五七二、七九二
柯坪	三	一四	二八、一四六
塔羌	七	一〇	一八、一三三
于闐	三九	四三	六三六、一三三
洛浦	八	四七	二九三、七四四
和闐	三三	一三二	六六二、三三四
巴楚	二六	一一一	二〇二、八二八
皮山	三八	一九	三六〇、八九一
葉城	三三	一四三	八四四、一〇六
莎車	一九	一八四	一、〇二一、五〇〇
伽師	六八	五八	三六六、八八九
英吉沙	九	六一	四八〇、〇一四
疏勒	三四	二〇六	五五五、四四八
疏附	四六	一六一	五九〇、四五四
蒲犁	一一	五一	一、九二五
總計	九四四	二、三四三	一一、一八九、四二〇

一 新疆近年綿羊產額

牧畜事業在新省頗有悠久之歷史，蒙哈諸族專恃游牧爲生者無論矣，即漢回各族亦皆半耕半牧，牧畜仍爲其主要生產事業之一。惟新省牧畜事業，向無大規模牧場，多仍舊時游牧狀態，賴天然草原，牧殖牲畜，因之一經非常時期，或畜疫流行之後，年產數量，恆有銳減。新疆歷年牲畜產量，向無精確統計，其估計之約數，已見本年經二十四年續編中，茲再據徐著新疆印象記所載，謂據羊腸商歷年收貨統計，近年全疆綿羊產額，約略如左：

民國十七年至二十一年間每歲產羊價值統計表

產羊區域	出產數量	出產價值
阿山區	一〇〇,〇〇〇	八〇〇,〇〇〇元
和闐區	八〇,〇〇〇	六四〇,〇〇〇
焉耆區	六〇,〇〇〇	四八〇,〇〇〇
伊犁區	八〇,〇〇〇	六四〇,〇〇〇
哈鎮區(哈密鎮西)	六〇,〇〇〇	四八〇,〇〇〇
統計	三八〇,〇〇〇	三,〇四〇,〇〇〇

民國二十一年至二十三年間每歲產羊價值統計表

產羊區域	出產數量	出產價值
阿山區	八〇,〇〇〇	四八〇,〇〇〇元
和闐區	九〇,〇〇〇	五四〇,〇〇〇
焉耆區	二〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇

伊 寧 區	四〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇
哈 爾 濱 區	二〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇
統 計	二五〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇

二 新疆近年羊毛皮毛出產及畜羣生產之能力

新省產羊豐富，羊隻肥碩高大非他省可及，羊皮羊毛出產，當可比數羊腸產量。惜皮毛出口少有統計，無法比例。但據關稅統計，民國二十一年前，每年羊毛出口統計二〇〇萬擔，（每擔一百六十斤，折合爲三三、〇〇〇萬斤。羊皮出口，統計八〇萬張，輸入內地平津晉綏者，約計總出口數百分之三十，近年對內輸出，幾類停頓，對外輸出，則年有遞增也。茲舉新省畜羣生產能力如次：（一）乳牛——每頭重六〇〇斤，每年可擠牛乳二百瓶。（二）綿羊——每隻重五〇公斤，每年剪毛三斤至四斤，最好羊隻，重量能達八〇至一〇〇公斤，每年可剪上等絨毛一〇斤。（三）馬匹——新省以焉耆馬種最佳，出自黑黑子種，惟驅幹矮小，只可普通乘騎，不適宜軍用及農耕。鎮西馬種次之，但亦只可供乘騎與農場輕量運輸之用。不論乳牛、羊隻、馬匹，新疆阿爾泰山一帶，伊犁河流域，焉耆哈拉峽，木壘河，和闐河流域，均可供大規模之牧場，設加意改良馬種，乳牛、羊隻母種，不僅可供各鄉區民衆食糧與耕作行走之工具，其牧畜事業生產，補救枯竭待濟之新省財政，亦爲一主要出路也。

第五目 工業

新疆工業概況，已見本年鑑二十四年續編。關於紡織製革兩種新興工業，設廠經過，及因軍事影響停頓情形，茲再補述於左：

(一) 紡織 民國十四年，建設廳創辦阜民紡織公司，預計資本總額省票一百萬兩，（當時銀洋一百元，折合省票二百三十兩，）約計現洋四十餘萬元，由各縣招募股款五十萬兩。向上海美商海京洋行訂購織布機三十架，紡錠一千二百枚，大小鍋爐、軋棉、紡紗、清花各種機器若干具，並由海京洋行介紹技師來新，指導建築紡紗工場，安置機器。至十七年開始紡織，每日出二尺二寸寬幅棉布二十餘疋，至三十餘疋，三合股細線八十餘斤。原料以庫爾勒棉花最佳，可紡二十四支細線，吐魯番次之，可紡十六支細線，出品分銷各縣，純益可觀。二十一年馬仲英圍攻省城，佔據該公司事務所及工場，貨房全被焚燬，機器房機件損壞殆盡。於是新省唯一之紡織公司，遂告停頓。二十二年建設廳長高惜冰氏接任後，即擬恢復辦法，估計約需整理費二十餘萬元，終以財政困難，爲省務會議所擱置。

(二) 製革 民國十六年間，建廳曾招集股款省票八萬兩，（以當時折算，計現銀三萬餘兩，）創設製革場，招收歸化俄工，製造各種皮張、軍靴、皮鞋、皮箱，並兼製革皮、本省鞋莊材料，均取給於該廠。開辦兩年，股東曾分配紅利二次。至二十二年，亦被軍隊破壞，迄未恢復。

第六目 商業

一 壟斷新疆商業之兩大公司

新疆商業概況，已見本年鑑二十四年續編。自金樹仁秘密簽訂新蘇協定後，新省商業與內地之關係，遂日趨隔絕，而與蘇俄之關係，則愈加密切，全省輸出入貿易亦全爲俄人所把持矣。近年把握新省經濟之兩大樁柱，一爲省有之裕新土產公司，一爲俄國之駐新貿易公司，舉凡該省本地之土產，無論鉅細，均由土產公司全數收買，以售實於貿易公司，而轉銷於俄國；凡由俄國運銷該省之工業製品與其他貨品，亦統由貿易公司經理，然後分散行銷。所有貿易代價，除對銷外，入超

數則以現金給付。至於本國以內諸省之經紀商人，表面上並不完全杜絕，但因該省唯一流通之省鈔，絕對難能通用於各省，過去經紀商人如由平津等埠運輸布疋茶類往新時，必須於脫售之後，全數購買該省土產，運回銷售，純粹取一種以貨易貨方法，然近年來一則地方僻擾，商旅難保安全，二則土產經土產公司收買之故，尙有以某種勢力無形使之抬高貨價，益以運輸費故意提高之影響，（即如迪化至塔城距離約與迪化至哈密相等，其運價則前者較後者低賤二分之一），使商人根本無利可圖，結果關於此方之商業關係，幾成完全停頓狀態。故綜合目前新省經濟姿態，有二最爲顯著之表現，一爲逐年不斷之入超，一爲與內地各省早隔絕狀態是也。

二 新經歷年對外匯貨貿易之統計

新省商業狀態，以匯貨爲主要部門，其歷年對外匯貨貿易統計，據徐戈吾著新疆印象記所載，約如下表：

新疆歷年對外匯貨貿易統計表（單位元）

年	份	每年對俄平均貿易額	每年對內地各省平均貿易額	總計
民國三年至八年間		三,000,000元	八,000,000元	三,200,000元
民國八年至十七年間		五,000,000元	一,000,000元	六,000,000元
民國十七年至二十二年間		八,000,000元	一,000,000元	九,000,000元

由上表觀察，可知新省商業匯貨貿易額年有增加，而以民十七至二十二年間金樹仁主新時期之貿易額，增加更速，其中以俄匯貿易增額爲多數，對口內各省匯貨，反見降低。蓋是時新省土產統歸拓殖公司壟斷，私人商業則蒙莫大打擊，新省交通不便，運輸困難，紙幣不能通用省外，匯兌限制甚嚴，每月省外匯款，

以本省郵局收入之一萬元爲限，尙須合乎匯款之規定，即除留外省學生之學費旅費及購置公用物品費等外，商業匯兌，概予禁止，口裏各幫客貨，遂告停滯。二十一年哈密事變後，東路各地兵連禍結，如素稱商業中心之奇台（即古城子）、伊犁，經戰事蹂躪，農村破產，人民逃亡，困之商家舊欠無着，土貨如羊皮、藥材、鹿茸、羊腸等，來源告絕，現貨如布匹、茶、糖等物品，銷路遲滯，商店倒閉，十佔八九。此新省商業近年來之情形也。

三 裕新土產公司之經營

最近新省商業總機關——裕新土產公司——經理鮑爾汗氏，處心積慮，以謀統制全疆土產，而期恢復商業，彼最近計劃與蘇聯駐新貿易公司合作，擬將俄貨輸入與新省土產輸出，統歸該公司經理，扶植土產公司爲最高經紀機關，吸收交易現金及匯貨之利益，但鮑氏此項計劃，適與蘇聯駐新貿易公司之利益相衝突，目前蘇聯駐新貿易公司，除予收買裕新公司土產外，對於俄貨銷新，仍由該公司自理。緣裕新土產公司前身即爲拓殖公司，該公司之經濟勢力，已深入民間，況各縣均設有土產局，以爲公司之支幹。鮑爾汗氏爲鞏固土產（俗稱奴加衣）人，能操俄、纏、哈、蒙、漢語言，深得各族間信任，彼甚忠實商業，時親赴各縣調查土產產銷狀況，連絡纏、哈、蒙、回各族商人及牧戶，該公司經鮑氏之努力，業務蒸蒸日上，成績斐然。公司組織分總務、皮毛、羊腸、貯藏、工廠等五部。總務部計分會計、文書、營業、事務等四股。皮毛、羊腸兩部，係由皮毛羊腸商人組織而成。貯藏部雇用若干工人，專爲管理粗細皮張，安置羊腸貯藏而設。工廠部現有女工二百餘人，按件給資，即每梳細皮一張，給工資兩角，粗皮一張，給工資一角，駝毛一斤給工資五分。該部主任人員，皆係哈、纏、蒙、韃靼等族商人，各縣土產局亦然，以其熟識貨品兼長土語也。簿記用俄回兩種文字，不註漢文。現每月營業額約計一百三十萬元，爲現時新疆對

外貿易之總樞，新省府向蘇俄訂購物品、機械，亦以該公司為擔保，最近新省定購開採石油機器及農業機器，需款六百萬金盧布，亦係公司擔保，以土產按年分期歸還云。

四 新疆與內地商業之沒落

至於駐新、平、津、魯、綏、陝、甘各幫商業，已成殫瘁之末，彼輩一方面受新省土產之統制影響，不得自由收買土產，一方面以平津一帶皮毛落價，兼以運費稅捐繁重，對於皮毛一項，各商視為畏途，目前尚可獲利者，僅羊腸一項，差可經營。據迪化商會會長周某云：「現在口裏來貨，均係一年前所定者，當時先付貨價若干成，餘則限三個月至六個月歸還。新省近年戰事頻仍，東路交通斷絕，此種信用放貸，於是亦告停止。今省垣方面，能維持現狀者，惟德興合、盛合公數家，然亦不能持久矣。」

第七目 礦業

新省礦產，蘊藏之富，可稱世界利藪，舉凡金、銀、銅、鐵、石油、煤炭各礦，殆無不有。其生產概況，已見本年鑑二十四年續編，借歷來政治腐敗，未遑經營，以致利棄於地，為可憾耳。近據報載，謂據南疆調查委員拉由斯報稱，阿克蘇所屬各縣金、銅、石油等物產均多，在輪臺縣北，由德那河查勘金礦，離城三百餘里路，高峯險峻，在德那河岸水面淺處，能取出細薄沙金，再用顯微鏡測量水底石際，現出金苗大小顆粒甚多，成分不亞於阿山金礦，現正詳勘中，想金藏之富，必不在少。又農礦廳以新省礦產豐富，品質優良，為力謀開發起見，採取民營主義，由人民自由探礦，核發執照，准其先行試辦，以資提倡，即煤炭各礦開採較為獲益，亦未征收礦區各稅，該廳奉令催解二十四年份礦區稅，當以新省各種礦產多未開採，所有煤炭各礦向由人民自由開採，從未征收礦區稅，且因經匪擾亂之餘，各地礦區悉遭破壞，現正由

該廳開始着手整理之際，應俟整理就緒，再行規定征收礦區稅辦法云。茲再將該

省開採沙金石油各礦情形，略述於左：

(一) 金礦

新疆產金區域，計有阿山、和闐、且末、塔城等縣，以阿山礦區最廣，

質量亦佳。民國七年，經由政府告示民衆，自由開採，每人月征課金四分，開採之初，

礦區挖金工人約計五萬餘人，課金收入每年約計一千五百兩。至十九年，礦工人

數漸少，每年課金亦減至七百餘兩，二十二年遭匪亂，遂告停頓。去年(二十四年)

該省農礦廳規定恢復阿山金礦辦法，在阿山設立金礦局，除由礦局雇工採挖外，

並准民衆自由採挖，現已委派人員，前往測驗矣。阿山產金最旺之區為東義河、西

義河、哈熊溝、三道橋、前溝、東山等處，金質以哈熊溝最佳。開採方法，分水窩乾窩兩

種，自河岸上至山頂，就金脈散佈區內，盡量挖取混合金苗及沙土，運至河岸附近，

待至冰雪融解，而後淘金，是謂乾窩。以黏土當河流中間築一長堤，攔水流方向，將

水排出河槽，然後淘取河底之金苗，再經淘濾，是謂水窩。此法以金苗成分量重，沙

土質量較輕，一經山水冲刷，金苗沉澱，而沙土自水浮出，故水窩較乾窩獲金為多。

開採金礦分兩期工作，第一期，每年三月至七月則從事查探礦苗，搭蓋住所，運輸

築堤材料。第二期，每年七八月間，則修築河堤，謂之攔河壩，而正式挖金時間，亦於

河堤修竣之後開始。至十月冬至後，河水冰凍，工作即告停頓。每年因淘金工作為

時甚暫，工人待遇，亦頗優異。阿山舊廠工資標準，概以純金為單位，每年三月至七

月間，工資較低，每人每日工資計現金二錢以上三錢以下，八九十等月，為金忙時

期，工資較高，每日每人工資多則五錢，至少則獲三錢五分。每月初十、二十、月底

三期，按時價折合省票發給。礦工人日食至少麵條二斤，夏日長晷，日食四次，否

則，饑不能作矣。舊日從事經營金礦者，除按月發給工資外，另訂年終紅利，時成辦

法，鼓勵工人工作，並收容工人小股資本，以資生息，因以獲利倍蓰。

(二)石油礦 烏蘇縣屬之安集海，獨子山出產石油最富。民國八年於該處開辦石油礦，計有獨子山油礦，其構造於橫洞子內挖成若干直井，井深七尺至一丈，全區有橫洞子兩個，長五丈餘，直井十個，分佈橫洞之間，夏季日產原料五六百斤，冬季減縮至七十餘斤。清水河子石油礦，其構造係於坡下近河岸之處，開挖明井，每年春季可取油五百餘斤，至夏水漲時，油井運沒，即無法採取油料，水退後仍可照常採取，至冬季則枯矣。先前採取油料運至省城提煉，二十三年始將鍋爐移設安集海，就地煉油。油料每百斤可煉出燈油四十斤，中油（即黑油）三十餘斤。燈油色白無煙，為最佳之燃料，黑油潤機膏車，用途甚廣。其他烏蘇縣屬之元興、公沙灣縣屬之小拐河及庫車等縣均產石油。現新省農礦廳擬具計劃，定購機器，從事大規模之開採矣。

(三)其他各礦 孚遠縣屬水西溝產鐵，民國九年曾集資創辦礦廠，用土法採煉，鐵質甚硬，產量不多。民國十一年間，運銷甘肅十萬斤，後以虧蝕過甚，延至十六年停辦。拜城產銅，前曾開採，現已停辦。至遍地皆是之煤礦，僅就迪化至阜康，孚遠，奇台沿途所見，附近煤苗之多，猶如鍋底煙薰，黑層煤尖，到處皆是。土人輒以巨輪大車，繫以巨牛數頭，往來煤區省城間，採取煤炭，信手可得，常年生計，賴以維持。

第八目 財政

一 新疆歲入歲出相差之懸絕

新疆僻處邊陲，交通阻滯，其財政情形，省外極為隔膜。民國十六年至二十一年間之收支狀況，本年鑑二十四年續編已詳為敘述。二十年度該省呈報主計處概算，國地收支皆有鉅額相差，歲入經臨合計為三、二〇五、七五六元，歲出經臨合計為八、九四七、三六七元，收支相抵，不敷達五、七四一、六一一元，較歲入總額超出二倍，估歲出總額四分之一有餘，其困難之狀可知矣。

民國二十年度新疆省地方普通概算(單位元)

歲入經常門

科	目	概	算	數
第一款 普通歲入				二、八五七、四五二
第一項 田賦				一、四三四、三〇八
第二項 正雜各稅				九八〇、六〇四
第三項 正雜各捐				三三五、八二九
第四項 行政收入				七〇、〇六七
第五項 公業收入				三六、六四四

歲入臨時門

科	目	概	算	數
第一款 普通歲入				三四八、三〇四
第一項 地方行政收入				一四、四一〇
第二項 伊犁代征各稅				三三三、八九四
普通歲入經臨合計				三、二〇五、七五六

歲出經常門

科	目	概	算	數
第一款 普通歲出				四、八三八、一四四
第一項 黨務費				一一六、四五六

中國經濟年鑑第三編 第二十章

邊疆經濟

(T) 五二

第二項	行政費	二,四三三,二九二
第三項	司法費	二〇九,九六五
第四項	財政費	六一三,四九〇
第五項	教育文化費	七六八,九二三
第六項	農礦費	二〇,九四四
第七項	工商費	二二,九八七
第八項	交通費	一九五,六一八
第九項	建設費	二,一九〇四
第十項	自治費	四六三,五六五

歲出臨時門

科	目	概	算	數
第一款	普通歲出		四,一〇九,二二二	
第一項	黨務費		六〇,七七七	
第二項	行政費		一,二二八,四三六	
第三項	司法費		一四七,五〇四	
第四項	財政費		二二九,二二二	
第五項	教育文化費		三三六,七〇四	
第六項	農礦費		一七,四五三	
第七項	工商費		一五,七四二	

第八項	交通費	一,五五〇,四一九
第九項	建設費	二八二,五六五
第十項	自治費	二三〇,四〇〇
普通歲出經臨合計		八,九四七,三六七

二 最近整理財政金融之計劃

新疆歷年預算，入不敷出，為數甚鉅，所恃以為應付者，厥為濫發紙幣，以資彌補，其詳情已見本年鑑二十四年續編。迄於民國二十二年新省府成立以後，紙幣發行，殆不可勝數，其值一落千丈，甚至以一千三百五十兩始可兌現一元，近年新省時局略定，當局已感濫發紙幣紊亂財政金融之非計，漸謀整理之道，其計劃擬於十八個月內將全省紙幣一律收回，廢兩為元，並由中央接濟新省，發行中央銀行鈔票一千四百萬元，分三期付給，俟該省財政整理就緒，於二十五年起按月攤還，據報載此計劃由行政院飭交財政部核議，核議結果，係准新省發行公債八百萬元，作為整理經費。

第九目 金融

一 硬幣及紙幣

新疆金融，向恃紙幣維持，在楊增新時代，信用尚好，迄楊氏遇刺，金樹仁當政，以至劉文龍、盛世才，數年之間，戰禍綿延，管狀畢露，省鈔以當局濫發之結果，跌價至速，於是新省金融頓呈恐慌之象矣。新省貨幣，向以白銀為單位，昔日通用馬蹄銀，紅銅制錢，每四百紅錢等於現銀一兩。次為省鈔，分五錢（係最早印行之油布票），一兩，五兩，十兩，五十兩等六種，歷年隨需要程度為印行標準。民國十七年以前，省鈔每兩，十足兌現銀一兩，二十二年以前，每省鈔三兩至三十六兩，尙可兌現

銀一元，以後省鈔即一落千丈，甚至以一千三百五十兩，始可兌現一元，而每日紙幣發行非千萬兩不足供應，每張省鈔非五十兩不敷印工，其濫發之狀概可見矣。最近新省財政當局，倡議改兩爲元，另發新鈔，更換現行省鈔，以資整理新省幣制，然若僅就票面糾正，仍無基金作底，換湯不換藥，固亦於事實無補也。

二 匯兌情形

新省匯兌，現在省外匯兌，限於學費、旅費、書報購置費，以郵局收入一萬元之數爲限，商業匯兌不通，國外匯兌按各該國幣制之單位計算。新省自民國八年至十七年間，每年流出國外現金約計四百萬元，流入內地各省，亦以一百五十萬元計。現該省禁止現金出口，其辦法爲：(一)凡持現金出口，必須先經政府之允許。(二)除正當必需款項攜帶現金出口者外，不得擅行帶現金出口。(三)旅費每人不得逾規定之數。

三 新疆省銀行

新省調劑金融之機關爲省銀行，該行組織分總務、營業、會計三科，附設農村救濟部，社會經濟調查部。據行長許廉氏談：「過去省銀行信用薄弱，而此間商家咸存吸收現金之成見，無論省行對於現金貯存戶如何提高利率，仍少以現金寄儲者，以致銀根吃緊，省鈔低落，釀成金融恐慌之不景氣現象。目前本行工作，先吸收條金、沙金、洋元票，而後以收入現金，按本行計劃調劑市面。奈以省鈔發行數量過多，價值始終無法提高，省府雖有改兩爲元之議，但感於省內各族，向來用銀兩單位之習慣，紙幣基金無着，遲遲未敢實行。至省外匯兌，現以現金缺乏，未行開匯。各縣分行，業已成立者，計有塔城、奇台、綏來、哈密等處，現擬計劃於阿克蘇、喀什、和闐等處，遍設分行，以流通地方金融，發展農村經濟。目前省行基礎未固，雖有很好計劃，亦未能逐步實行，如中央能指定銀行設立新疆分行，同時協助若干基金，

改良新省幣制，金融方始底於穩定，否則，積重難返，新省金融恐慌，將不知伊於胡底……」省銀行本身能力薄弱，其於社會金融及通貨，當無甚補益。最近該行主要業務爲設立農業救濟部，負出放款之責，此項貸款，業經放出八千萬兩，取息五釐，預計本年秋收，可收回三分之二。其次爲收納各縣財政局之稅入，軍政費之支出，均由該行經理，此省行代理省庫出納之實行也。

第十目 交通

一 新疆公路通車概況

新省現可通行汽車之公路，計有四大幹線，即迪塔線、迪伊線、迪哈線、迪喀線。每四路是也。現迪塔、迪伊、迪哈三線均已通行汽車，迪喀線以汽車不敷分配，尙未開始通車。茲將各線概況列表如左：

路線名稱	起訖地點	經過地點	全長(公里)
迪塔線	迪化—塔城	綏來 烏蘇 托里	六五〇
迪伊線	迪化—伊犁	綏來 烏蘇 精河	七二〇
迪哈線	迪化—哈密	南路 吐魯番 鄯善 哈密 七角井	七〇〇 六六〇
迪喀線	迪化—喀什	托克遜 焉耆 輪臺 阿克蘇 巴楚	一四〇一

二 汽車運輸情形

新省運輸現有汽車運輸及駱駝運輸兩種。汽車運輸客貨，均以金盧布計算。各線運貨及客票價目爲：迪塔線每噸每公里收費一〇戈璧(合現洋〇·二五元)，全程六五〇公里，收運費六五盧布(合洋一六二·五〇元)，每甫筒收運費一〇七盧布(合洋二·六七元)。客票每位一〇盧布(合洋二五·〇〇元)。迪伊線貨物運費，以烏蘇爲起點，每噸每公里一〇戈璧，全程(自烏蘇至伊

三 駱駝運輸情形

犂(四一〇公里,收運費四一盧布(合洋一〇二·五〇元),每甬筒〇·六八戈壁(合洋一·七〇元),客票每位八盧布(合洋二〇·〇〇元)。迪哈線每噸每公里以二〇戈壁收費,全程七〇〇公里,收運費一四〇盧布(合洋三五〇·〇〇元),每甬筒二三〇盧布(合洋五·七五元),客票每位一六盧布(合洋四〇·〇〇元)。迪哈線,每噸每公里收運費一·三戈壁(合洋〇·三二五元),全程一四〇一公里,收運費一八二·一三盧布(合洋四五·〇〇元),每甬筒收運費三盧布(合洋七·五〇元),客票每位三五盧布(合洋九五·〇〇元)。中其迪哈線規定運費,客票價目,較其他各線高過一倍,並明白規定其理由曰:『凡在新疆境內,將土產由哈運輸出境,或從境外由哈輸入商品,各貨運費規定每噸每公里以二〇戈壁計算,以示限制。』以上四條公路幹線,統由新疆省汽車運輸總管局直接管轄,總局現有汽車二百七十餘輛,修理廠納有工人四百餘人,每月行車次數無定,開辦年餘,迪哈間通車僅達九次,迪塔間通車二十餘次,迪伊間通車十八次,迪喀間通車一次。觀乎新疆公路運輸狀況,吾人引為遺憾之點有二:(一)對於內地各省來新貨物,不應提高運費,以示限制。(二)新省土產出口,不應以限於某商,更不應提高運費,限止向內地各省流貨。此外,與內地各省交通之新綏汽車不應限其通至哈密為止。蓋新綏長途汽車公司,自綏遠至迪化,沿途均係荒漠戈壁,其營業目的,當在內地工業品與新省土產交換運輸之所得,今新綏汽車僅通哈密,哈迪線雖有省方汽車連接,但運費之昂貴,開駛日期之不定,不但旅客感無限之痛苦,終使輸入品滯留哈密,無法脫售,輸出品因無利可圖,亦告裹足。最近新綏車八輛自哈返綏,僅載玉石羊腸等六千餘斤,乘客三十三人,收入運費客票,僅數汽油消耗,如按汽車載重計算,裝貨可達一萬七千斤,目前情形一至於斯,其前途自可知矣。

新省運輸事業,除上述汽車運輸外,其含有歷史意義之駱駝運輸,亦頗有一述之價值。駱駝性能耐寒致遠,為長途沙漠,唯一良好之運輸工具,每駝負重二百五十斤,日行六十華里,每年秋季七月下旬放場,常年駝運期間約九個月,放場期間約三個月。新綏間貨物運輸,大多利用駱駝自綏至迪,每駝腳費約計四十至六十元,(如以汽車運輸,需費一百六十二元五角),凡新省出口土產,如駝毛、羊毛、羊皮等,舍駝運莫由,蓋以貨值較汽車運費低過二倍有餘也。近年新省皮毛出口內地各省者漸見減少,此項具有悠久歷史之駝運事業,於是一蹶不振。現新省各縣駝戶,只就境內各縣間轉運土貨,以博微利,往昔駝戶兼營土產出口業者,現亦闕焉鄉里,度其慘淡生涯矣。

第四節 青海

第一目 農業

青海地勢高峻,處全國中部,屬大陸性氣候,雨澤較少,土尙膏腴,極宜耕種。東部西寧一帶,黃河上游,田疇廣闊,有塞上天府之稱,每年所產稻麥,運銷甘肅及蒙藏遊牧各地,恆數十萬石。西部都蘭一帶,柴達木盆地,沃野千里,宜稻宜麥,昔為蒙族遊牧之所,禁人墾殖,以致荒蕪至今。南部玉樹一帶,長江發源之地,河流縱橫,氣溫土肥,藏族遊牧其地,不善耕耘,而西寧農人,嫌其遠阻,迄未移墾,以致地利未闢,荒棄化外,不可惜哉。全省農事,以西寧、樂都、民和、互助、湟源、大通、貴德、循化、化隆等縣,較為發達,近年在共和、壘源、同仁、都蘭、玉樹、囊謙等縣,亦次第試種,工作雖為粗率,而結果尙屬不惡。總其已墾地畝,尙不及全省可耕地畝數百分之一,(全省荒地據估計約有三萬二千六百餘畝,而現有耕地僅約二百餘畝。)以觀沿海各省,人

稠地狹，耕地不敷分配者，殊不可同日而語也。

一 農作物之環境

(一) 土壤 青海土壤，素無調查，難作詳確研究。大概青海中部，山脈盤結地層最古，土壤多係砂質土壤，頗可種植。北部多係花崗巖及片麻巖所成，以寒暑激烈而成細微砂礫，故北部黃砂較多，然亦非不毛之地。東南西寧一帶，屬黃土階級層，土壤膏腴，極宜種植。總之，青海全省宜於耕種之地，所在多有，倘能從事開墾，加以人工改良，良田美土，實非少數。

(二) 氣候及雨量 青海純屬大陸性氣候，空氣乾燥，雨澤稀少，冬夏寒暑均劇，晝夜變遷亦烈。西寧河湟一帶，氣候溫和，寒暑適中，雨量亦多，冬季最寒時亦不過華氏表十度上下，夏季亦有時至華氏九十度左右者。柴達木地方，夏季異常燥熱，日中蒸氣如釜，木葉自萎，秋天溫度，亦常較西寧為高，嚴冬始見積雪，十一月方始結冰，來春即釋。東南谷地及玉樹一帶，因據橫斷山脈北端，由滇康引入南海水氣，頗饒雨澤，寒暑適宜。至於通天河上游一帶，因地勢高亢，為全省氣候最惡劣之區。青海每年十一月至次年一月為最冷，冬末常起大風，每二三日不停，風起時天昏地暗，飛砂走石，在風季中，草木即次第而生，風止即為夏季。夏末又起風，風止則草木枯謝，即入冬季，故有『刮死刮活』之諺。雨水以秋季最多，春夏較少，每苦不足作物所需，冬多旱，若逢多雪之年，可資潤土，預兆來歲豐收，至春夏之間，山嶺積雪融解，即可藉以灌田。總之，每年平均雨量，約在十六英寸左右耳。雖雨量稀少，

青海各縣農產品產量概況表（單位以石計）

產 品	縣 別	產 量											
		和 民	和 樂	都 循	化 化	隆 貴	德 互	助 共	和 遠	源 大	通 壘	源 總	
青 稞		100,000	80,000	50,000	40,000	30,000	20,000	10,000	10,000	100,000	100,000	100,000	100,000
		100,000	80,000	50,000	40,000	30,000	20,000	10,000	10,000	100,000	100,000	100,000	100,000

然若能積極開墾，則黃河柴達木河通天河等水，均可引以灌田，且栽培森林，調節氣候，亦可解決雨量不足之弊。近年各地試種稻麥青稞豌豆玉蜀黍及各種菜蔬，均有成效，並試種美棉，亦有相當效果，其氣候之宜於農作可知矣。

二 主要農產物

青海農產以小麥、大麥、青稞（即裸麥）、蠶豆、豌豆、油菜、為大宗。燕麥、馬鈴薯、烟草、蕎麥、黍、糜等次之。小麥及蠶豆豌豆，多產於舊西寧屬七縣，每年產量尚無若何統計，大略言之，除供給七縣人民之食糧而外，則多運銷於青海內地蒙藏二族及甘肅皋蘭一帶。大麥、青稞、燕麥、馬鈴薯等，在已墾各地均有，但產量亦無統計。青海人民，以小麥、大麥、青稞、豌豆為主要食料。油菜到處均有，而以新墾地為尤多，除供給全省人民食用外，大部皆運銷甘肅蘭州。每於春夏之季，西寧一帶湟水之上皮筏絡繹不絕，多係運菜油及糧食往蘭州者也。煙草以樂都為最佳，亦為樂都大宗出產，運銷於全省及甘肅、蕎麥、黍等，出產於民和樂都西寧一帶，但為數很少，農人多不注意。麻則各縣皆有，但除農民自用外無多產，故每年尚有大批之麻，由外省輸入也。此外菜蔬則有白菜、蘿蔔、青菜、葱、蒜、韭、筍、甘藍（俗名大頭蒜）、辣角、菜瓜、黃瓜、芫荽、紅蘿蔔、甜菜、包菜等。果品則有杏、桃、李、蘋果、梨、柿、棗、胡桃、花榛、沙果、葡萄、西瓜等。茲據顧頤合著到青海去一書所載民國二十一年度青海各縣農產品產量調查如左：

大	麥	三,000	二,六八一	五,000	1,000	二,100	五00	六,000	1,500	100,000	1,500	二九,六八元
小	麥	八,000	三,三三三	三,六六六	五,000	18,000	10,000	六,三三0			三,000	二二,七四九
蕎	麥			四,六	11,000							三,四〇六
燕	麥			五,九	五〇〇			三,四〇	11,100	100,000		101,四九元
山	芋	五,000	1,五〇〇	三,三	11,000	六〇〇	五,五〇	1,000	100,000	五,五〇〇		1〇〇,1四七
小	米	1,000	1,000	一六	五〇	10	五					1,六五
胡	麻	1,100		四	1,000	五〇〇	11,000	1,400	100,000			10六,四四
芥	子			四六								四六
芋	麥				1,000							1,000
豆	類	三〇,100	一五,三〇九	四九	五〇〇,五	1,000	五,180	11,000	100,000	1,000		1六,四九六
玉	蜀黍				五〇〇							五〇〇
菜	子					五〇〇		五,000	五〇〇	100,000	五,五〇〇	二二,九〇〇
其	他		六,八〇〇									1六,八〇〇
合	計	三〇,100	一四,八〇〇	二,三三三	三〇,000	三三,100	八,100	1五,800	10,000	五〇〇,000	四,100	一,一七〇,〇三

三 租佃制度

青海租佃制度，約可分為三種，茲特分述於下：(一)佃租制：佃農與地主約

租土地時，先請中證人講明承租條件，承租畝數。普通約為二三十畝，耕地副產物

全歸佃農，至納租辦法約可分為二種，一為納租金法，按當時糧價而定納租之標

準，通常每畝三四元，但亦視風土情形而異。一為納租穀法，最高每畝一斗餘，最低

一升，普通五六升。(二)夥種制：種子地皮由地主供給，勞力耕牛及其他生產工

具，概由佃戶自備，生產結果，除去種子，兩家均分，而田賦差役捐稅則由地主負擔。

(三)僱農制：俗稱『莊頭』，田主人少地多，不能自己經營，乃將一部份土地，委

託於素所信任之貧農經營，此即莊頭也。莊頭之住所，農具，畜力，種子及其他生產

成本，概由地主供給，田賦捐稅皆由地主負擔，農場經營法則，皆秉承地主意旨而

行。生產結果，分配方法則有下述幾種：(1)除種子、畜力、農具、消耗、賦稅等外，其餘

兩家均分。(2)依四六或三七制分配，所謂三七制者，即地主納七分，莊頭納三分，

地主所得數目內包括種子畜力及農具賦稅等。(3)每年地主對莊頭的報酬依地主田場之大小及莊頭勞力者之多寡事先言定給與一定數量之生產物以作莊頭耕作之代價及多量之副產物以酬莊頭管理牲畜之力。

四 田賦

青海田賦約有四種或由習慣而來或因軍事而定故名目分歧輕重難均茲特分述於下：(一)屯糧屯糧之名始於漢代趙充國平羌至遼中寓兵於農自耕自給史所謂趙充國請馳至金城屯田遼中是也所墾之地多在平川水利便利之處其後事平兵撤轉為民耕故其田賦較重每一斗田地(青海田地不以畝計算係以升斗計算)有納糧二斗者有納糧三斗者甚至有四五斗者(俗謂之一地二糧一地三糧一地四五糧)多寡不等此外尚有屯草每納屯糧一斗即附帶納屯草一束(一束約重五斤)此乃屯糧本身所納之數目尚有差餉及其他負擔在外耕種屯糧田地之農戶攤派至重甚至許多農村種番糧地者不應差餉及雜賦亦均完全由種屯糧地之農戶負擔。(二)番糧番糧名目之由來為趙充國屯田遼中時以未墾盡之空地或為番族佔據而遊牧之地以後受漢族同化逐漸開墾升科且青海納番糧之地多為土司之田地故所納田賦謂之番糧其土壤水利與屯糧土地相等然其糧甚輕每一斗田地有納糧五升者有納糧一斗至多納二斗餘此外不納草即一切雜賦差餉亦較屯糧為輕故其地價較高於其他田地因之富豪之家多種此地貧農則無力購種。(三)秋糧秋糧係因土地本身關係而定有土壤較劣之田地禾苗不易成熟祇可種秋收之禾田俗謂之秋田此種禾苗只能種植穀豌豆燕麥山芋等收成較薄故其所納之糧別謂秋糧以示其輕每一斗田地有納糧三升者有納糧五升者至重約納一斗此等田地多屬旱地在山坡或凹凸之處價值最廉故多為貧農所耕種富農則嫌棄之。(四)營買糧此糧

之沿革由於清末光緒時劉錦棠平亂至西寧當時土匪橫行阻擾農民之收穫因之糧食缺乏軍糧不易購買故向農村攤派糧秣為維持現狀之辦法農民則計正賦之多寡平均而負擔之軍營收糧機關亦按市價發價並不折扣其實等於買糧故謂之營買糧迨匪剿平此例相沿雖除年年按例徵收然升斗之輕重多寡由收糧者意志而定並納營買草其秤無度一車之重有准十斤者近來僅發半價或者完全難以領到現在省政府已在整理田賦其目的欲增加正賦取銷營買糧草其法若能實現或可較免民衆之痛苦矣。

五 農村借貸

(一)特種借貸(1)當舖當舖在青海頗為普遍對農民之幫助甚大農民每到需款孔急時即可以其衣服首飾農具等物作抵押而借到銀錢但當舖為私人漁利機關固非正當之信用組織農民之農具抵當後往往無法贖取影響生產效率吃虧不淺當舖之利息普通為二分三分取贖期限各地不同而以十二個月至二十四個月者為最多。(2)義倉內地各省義倉管理權係操諸地方官之手青海各縣所設義倉則多由當地精神管理倉穀來源不外富者義捐及特別課稅幾種借放辦法各地大同小異每年播種前由各村領袖負責調查該村請求借糧戶數及其貧富情形擬定該村各家需糧呈報義倉管理機關統籌籌算傳榜開倉借糧人即以田契為質或由二人擔保或由村長擔保春借小麥一斗秋還小麥一斗二升秋後不還者明年即失信用停止借糧并追繳舊欠。(3)社倉社倉組織本以人民自動結合為原則各按其財產多寡湊集糧當米穀貯藏於村中以備荒歉時借貸之用管理人員亦由設立者公舉之各本自治精神處理一切事務此種組織與近代之農業倉庫似無二致惟青海社倉與此略有不同其倉穀來源及倉穀借貸辦法與義倉大同小異管理權操於縣府積弊惡習不堪言狀近年雖有數縣

已歸精神管理，然流弊所至，仍無異於往昔。此外又有所謂豐利倉、平糶局等，乃為一種慈善事業，與社會經濟信用無關，故不贅述。(4)錢會：錢會制度，種類繁多，舉其拳拳大者，則有搖會、拔會、攤會、標會等名目，內容情形，多半大同小異。攤會標會之名，在青海未嘗聞之，惟拔會與搖會之組織，在一般農民中，則常有之，但遠不及內地各省之盛。

(二)普通借貸 (1)借糧：春借小麥一斗，秋還小麥一斗五升或二三升不等，此為借糧還糧者。又有借糧還銀者，春借小麥一斗時，市價二十元，即作價三十元或二十幾元，秋收後，無論市價高低，即照作價還銀。(2)借貸：俗稱賒賬，如某甲在某商店賒買布一疋，市價值銀五元者，在某甲賬項內即記欠銀六元，秋收後如數償清。或除茶一包時，記為欠小麥一斗者亦有之。上述兩項借貸，多由個人人格及舖保為擔保。(3)借錢：利率通常月息二分或三分，最低一分半，最高亦有十分者，甚有照復利法計算者，俗名羊羔生息。例如某甲借錢百元，言明月息二分，期滿不還，即以復利法計算，第一年本利一百二十四元，第二年本利一百五十餘元，第三年本利達二百元，二分之利率經過三年後，利息與本銀相等。此制在青海各縣行之者，所在多有。借款時以自己田地或住房等不動產作為抵押，立具合同，書明歸還日期及利率，承借人如不按期付償利息，或屆期不還，債權人即依約管業，日後債務人將本息如數償清時，始得收回原業。

第二目 墾務

青海墾務，始自前清，雍正十年，西寧欽差大臣奏請於青海額色爾津地方試辦農墾，是為清代青海墾墾之始。宣統元年，青海大臣大興墾務，耗資二千餘萬兩，惜所用未得其人，成效未見。民國八年，蘭州曾置青海屯墾使，又以糧長莫及，徒具虛名。十二年春，寧海鎮守使於西寧設甘邊寧海墾務總局，並於西寧、湟源、大通、循

化、貴德、都蘭、玉樹、囊謙、大河垣、加拉寺等十處，各設分局一所，從事丈放。定荒地為三等九則：以土質肥沃，氣候溫暖，水利交通便利之地為上等；土質肥沃，氣候溫暖，水利交通不便之地為中等；土質瘠薄，氣候寒冷，水利交通不便之地為下等。凡承領荒地者，須按等則繳納照費，而辦理未及一載，以經費支絀，遂將墾務事項移歸鎮守使署兼辦。此後人民領墾者，自動開具承領，由鎮守使署發給執照，既不徵收地價，開墾亦聽自然。

民國十六年，改甘邊寧海墾務總局為西寧道屬墾務總局，以西寧道尹林鏡為總辦，復委朱續為會辦，先就西寧道屬七縣開放荒地。局設總務、清丈、調查、測繪、統計五股，每股主任一員。各縣設立分局，由縣長兼局長，惟西寧一縣，由總局兼辦，俱不再支薪水及經費。茲將西寧道各縣荒地每畝價格列表列次：

西寧道屬墾務總局荒地每畝價格等則表(單位元)

等別	則		
	上	中	下
等	二.〇〇	一.〇五	一.〇〇
中	〇.八〇	〇.七〇	〇.六〇
下	〇.五〇	〇.四〇	〇.三〇

凡承領荒地者，先向主管局購取呈請書註明墾戶及領地名稱，投遞後，由主管局根據原書隨時派員清丈，按所丈畝數發給丈單，墾戶向主管局繳清地價，並繳銀二元，換取管業執照，則該地所有權即屬原領墾人。領地三年後，無論墾竣與否，復按財廳規定田賦章程，依附近田賦情形，酌定糧額，悉數升科。若查出既未領有執照，又未照數納糧，經清丈後，則按前定等則加二倍繳納領照，並於本年內一律照章升科。此次辦理墾務，成績尚佳，計丈放荒地二萬八千二百八十餘畝，及私

墾熟地八千九百一十四畝，共收地價銀二萬一千二百四十餘元。升科正糧一百五十餘石，草一百三十一束。其中承領荒地，以西寧爲最多，私墾熟地以湟源爲最多，因之升科糧草，亦以湟源爲最多。他如碾伯（今樂都民和二縣）大通等縣，亦辦有成效。

民國十七年，青海改進行省，改西寧墾務總局爲青海省墾務總局，任鄧德堂爲局長，局設三種各縣分局，仍因舊制。翌年，甘肅以旱災致歉，所有食糧軍糧，悉仰給於青海，加之孫仲連軍三萬餘人駐青，因之糧價暴漲，糧產供不應求，農民相率領墾，頗形踴躍。墾務局借此機會，遂將前定地價提高，改定價格如左表：

青海省墾務總局改定荒地每畝繳價等則表（單位國幣元）

等別	上則	中則	下則
上等	二·六〇	二·四〇	二·二〇
中等	一·〇〇	一·八〇	一·六〇
下等	一·四〇	一·二〇	一·〇〇

其他一切手續，均未更張，辦理未及一年，計丈放荒地及私墾熟地至二十萬七千七百五十餘畝，收地價洋一十五萬四千二百零八元。至期升科地二萬五千七百六十餘畝。

十八年秋，孫軍東下，馬麟繼任主席，委居占繁爲局長，局務費續進行，無甚變更。惟農村經濟日衰，領墾者日少，每月所收墾款，幾不足開支該局經費，有謂地價太高者，遂將前定每則減低四角，而領墾者仍屬寥寥。加之青海財政日艱，爲節流起見，爰於民國十九年經省務會議決議，將墾務總局歸併財政廳兼辦。改名爲青海省財政廳清理總處，以財政廳長魏敷滋兼總辦，馬肇業爲坐辦。處設二股，設置

主任一員，各縣清理分處，仍以縣長兼之，准在所收地價內提取百分之一作辦公費，墾務章則略加修改，其餘仍舊。計丈放荒地九千八百五十餘畝。惟是墾務糾紛異常繁多，其處理辦法即依墾章，凡持有執據者，爲私有，他人不得冒領，若無執據者，爲官有，以先領人有優先權，准其繳價領照，從事開墾，他人不得藉故領佔而生爭持，倘有不服者，飭即逕向法院起訴。

自民國十六年四月起，至二十二年三月底止，經青海墾務機關，丈放之生熟荒地，共計二十八萬四千六百八十餘畝。茲將各縣丈放荒地畝數列表於下：

青海各縣丈放生熟荒地畝數表

縣別	丈放荒地		共計
	生地	熟地	
西寧	一五七、一九五	三六、九七三	一八四、〇六八
大通	三三、〇四一	六七五	三三、六九一
樂都	七、四六八	五、三六三	一二、八三二
互助	三、八三三	四、九四三	七、八七六
貴德	三、六九五		三、六九五
化隆	七、三九八	三〇、八四	三八、二四二
湟源	四、五七九	一、五九五	六、一三三
民和	一、八〇六	一、四九	三、三〇五
鹽源	八、〇〇〇		八、〇〇〇
共和	六、五三三		六、五三三

都	100.00	100.00
循	七五.00	七五.00
總計	二五、四三	二四、六一九

民國二十二年，中央令飭各省市限期成立土地機關，青海遂將財政廳清墾處及各縣分處一律裁撤，設立青海省土地局。土地局成立後，即擬定組織簡章，清丈辦法，及土地局暫行辦法，內容與前墾務章則相同。設局長一員，內分一二兩科及祕書室，各科設科長一人，祕書室設祕書一人。惟西寧附近各縣荒地大都開闢，加以近年該省及鄰封各地，秋收尙豐，以致農產銷路疲滯，糧價日跌，毀賤傷農之聲，瀰漫全省，人民經濟日趨破落，以是領墾者寥寥若晨星。該局成立之初，訂定工作大綱，擬向都蘭玉樹一帶發展墾務，但以財政困難，迄未積極推行。茲將該局工作大綱錄列如左：

- (1) 繼續辦理前墾務局已丈地畝，發給丈單。倘未交價換照者，催其從速交價領照，並派調查員分途調查以前所領墾地，是否確實，以資從事清理。
- (2) 另定移墾章則，招民開荒，同時獎勵蒙藏人民自動墾荒，以期日趨開化，鞏固邊疆。

(3) 擬將全省分爲四大墾區，以湟源壘源共和等縣爲東區，和碩特等旗遊牧地爲北區，哈伊瑪圖山之西及巴顏哈拉山之北爲西區，玉樹土司所管蒙古爾津、固察、拉卜、福多爲南區。組織調查隊四組，分往各區，酌定畜牧地，劃分民墾區，并勘定兵墾區域，編號繪圖，以爲從事開墾之張本。

第三目 土地

一 土地面積

第一表 各縣轄境面積

縣別	面積 (積舊制方里)	備考
縣		
玉樹	一、〇六〇、〇〇〇	二十二年四月民政廳查報。又查二十二年七月縣政府估報爲七、七〇〇、〇〇〇方里。
都蘭	六七五、〇〇〇	二十二年一月縣政府估報。(民政廳查報亦同此數。)
同仁	七一、四〇〇	二十二年四月民政廳查報。
貴德	五八、八〇〇	二十二年十月縣政府估報。又查民政廳查報爲三七、八〇〇方里。
壘源	二四、七五〇	二十二年四月縣政府查報。(又民政廳查報亦同此數。)
共和	二四、〇〇〇	二十二年四月縣政府估報。(民政廳查報亦同此數。)
大通	一三、二〇〇	二十二年五月縣政府估報。(民政廳查報亦同此數。)
西寧	一六、八〇〇	二十二年五月縣政府估報。(民政廳查報亦同此數。)
樂都	一六、〇〇〇	二十二年四月民政廳查報。又查二十二年六月縣政府查報爲九二〇〇方里。
互助	一三、五〇〇	二十二年四月民政廳查報。又查二十二年七月縣政府估報爲七五〇方里。後因劃分該縣面積約一萬餘方里。現存約爲六二二方里。
化隆	一三、〇〇〇	二十二年四月民政廳查報。又查二十二年七月縣政府估報爲七五〇方里。
民和	一一、六〇〇	二十二年七月縣政府估報。(民政廳查報亦同此數。)
民和	一一、〇〇〇	二十二年四月民政廳查報。又查二十二年七月縣政府估報爲八四〇〇方里。

遼源	一一、〇〇〇〇〇	二十二年四月民政廳查報。又查二十年縣政府查報清宣統二年出版丹葛爾廳志所載為四二〇〇方里。
----	----------	--

囊謙	—	—
----	---	---

附註

(1) 以上各縣面積總計為二、〇三二、〇五〇舊制方里。
 (2) 各方發表青海省面積數目如下：
 (甲) 參謀本部陸地測量總局 二、一〇一、四〇〇舊制方里
 (乙) 青海民政廳 二、〇一一、〇五〇舊制方里
 (丙) 北平地質調查所 二、一三一、〇一九舊制方里
 (原數為七〇七、〇二二方公里。)
 (丁) 亞新地學社地圖 二、五六二、五〇〇舊制方里
 (3) 各縣面積分組統計如後：

一〇〇、〇〇〇方里以上	二縣(玉樹縣最大)
九〇、〇〇一方里——一〇〇、〇〇〇方里	—
八〇、〇〇一方里——九〇、〇〇〇方里	—
七〇、〇〇一方里——八〇、〇〇〇方里	一縣
六〇、〇〇一方里——七〇、〇〇〇方里	一縣
五〇、〇〇一方里——六〇、〇〇〇方里	—
四五、〇〇一方里——五〇、〇〇〇方里	—
四〇、〇〇一方里——四五、〇〇〇方里	—
三五、〇〇一方里——四〇、〇〇〇方里	—

明	說
三〇、〇〇一方里——三五、〇〇〇方里	—
二五、〇〇一方里——三〇、〇〇〇方里	—
二三、〇〇一方里——二五、〇〇〇方里	三縣
二一、〇〇一方里——二三、〇〇〇方里	—
一九、〇〇一方里——二一、〇〇〇方里	—
一七、〇〇一方里——一九、〇〇〇方里	—
一五、〇〇一方里——一七、〇〇〇方里	二縣
一三、〇〇一方里——一五、〇〇〇方里	一縣
一一、〇〇一方里——一三、〇〇〇方里	三縣
九〇〇一方里——一一、〇〇〇方里	一縣(遼源縣)

本表所列青海省各縣轄境面積，係根據該省民政廳及各縣政府查報之數，惟此項數字多係估計，準確程度不無欠缺，經核結果，各縣面積總數，與各方發表該省面積，尚屬相近，爰暫編發表，以供目前參考。

查民政廳原報表內註稱：各縣面積係根據各縣所報及風土概況表參合填列，尙有果洛一部，因未設縣治面積無從調查，暫付缺如。又查囊謙縣係於民國二十二年十一月以囊讓地方改置，其面積若干，尙無確數可知，本表所列玉樹面積，仍包含該縣在內。

(上表見內政部編內政調查統計表第二十一期)

二 土地利用

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

第二表 各縣耕地園圃及森林面積

縣別	耕地畝數	園圃畝數	森林佔地畝數	共計
大通	六二六、〇〇〇	三七〇	一四、七〇〇	六四一、〇七〇
慶源	一七五、三七六	八〇	三、六七〇	一七九、一二六
循化	六九、八〇二	四二九	二七、六五五	九七、八八六
貴德	一一六、四一〇	二、六一七	二六、八六八	一四五、八九五
化隆	一、六四七、〇〇〇	一四、八九七	五〇、七六〇	一、七一二、六五七
湟源	七八、〇〇〇	八〇一	一、〇五〇	七九、八五一
共和	四二、五九四	三三九	五、三九〇	四八、三三三
玉樹	一〇五、五五〇	—	二四三、〇〇〇	三四八、五五〇
都蘭	四八六	—	—	四八六
總計	二、八六一、二一八	一九、五三三	三七三、〇九三	三、二五三、八四四

附註 都蘭縣園圃及森林佔地面積未據查報。

三 土地分配

第三表 各縣耕地分畝狀態

類別	農戶		所有耕地	
	戶數	分畝	戶數	分畝
私	有地一〇〇畝以上者	三、七四〇	一一、一〇〇	一、八三七、三五五
	有地五一——一〇〇畝者	五、三九一	一五、九九九	四四一、八七五
	有地三一——五〇畝者	七、六一九	二二、六〇〇	二七〇、四五四
有地	—	—	—	九四五

附註	總計	公有地	耕地	有地一〇畝以下者	有地一一—三〇畝者
		八、二六六	八、六九二	二五、七九	一七五、五四八
附註	三三、七〇八	二四、五二	五七、九二八	二、〇二	六、二四
上表係根據大通等九縣查報數字編制。	一〇〇、〇〇	七八、〇五八	二一、八六一、二二八	一〇〇、〇〇	二、七三

第四表 青海各縣土地價格分配表

價格分組	類別		田		地		山		園		
	等	級	上	中	下	上	中	下	上	中	下
五元以下者	一	二	一	二	三	四	五	六	一	二	三
六元—一〇元	三	二	一	二	三	四	五	六	一	二	三
一一元—一五元	一	二	一	二	三	四	五	六	一	二	三
一六元—二〇元	一	二	一	二	三	四	五	六	一	二	三
二一元—二五元	一	二	一	二	三	四	五	六	一	二	三
二六元—三〇元	一	二	一	二	三	四	五	六	一	二	三
三一元以上者	一	二	一	二	三	四	五	六	一	二	三

附註

(1) 以上各數，均係縣數共計報有田之價格者七縣，地之價格者八縣，山之價格者七縣，園之價格者四縣。

(2) 田之價格，以化隆縣為最高，循化次之，湟源最低，其每畝價格如左：

化隆 上等五〇元 中等三〇元 下等二〇元

循化 上等五〇元 中等三〇元 下等二〇元

湟源 上等五〇元 中等三〇元 下等二〇元

註

(3) 地之價格，以循化玉樹為最高，湟源最低，其每畝價格如左：

循化 上等二〇元 中等一五元 下等一〇元

玉樹 上等二〇元 中等一五元 下等一〇元

(4) 山地之價格，以玉樹為最高，循化次之，湟源最低，其每畝價格如左：

玉樹 上等八元 中等七元 下等六元

循化 上等八元 中等七元 下等六元

(5) 園地價格，以循化為最高，化隆次之，湟源最低，其每畝價格如左：

化隆 上等二五元 中等二〇元 下等一五元

循化 上等二五元 中等二〇元 下等一五元

湟源 上等一五元 中等一〇元 下等七元

第五表 土地價格變動之縣數

種類	增加者		減少者		無增減者	
	縣數	百分數	縣數	百分數	縣數	百分數
田	七	四二·八六	三	四二·八六	一	一四·二八
地	八	三七·五〇	三	三七·五〇	二	二五·〇〇
山	七	二八·五七	三	四二·八六	二	二八·五七
蕩	二	五〇·〇〇	一	—	一	五〇·〇〇
園	四	二五·〇〇	三	七五·〇〇	一	—

七 土地稅額

第九表 土地稅額

分組(元)	田			地			園		
	上等	中等	下等	上等	中等	下等	上等	中等	下等
○一以下	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○一一—○二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○二一—○三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○三一—○四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○四一—○五	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○五一以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—

附註

(1) 報有田地兩畝稅者各七縣，園稅者三縣，田畝稅額，湟源縣之中下兩等及共和縣之下等，均未填報。

(2) 大通等七縣中，有雜稅而未填列稅額者為化隆縣，註明無雜稅者為大通，循化，貴德，共和，玉樹五縣，湟源縣未經註明，有無雜稅，無從查悉。

(3) 各縣各種土地，每畝稅額之總平均數如下：

(一) 田 上等每畝 三角一分八釐 中等每畝 二角五分四釐 下等每畝 二角零六釐

(二) 地 上等每畝 一角七分五釐 中等每畝 一角五分 下等每畝 一角三分

(三) 園 上等每畝 二角九分四釐 中等每畝 二角五分九釐 下等每畝 二角二分四釐

第四目 水利

青海水利之興，肇端西漢。武帝時趙充國西征，屯兵湟水，擇膏腴土地，引水灌田，用充糶糧。彼時興辦區域，僅及今西寧、樂都、大通、貴德等縣，後漸及於各處，人民因而耕之，歷經晉、隋、唐、宋、元、明、清各代，無大進展。民國以來，青海境內，時感雨量不足，農民對於水利，孜孜講求，不遺餘力，惟地方官廳，忽視民瘼，各地水利工程，率多人民自動經營，殆無整個設施，而工程浩大者，因於財力，多未興辦。於是茫茫沃野，徒以水利不便，無法開墾，各縣現有耕地，亦因雨水缺乏，荒歉頻仍，可不惜哉。茲將青海各縣現有渠道就調查所得列表如下：

(一) 西寧縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
西那河渠	六〇	一五、〇〇〇
雲谷川渠	五〇	一、九〇〇
康羅河渠	二〇	一五、〇〇〇
前後溝水渠	三五	一一、三〇〇
北川臨城上渠	四〇	九、七〇〇
北川泉灣水渠	五	一一、三〇〇
北川臨城下渠	五	一一、三〇〇
酒澤渠	一〇	一、三五〇
雙廟渠	一八	二、五二〇
雙蘇渠	五	一、三〇〇

(二)互助縣水渠之長度及灌田之面積

朝陽渠	二〇	三、四五〇
臨城南渠	二〇	九、五〇〇
臨城北渠	一〇	一、四〇〇
殷劉堡渠	二〇	九、八三〇
南川西水渠	七〇	一五、五〇〇
南川河水車渠	六〇	一三、〇〇〇
毛家寨渠	一五	五、五〇〇
柳灣渠	一〇	一、五〇〇
平安鎮渠	二〇	二、四〇〇
西其水渠	一五	四、五〇〇
實惠溝南渠	三〇	五、〇〇〇
共計	一三八	一四四、九五〇

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
塘東渠	八〇	三四、八〇〇
塘西渠	六六	二二、六〇〇
紅崖渠	五〇	三七、〇〇〇
哈拉渠	九〇	二二、〇〇〇
五泉渠	一八	二、〇〇〇

(三)化隆縣水渠之長度及灌田之面積

長寧渠	二五	一四、五〇〇
景陽渠	三五	一四、〇〇〇
曹家渠	二七	二、〇〇〇
共計	三九一	一四七、九〇〇

(四)樂都縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
上多巴水渠	八	一、〇〇〇
下多巴水渠	五	五〇〇
清和村水渠	一二	九〇〇
舍仁水渠	二〇	一、八〇〇
乙沙爾水渠	九	二、〇〇〇
甘都河西渠	二六	三、三〇〇
甘都河東渠	二〇	三、一〇〇
共計	一〇〇	二二、一〇〇

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
歸德渠	六·五	一八〇
高店溝渠	一四	八〇

高店堡渠	五〇	四、五〇〇
馬哈喇渠	二〇	一、六〇〇
深溝渠	二七	一、六〇〇
峯堆渠	三三	二、四〇〇
七里堡渠	三三	五、二〇〇
熊沈周林莊渠	一〇	八〇〇
岡子堡渠	一八	二、八〇〇
岡子溝渠	二二·五	五七四
湯官渠	一〇	二、〇〇〇
雙塔堡渠	四五	三、四六〇
雙塔溝渠	二六	六九〇
紅水渠	一六	二、四〇〇
集鸞渠	一五	一、二八〇
阿鸞渠	一〇	一、二〇〇
器疊渠	三一·五	一、七二〇
洛巴渠	一〇	八〇〇
那能溝渠	一五	一、〇〇〇
硤口渠	一〇	一、五〇〇
早莊渠	二八	四、〇〇〇
迭爾溝渠	一七	一、五〇〇

馨木只溝渠	一九	一、五〇〇
大小古城渠	二五	五、〇〇〇
勝香溝渠	五一	四、五〇〇
八里堡渠	一六	三、〇〇〇
保塔寺渠	一〇	二〇〇
土官渠	一六	一、六〇〇
羊官渠	六	六〇〇
石嘴莊渠	一八	二、二〇〇
高廟渠	一六	三、〇〇〇
長里渠	二二	一、八〇〇
卯寨渠	六	一、〇〇〇
旱地灣渠	二二	一、三〇〇
白崖渠	一四	二、二〇〇
老鴉渠	二五	二、八〇〇
共計	七二〇·五	七六、〇〇〇

(五) 民和縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
上川口渠	二四	一、五〇〇
吉家渠	八	七〇〇

萬泉渠	一、八〇〇
祁家渠	八〇〇
巴州渠	三、〇〇〇
細巷渠	五〇〇
南石嘴渠	一、五〇〇
上川新添堡渠	八〇〇
李二堡渠	一〇〇
新順渠	〇·五
路家渠	四〇〇
李士司家人莊渠	五〇
史納渠	五〇
百戶渠	五〇
下川口渠	一、八〇〇
高召渠	五〇
古鄯慈利寺渠	三〇〇
古鄯渠	五〇〇
總堡渠	八〇〇
開化渠	八〇〇
三家渠	四〇〇
李士司原坡莊渠	一〇〇

紅嘴渠	八	一、六〇〇
鐵家渠	二	一、一〇〇
撒麻渠	一	三、五〇〇
延壽族渠	三	三〇〇
朱家渠	一	一〇〇
呂家渠	〇·五	二、五〇〇
德化渠	一	三〇〇
趙防山渠	三	三〇〇
趙木川渠	三·五	一、〇〇〇
共計	二一〇·六·五	二一〇、六〇〇

(六)大通縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
河東川渠	—	六、二〇〇
河南川渠	—	二四、〇〇〇
河西川渠	—	一一、〇〇〇
河北川渠	—	二〇、〇〇〇
共計	—	六一、二〇〇

(七)蘆源縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
浩靈河渠	—	一二,〇〇〇
共計	—	一二,〇〇〇

(八) 渥源縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
城臺南渠	二	四〇〇
池漢渠	一八	六,〇〇〇
立大莊上渠	一〇	一,四〇〇
立大莊下渠	五	一,二〇〇
大路莊渠	二〇	一,六〇〇
俊家莊渠	一	四〇〇
上納隆口渠	—	二八〇
阿家兔渠	三	六〇〇
星泉渠	五	一,六〇〇
上達化渠	四	二,四〇〇
拉拉渠	一〇	六,〇〇〇
申中全莊渠	一五	二,七〇〇
下納隆大莊渠	九	四,〇〇〇
兔爾干渠	三	四〇〇

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
克素爾渠	—	二〇〇
藥水渠	—	三〇〇
小高陵渠	五	一,二〇〇
大高陵渠	八	三,六〇〇
治人莊渠	五	三,二〇〇
蒙古道渠	一五	一,六〇〇
董家莊渠	—	一,二〇〇
下石崖渠	—	八〇〇
共計	一三八	四一,〇八〇

(九) 共和縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
民生渠	九	九〇
曲溝大渠	五	三,六〇〇
蘇寧拉渠	二	四〇〇
此汗土夫渠	—	四〇〇
加拉大渠	一六	二,〇〇〇
哈汗土夫渠	—	五〇〇
格拉渠	四	八〇〇
沙珠玉渠	六	二,四〇〇

曲乃亥渠	三	一,二〇〇
羅河堂渠	一	一,二〇〇
答浪渠	一	六〇〇
撮那渠	一	八〇〇
尼那渠	二	一,一〇〇
和爾加渠	二	二,〇〇〇
阿石貢渠	一	四〇〇
柔讓渠	二	一,一〇〇
共計	一七	四一,二〇〇

(十)都蘭縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
希里溝渠	一五	二,〇〇〇
哈拉哈圖渠	一〇	一,〇〇〇
郭密渠	一〇	一,〇〇〇
察卡渠	一	三〇〇
得多略渠	一	三,〇〇〇
郭爾毛渠	二〇	三,〇〇〇
香日得渠	一〇	一,〇〇〇
察汗烏蘇渠	一〇	一,〇〇〇
共計	七六	九,五〇〇

(十一)循化縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
查漢大寺渠	二〇	一,〇〇〇
蘇只渠	二〇	一,〇〇〇
邊都溝渠	一〇	一,〇〇〇
純義溝渠	一五	一,〇〇〇
中庫溝渠	四二	一,〇〇〇
查家渠	一	一,〇〇〇
街子渠	四九	一,〇〇〇
草灘壩渠	二	一,〇〇〇
崖慢渠	二〇	一,〇〇〇
起台溝渠	一	一,〇〇〇
張榮渠	一〇	一,〇〇〇
清水渠	一〇	一,〇〇〇
共計	一九八	一,〇〇〇

(十二)同仁縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
五屯寨渠	一〇	七〇〇
過瑪爾渠	五	六〇〇

柔撒爾渠	五	六〇〇
曲馬溝渠	三	二四〇
沙哈場溝渠	五	一、四〇〇
耶家溝渠	五	三二〇
碼巴渠	五	七〇〇
共計	三八	四、七〇〇

(十三) 貴德縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
七家渠	—	—
周屯渠	一〇〇	六二〇
攬角渠	九五	九五〇
王屯渠	一一〇	七二〇
東鄉渠	一八〇	二、五〇〇
上高渠	一八〇	五、四〇〇
達子渠	一八〇	六、七〇〇
查義渠	一八五	六、五〇〇
郭拉渠	一八八	五、二〇〇
教場渠	一九〇	一、二〇〇
官渠	一八八	三、二〇〇

興農渠	一九二	一、八〇〇
工巴大渠	一八〇	一、〇〇〇
洛卡渠	一九〇	六三〇
桑堡渠	五	七、〇〇〇
李家渠	一	五、〇〇〇
康楊渠	一五	三、〇〇〇
麻蓋塘昂拉兩渠	八	一〇、〇〇〇
亞河渠	四〇	二、〇〇〇
熱水渠	二〇	二、〇〇〇
砂溝渠	二〇	三、〇〇〇
納漁湖渠	五	一、〇〇〇
莽拉渠	一五	二、三〇〇
共計	二、二八七	八二、三〇〇

(十四) 囊謙縣水渠之長度及灌田之面積

水渠名稱	全渠長度(里)	灌田畝數(畝)
巴麻莊渠	五	四〇〇
共計	五	四〇〇

第五目 牧畜

青海河泊雜錯，草木豐茂，故牧畜之盛，自古已然。迄今遊牧之區，猶占全省土

地四分之三，類以存活者達全省人口二分之一以上，全省經濟之榮枯，財政之贏絀，恆視牧產之暢銷與否爲斷；由是觀之，青海牧畜之重要可知矣。惟惜土人故步自封，不求改進，當局只知徵稅，不計牧政；於是畜疫流行，死亡狼藉，畜種退化，產品低賤，向恃以繁榮者，今且病之矣。

一 牧人生活

青海蒙藏兩族人民，未識農耕之利，向以牧畜爲業，逐水草而居，無一定住處，張幕以禦風雨，四季以放牧爲事。夏季山上草茂，即率畜羣至山頂，謂之夏窩子。至九十月間，山上降雪，乃下至平原，於山之陽，張天幕越冬，謂之冬窩子。牧地草叢高至二三尺，畜在其中，自由覓食，大有風吹草低見牛羊之景象。畜羣少者二三百頭，或五六百頭不等，多者達數千頭。蒙藏人民以畜羣爲惟一財產，故終其身，以牛羊爲友。其監督畜羣之法極善，一人可牧四五百頭，牧者騎馬來往呼喚，畜羣即可循聲進止。又畜羣必需番狗，番狗獠猛異常，每家恆養數頭，以警護畜羣，故不受狼害。青海之羊羣，皆係山羊與綿羊混牧，山羊比綿羊勇敢機敏，羊羣移動之際，使作前導，極爲簡便。

二 牲畜種類

青海牲畜，種類繁夥，以馬牛羊爲大宗，駱駝騾驢豕犬等次之。青海之馬，以下郭密一帶所產者最佳，世稱西口馬，其馬高大雄駿而首略小，鬣長有垂及地者。凡內地馬必須蹄釘鐵掌以護趾甲，青海馬則蹄甲甚堅，多不釘掌，且能行速負重，由此即可知其馬種之良矣。牛類，約可分爲三種：一曰犛牛，俗名毛牛，毛有黑斑黃三色，爲青海之特產。尾大毛長，狀貌凶惡，望之令人生畏。用以馱載貨物及耕田，力能負重致遠，健勝駝馬，惟性烈難馴。二曰黃牛，亦名食牛，身小而馴，可爲耕田之用。乳肉最宜食用。三曰犏牛，乃牡黃牛與牦牛相交所生者，雄壯有力，皮革甚堅，多

力善馱，其功用與駱駝同。羊類，有山羊綿羊兩種。山羊較綿羊爲小，其性勇敢，行走迅速，混牧於綿羊羣中，可爲先導。其毛色雜質劣，僅可爲氈帽等物之原料，肉甚佳，美，多供食用。綿羊依其形狀之不同，又可分爲三種：一曰普通小尾羊，俗名番羊，青海湖濱附近諸蒙旗，巴顏哈拉山南部剛察、千布勒等八族，及黃河南阿利克、魯倉等十八族，所牧羊羣，多屬此種。身高力大，角毛均長，惟尾較小，毛極豐澤，或黑或白，顏色均一，甚爲美觀。體重平均約五六十斤，每年可剪毛五斤，毛管油脂適度，纖維細長，而有光輝，用以織造呢絨，最爲適合。已與奧美利奴羊毛近似，故西寧毛開價常比他種爲高者，即此故也。二曰玉樹小尾羊，青海南部，玉樹二十五族所畜之羊，亦爲小尾，惟體軀較小，體重約四十斤，剪毛量亦少，而毛質纖維之細度及捲曲度，遠非普通小尾羊所可及，以之紡織法蘭絨及細呢等，均稱上品，就其羊毛之品質言，可謂全國冠，洵青海之特產也。三曰大尾羊，俗名蒙羊，此羊分佈最廣，我國各省皆有之，原產外蒙古，當明末時代，蒙旗各部入據青海北部，始將此羊畜殖於青海草原，惟此羊輸入青海後，牧畜於柴達木盆地一帶者，因氣候溫暖，土富鹽鹼，羊肉脂肪適度，味極可口，體重平均約六七十斤，成熟閹羊重達五六十斤者，比比皆是。惟毛質粗短，平均每隻每年可剪四五斤，其本身條件近乎肉用種，爲蒙民一日不可或缺之食料。青海蒙藏人民，以游牧爲生活，以羊皮爲衣服，以其乳與肉爲食品，以其毛製爲帳幕，取其糞爲燃料，衣食住三者均有賴於羊，故以多畜爲貴。駱駝以柴達木所產者最良，力能負重，耐渴行遠，良於沙漠旅行，稱爲旱海之舟。騾驢俱能耐勞致遠，爲青海運輸之利器。豕有黑白二色，可供食用。犬有二種：一曰獵犬，產於柴達木，獵戶多畜之。二曰家犬，俗名番狗，巨者大如驢，能追及豺狼噬殺之，狐兔聞聲即遁，蒙藏游牧人民極重視之，用以保護畜羣。

三 牲畜統計

青海畜牧雖盛，然以地方遼闊，交通不便，其牲畜產額，向無精確統計數字可尋。茲僅將青海牲畜產額估計之約數，列表如左：

種	類	常	年	產	額(單位頭)
馬	騾	驢			一〇〇,〇〇〇
牛					二〇〇,〇〇〇
羊					一〇〇,〇〇〇
駱駝					五〇,〇〇〇
豬					一〇,〇〇〇
家禽					一〇〇,〇〇〇

(上表見新青海月刊二卷五期)

四 牧畜產品

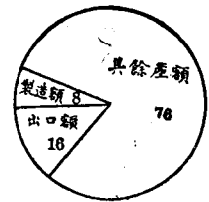
青海牧畜產品，以羊毛為輸出大宗，皮革次之，其他各種產品又次之。據青海省政府報告，近年每年皮毛收入為五十萬零二千餘元，而田賦及墾地收入祇二十一萬二千五百餘元，尚不及皮毛收入之半，可知皮毛出產，實係青海經濟命脈之所寄矣。

(一)羊毛 青海所產羊毛，俗稱西寧毛，其品質實為全國冠，歐美人士極稱道之。據中國貿易通誌云：「青海西寧為中國西北羊毛之集散地，每歲出口者，佔全國羊毛出口百分之五十。」觀此可知青海羊毛，實我國西北對外貿易之主要商品，與國家貿易且息息相關，是豈特寄青海經濟之命脈而已哉，故言開發青海者，對羊毛事業尤應加倍注意也。青海除設立縣治各地，大都為農業社會外，其餘蒙藏兩族，皆以牧畜為生，而各縣農民，於耕稼之餘，仍多以牧羊為其副業，故貴德、大通、循化各縣，亦有大宗羊毛輸出也。茲將青海各區羊毛產量列表於下：

產區	每年產量(斤)	備考
貴德縣	二〇〇,〇〇〇	
循化縣	一〇〇,〇〇〇	
化隆縣	一〇〇,〇〇〇	
大通縣	一〇〇,〇〇〇	
玉樹縣	四〇〇,〇〇〇	此區內尚有鴉鄂江瀾滄江一帶
囊謙縣	二五〇,〇〇〇	
都蘭縣	五〇〇,〇〇〇	此區內尚有布哈河沿海各地及香日德榮達木河一帶
剛察族	二〇〇,〇〇〇	
郭密族	一八〇,〇〇〇	
綜舉族	一八〇,〇〇〇	
牙拉族	二〇〇,〇〇〇	
碾磧族	一六〇,〇〇〇	
其他各地	一〇〇,〇〇〇	
總計	三五〇〇,〇〇〇	

(據拓荒三卷一期)

上表係按產量額數之大概情形估計者，若經詳細調查，則其最大產量，必不止此數。青海羊毛，歷年運輸出口者，約佔全省產額百分之十六，本省製造需用者，約佔百分之八，合計約八百四十萬斤左右，即在三千五百餘萬斤內有用途者，僅八百四十萬斤而已，其餘皆因無處脫售，棄置無用。茲統計之如下圖：(採自拓荒三卷一期)



上圖以全產額為百分比，出口額佔十六分，製造額佔八分，其餘產額七十六分，皆為屯積無用之物。

歷年羊毛產銷及製造數量表（採自拓荒三卷一期）

年	度	生	產	數(斤)	出	口	數(斤)	本	省	製	造	數(斤)	每	百	斤	價	值(兩)
十	三	年		三〇,〇〇〇,〇〇〇	七,五〇〇,〇〇〇		一,〇〇〇,〇〇〇									一九〇〇	
十	四	年		三〇,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇		一,〇〇〇,〇〇〇									二一〇〇	
十	五	年		二〇,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇		一,五〇〇,〇〇〇									一八五〇	
十	六	年		三五,〇〇〇,〇〇〇	七,五〇〇,〇〇〇		一,五〇〇,〇〇〇									一〇八〇	
十	七	年		四〇,〇〇〇,〇〇〇	六,〇〇〇,〇〇〇		一,五〇〇,〇〇〇									一二五〇	
十	八	年		五〇,〇〇〇,〇〇〇	五,五〇〇,〇〇〇		三,〇〇〇,〇〇〇									一四五〇	
十	九	年		四五,〇〇〇,〇〇〇	五,五〇〇,〇〇〇		三,〇〇〇,〇〇〇									一六〇〇	
二	十	年		三五,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇		三,五〇〇,〇〇〇									一八〇〇	
二	十	一	年	三〇,〇〇〇,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇		三,五〇〇,〇〇〇									一〇〇〇	
二	十	二	年	二五,〇〇〇,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇		三,五〇〇,〇〇〇									一二〇〇	
總	計			三四,〇〇〇,〇〇〇	五六,〇〇〇,〇〇〇		二八,〇〇〇,〇〇〇									一五二三〇	
平	均			三四,〇〇〇,〇〇〇	五六,〇〇〇,〇〇〇		二八,〇〇〇,〇〇〇									一五二三三	

青海羊毛全年產額，雖云平均三千餘萬斤，而其實於洋商採購最盛之時，總不逾千萬斤，平均約七百萬斤，近年以來，毛價日落，洋商均已歇業，經本地商人，採購運往天津販賣者，每年僅二三百萬斤，沿途稅額極重，毛商虧累不堪。而本省羊毛紡織，又未萌芽，在蒙藏方面，除擦繩製造帳幕外，幾於無用，在漢回土撒各部份，亦僅用以裁氈造毡織褐而已。其餘大多數羊毛，皆被風侵雨蝕毀棄於蒙藏各地矣。茲附表如下：

上表約計十年間生產數、出口數及本省製造數、與每年全產量平均三千五百萬斤，比較以觀，立見廢棄之數太巨，殊為可惜。生產數自十三年起，因銷路日廣，價值日增，故每年增高，十七八年雖有戰事，交通阻塞，而毛價甚高，故產量仍多，至二十年以後，毛價大跌，率多棄置，故產額漸減也。羊毛出口數，於民國十三四年間，尚有洋商購買，故數量尚多，自十五年以後，因國民軍入甘，戰事迭興，洋商逐漸撤莊，本地商人起而經營，無如交通阻塞，日甚一日，稅額增加，日重一日，故出口數目逐年遞減，自二十年以後，因南洋毛價低賤，大受影響，迄於今日，竟無恢復之望。本省製造數額，年年增加，其原因曩來各族人民賤視毛貨，棄而不用，僅製帳幕毡褥等物，故用途甚少，近年毛價低落，外貨日昂，故裁絨編毛各業，日見發達，用毛之數目，亦與年俱增也。

(二) 皮革 青海皮與毛並稱，均屬大宗生產，實則毛之產額頗巨，而皮相差甚遠，惟青海地多遊牧之區，皮產亦較內地為鉅耳。普通稱為皮者，係指帶毛皮貨而言，尋常用以製為衣料及飾物，因其性質可分為野性皮及家畜皮兩種，除野性皮屬於獵產，俟獵業一目再為詳述外，茲僅將青海家畜皮類每年產量及價值列表如左：(材料來源根據拓荒三卷一期)

名稱	每年產量(張)	每張價格(元)	合計價值(元)
白羊皮	一、二五〇、〇〇〇	一·八〇	二、二五〇、〇〇〇
黑羊皮	二〇〇、〇〇〇	一·四〇	二八〇、〇〇〇
老羊皮	三〇〇、〇〇〇	一·〇〇	三〇〇、〇〇〇
黑藏羔皮	六〇、〇〇〇	二·〇〇	一二〇、〇〇〇
白藏羔皮	一〇〇、〇〇〇	一·二〇	一二〇、〇〇〇

貓皮	五、〇〇〇	〇·八〇	四、〇〇〇
狗皮	三〇、〇〇〇	三·〇〇	九〇、〇〇〇
總計	一、九四五、〇〇〇		三、一六四、〇〇〇

上表所列皮類產量，僅只社會需要之約數，如其詳查原生產數量，定必大於此數。現因交通不便，運費過重，沿途關稅重複，遂致成本太大，銷路不暢，皮商賠累，歇業日多，皮貨生產，勢必衰落。目下急謀救濟，便利其交通，減輕其稅率，則產額必能增高也。

革類係專指用土法或化學藥品，並人工或機器製造，將生皮刮其毛，而製成熟革者。茲將青海革類產額價值列表如下：(材料來源根據拓荒三卷一期)

品類	每年產量(張)	每張價格(元)	合計價值(元)
牛皮	二〇〇、〇〇〇	六·〇	一、二〇〇、〇〇〇
羊皮	八〇〇、〇〇〇	八·〇	六、四〇〇、〇〇〇
馬皮	五〇、〇〇〇	四·〇	二〇〇、〇〇〇
騾皮	八、〇〇〇	二·五	二〇、〇〇〇
驢皮	五、〇〇〇	二·〇	一〇、〇〇〇
豬皮	三〇〇	三·〇	九〇〇
總計	一、〇六三、〇〇〇		七、八三〇、九〇〇

上表各類皮張，係約計產量，若詳細調查，當不止此數。製革之皮，牛羊豬三種，多係因食肉而宰殺者，馬騾驢三種，多由老死病死而取得者。本省自製熟革，用途甚少，且純用舊法製造，率多不適於用，除少數由本地用作鞍轡靴鞋及應用器具外，多

數運往鄰省銷售。

(二)其他牧產 除上述羊毛及皮革爲青海牧產大宗外,其餘各種牧產尙復不少。如駝毛、駝峯、羊腸、羊筋、牛毛、牛尾、牛筋、牛骨、牛角、馬鬃、馬尾等,每年均有輸出,量亦可觀。

第六目 工業

青海工業,極爲幼稚,尙在手工業萌芽時代,大規模之機器工業更未夢及。青海現有手工業稍可稱述者,約可分爲三類:

(一)農產品之加工 如油、酒、麵粉等,運銷甘肅及本省游牧區域。

(二)畜產品之加工 如皮靴、皮鞋等,多運銷於蒙藏牧地;毛毯、羔裘、褐布、栽毛毯等,均以土法製造,貨品卑劣,產量不豐,未能遠銷。

(三)礦產品之加工 如鐵及其他金屬之加工,均甚簡陋,無可稱述。

青海手工業產品,均係小資本製造,零星銷售,其產量若何,亦無精確統計。惟本省畜產原料甚豐,質美價廉,設能就地取其原料,開辦毛織製革、乳肉罐頭等廠,加工精製,輕而易舉,用以運銷國內外,則人民之生活,政府之財政,均可日益增進也。茲將青海各縣手工業產品產量價值列表於後:

(一)西寧縣手工業產品調查表

品名	年產量	單位	時價(元)
毛巾	三六〇打		三·五〇
毛單	三六〇打		五·〇〇
栽毛氈	九六〇方尺		一·五〇
毛鞋	一四〇雙		〇·八〇

襪子	三、〇〇〇雙	〇·五〇
衛生衣	二四〇件	五·〇〇
製革	三、〇〇〇張	一五·〇〇
皮箱	四、〇〇〇個	二〇·〇〇
皮包	五〇個	三〇·〇〇
皮鞋	三〇〇雙	四·五〇
武裝帶	三〇〇根	三·五〇
條子布	三〇〇疋	一〇·〇〇
帆布	三六〇疋	一〇·〇〇
燒紙	二、六〇〇盒	〇·〇八
條烟	一、五〇〇斤	〇·二〇
燒酒	四五〇、四五〇斤	〇·三三
醃醃	七二、三〇〇斤	〇·一〇
黃酒	五、四五〇斤	〇·一八
五加皮酒	四、三四七斤	〇·八〇
醋	六、三〇〇缸	〇·一二
胡麻油	九四五、六七〇斤	〇·四〇
菜油	八五三、四二五斤	〇·二四
豆醬	六、四五七斤	〇·三〇
麵醬	一、四六七斤	〇·二〇

(一)互助縣手工業產品調查表

青醬	三、二四五斤	〇·三〇
麻醬	六、五四二斤	〇·八〇
熟銅	五〇四斤	〇·六五
熟鐵	二、四二四斤	〇·九〇
生銅	三四六斤	〇·二五
生鐵	五七二斤	〇·二四
銀	一四三兩	一·一〇
磚	七六四、三三五片	〇·〇二
瓦	八七六、四五二片	〇·〇一五

(二)樂都縣手工業產品調查表

品名	每一年產量	價值(元)
磚瓦	三〇〇、〇〇〇斤	三、〇〇〇
皮革	三、六〇〇張	二、〇〇〇
五金製品 銅鐵製品	五〇、〇〇〇斤	一、一〇〇
酒類	一五〇、〇〇〇斤	三〇、〇〇〇
醋類	一〇〇、〇〇〇碗	一、〇〇〇
油醬類	六〇、〇〇〇斤	一〇、〇〇〇

(三)樂都縣手工業產品調查表

品名	每一年產量	價值(元)
烟草	四〇〇擔	八、七九〇

(四)民和縣手工業產品調查表

陳醋	三七、〇〇〇斤	一、八五〇
香箕	三、〇〇〇對	六〇〇
皮革	六、〇〇〇張	四、五〇〇
菜油	七〇、〇〇〇斤	一四、〇〇〇
鑄造	六〇〇個	六、〇〇〇

(五)化隆縣手工業產品調查表

名	稱每一年產量	價值(元)
油類	七〇〇、〇〇〇斤	一〇、〇〇〇
酒醋	五〇、〇〇〇斤	一〇、〇〇〇
皮革	九〇、〇〇〇張	九〇、〇〇〇
毛織品	一五、〇〇〇匹	五〇、〇〇〇
毛織品	五〇、〇〇〇條	五〇、〇〇〇
牛羊皮	六、〇〇〇張	九〇、〇〇〇

(五)化隆縣手工業產品調查表

名	稱每一年產量	價值(元)
毛織品(襪子)	一二、〇〇〇拖	四、八〇〇
皮靴	五、〇〇〇雙	一五、〇〇〇
酪醃	二二〇、〇〇〇斤	三、〇〇〇
醋	二二〇、〇〇〇斤	一、〇〇〇
菜油	三〇〇、〇〇〇斤	六〇、〇〇〇
磚瓦	六〇、〇〇〇頁	二、一〇〇
腰刀	五、〇〇〇把	二、五〇〇

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

(六) 貴德縣手工業產品調查表

名	稱	每	年	產	量	價	值
皮革類					一三、〇〇〇件		
毛織品類					八、二〇〇件		
五金製造類					五、三〇〇兩		
燒酒類					三五、〇〇〇斤		
醋類					一二、〇〇〇碗		
油類					六三、〇〇〇斤		

(七) 循化縣手工業產品調查表

名	稱	每	年	產	量	價	值
毛毡					七五條		
毛襪					五〇〇雙		
羊皮襖					六〇〇件		
銅燈					一〇〇盞		
鐵銃					一八〇張		
銅鐵勺					三五〇個		
鹽塊					四、五九〇擔		
酒醋					四三〇擔		

(八) 共和縣手工業產品調查表

(T) 七八

(九) 遼源縣手工業產品調查表

名	稱	每	年	產	量	價	值
裁毛褥					五〇〇條		
毛褥					一、〇〇〇條		

(十) 大通縣手工業產品調查表

名	稱	每	年	產	量	價	值
毛織品					一、四〇〇條		值(元)
磚瓦類					五〇〇〇塊		二〇〇
皮革類					一〇九一〇張		六六、六〇〇
酒類					五〇〇〇斤		一、二五〇
醋類					六、四〇〇斤		三、八四〇
醬類					二〇〇斤		五〇
油類					一三、〇〇〇斤		六、九〇〇

名	稱	每	年	產	量	價	值
毛織品	毛毡				五〇疋		三五〇元
毛織品	毛毯				二〇〇條		六〇〇元
磚瓦					二窖		一二〇元
紙類					三〇〇、〇〇〇張		九〇〇元
皮革(羔皮)					二、〇〇〇張		一、六〇〇元
五金製品					二〇〇件		每斤約四元

酒	二、〇〇〇斤	六〇〇元
醋	二、〇〇〇斤	一〇〇元
油醬	二、〇〇〇斤	四、〇〇〇元

(十一) 慶源縣手工業產品調查表

名	稱	每	年	產	量	價	值
毛織品(毛毯)					三、〇〇〇條		九、〇〇〇元
皮革類(皮靴)					六、〇〇〇雙		一二、〇〇〇元
五金製品(農具)					八〇〇件		每斤五角
酒類					一〇、〇〇〇斤		每斤銅元十枚
油類					二〇、〇〇〇斤		四、〇〇〇元

第七日 商業

青海商業，以東部西寧各縣為最盛，餘皆遊牧之區，其交易極為簡單，以物易物，貨幣不甚適用。蓋蒙藏人民多不識銀色之真偽，不辨銀量之輕重，商人至其地採辦貨物，無物不易，即旅行之人，甚至飲食之需，駝運之價，亦須以貨物為抵，予以銀兩，雖多給之，亦不願收，故商人恆以布疋糖茶而易牛羊。如以款價論，內地行程每日每款價銀七錢，至青海祇須茶斤餘或糖一斤，即可相抵。至近年設縣各地，亦有以銀錢交易者。

北部蒙人，於每年秋冬二季至遼源、慶源、大通一帶互市，春夏二季則在本境以內集市，數百里間，皆來趕集，就曠野為市場，物賤者蔽於帳，物賤者曝於外，器物雜陳。漢商所販者，大抵皆茶糖布疋木器及供佛應用之零星器物。土著所出賣者，則全為本地產物。漢人欲買各物，先至蒙市揀擇估價，再攜蒙人至漢市於應需物

件，亦任其自行挑選，至相當價值而止。每次凡二十餘日乃散。
南部藏人，會市多聚集於寺院，凡會期將屆，商販即不遠而來，所市之物皆本地土產，皮張、茶、糖、布疋尤為大宗，凡藏人所需要者類皆有之。寺院會集，俱有定期，平時則多聚集於結古等處，亦有販販至各村落者，俱以糖茶兌換皮張藥材等物，或以川幣購買，但較為昂貴耳。

玉樹二十五族集會地點日期表(採自新亞細亞九卷四期)

族	別	地	點	日	期(舊歷)
札武寺		札武寺		正月十二日至十五日 三月二十八日至二十九日	
		殘古寺		五月十二日至十五日	
		新寨		十二月十二日至十五日	
囊謙族		色魯馬		二月十一日至十五日 六月初五日至初十日	
		坎達		九月初七日至十二日	
拉達族		班慶寺		六月十一日至十五日	
		德格		八月十一日至十五日	
布慶族		布慶寺		十月初七日至初十日	
		登喀色莊		三月十二日至十五日	
拉休族		龍喜寺		七月二十七日至二十九日	
		龍夏		五月十一日至十五日	
		吹靈多多寺		十二月十一日至十五日	
迭達族		惹尼牙寺		二月十二日至十五日	

穆多族	迭達莊	正月十一日至十五日
	榮藏寺	三月二十七日至二十九日
	東周寺	十一月十一日至十五日
	周均莊	四月初七日至初十日
安冲族	安冲莊	九月初六日至初十日
	結載寺	十一月十一日至十五日
蘇莽族	得色提寺	十二月十二日至十五日
	邦牙寺	七月初十日至十五日
	喀耐寺	三月十二日至十五日
竹節族	竹節寺	正月十二日至十五日
	青銷寺	九月初七日至初十日
	休馬寺	四月十七日至二十日
	歇武寺	十一月二十七日至二十九日
歇武族	直布達	三月十七日至二十一日
	格拉克寺	七月初二日至初五日
中孛族	格拉克寺	六月初五日至初九日
格吉族	作慶寺	二月十七日至二十日
	作勒寺	九月十八日至二十一日
	札西拉霍寺	六月初四日至初七日
覺拉族	覺拉寺	正月十一日至十五日
拉布族	拉布寺	二月初七日至初十日

本省商業以湟源、玉樹、都蘭、西寧等地為中心，各色貨物莫不總匯於此。蒙藏人經商者，其資本多領自寺院喇嘛，買賣以後，付息歸還，惟其範圍皆以本省境內為限，無遠行他省者。漢商貿易，以河北、山西、陝西人為多，資本頗巨，多設莊號行家，收買皮毛土產，運售天津，再由天津販買洋貨布疋，銷售青海各地，買賣之間，獲利倍蓰。本地土著漢回多為小本經營，並在各鄉及村落設立小店，每年夏秋之際，派其店夥分赴各鎮市銷售貨物及收買土產。蒙藏人民每於秋冬之時運其貨物至各縣及市鎮交易，以羊毛等土產兌換糧食布疋，為供一年之食用。本地尚有一種行戶名曰「歇家」，頗似內地之掮客，凡蒙藏商人出入，羣卸裝於其家，實為招待蒙藏寄屯貨物之所，完納番糧為之包戶，交易貨物為之介紹，以故歇家從中謀利甚奇，所有寄居青海之漢商，亦多與之聲氣相通。凡旅行出口經其代辦駝馬，沿途即可暢行無阻，得其一紙護符，並可邀蒙藏之保護，故其勢力極大。現在湟源縣內共有四十餘家，最初不過為通蒙藏語之牙儉，因客商交易不能與蒙藏直接交涉，故以重金貸於歇家，代為買賣，於是歇家乃得居間漁利，遂起家致富，往往擁資鉅萬，交結官府，齒於縉紳，有左右金融之勢力，近年多於天津上海等處設立分號，直接運銷貨物，而昔之天津等處客商已漸失勢矣。

青海輸出貨物以羊毛為大宗，羔皮野牲皮及藥材等次之，輸入貨物則以布疋雜貨為最多。惟其數量價值尚無精確統計，茲姑將比較可信之調查列表如左：

輸出

物品名稱	每年數量	價值估計(元)
羊毛	八,〇〇〇,〇〇〇斤	一,六〇〇,〇〇〇

青海輸出入物品種類數量價值估計表(據新亞細亞九卷四期)

藥材			三五〇、〇〇〇
野牲皮			五〇〇、〇〇〇
羊皮			七〇〇、〇〇〇
革類			一〇〇、〇〇〇
赤金		一二、〇〇〇兩	一、〇〇〇、〇〇〇
青鹽			一〇〇、〇〇〇
清油			二〇〇、〇〇〇
小麥			五、〇〇〇、〇〇〇
豌豆			一、〇〇〇、〇〇〇
木材			二〇〇、〇〇〇
牲畜			一、〇〇〇、〇〇〇
藏香檉等			三〇〇、〇〇〇
總計			一一、一〇〇、〇〇〇

輸入

物品名稱	每年數量	價值估計(元)
絲織品	五〇擔	一〇〇、〇〇〇
毛織品	八〇擔	二〇〇、〇〇〇
棉織品	三〇、〇〇〇擔	九、〇〇〇、〇〇〇
粗細雜貨	一〇、〇〇〇擔	二、〇〇〇、〇〇〇
茶	三、〇〇〇擔	六〇〇、〇〇〇

麻織品	三〇〇擔	一五〇、〇〇〇
藏香檉等	(此項貨物係由西藏運進後一部出口)	七〇〇、〇〇〇
總計		一二、七五〇、〇〇〇

青海羊毛爲出口大宗，羊毛業之盛衰，與青海商業之榮枯，息息相關，但青海羊毛業之興盛而成爲西北對外貿易之主要物產者，乃近數十年間事耳。在昔閉關時代，既不與外人有所交通，而國內機器工業亦少發達，青海羊毛直無出口可言，僅供蒙藏人衣住之原料，餘則棄諸原野，任其腐滅而已。自鴉片戰後，中外通商，羊毛之需求日增，青海羊毛業乃隨之而興。民國八年至十五年間，爲青海羊毛業之黃金時代，其時毛價在青海省內不過每百斤八兩至十兩，運費亦廉，運至天津成本不過十四兩左右，而天津青海毛價竟漲至四十餘兩，而且超過此數，故毛商獲利至鉅。近年因國外產毛增加，及世界普遍之不景氣，羊毛事業一落千丈，二十二年西寧毛在天津竟落至十九兩餘，據毛商云，此種毛價，尚不足其成本，遑論獲利哉。羊毛之出口額，因銷路之廣狹而增減，殊難作一精確統計，下表所列者，僅約數而已。

青海各地羊毛每年出口數量表(採自新青海第四期)

集	散	地出	口	數量(斤)
湟源				二二〇、〇〇〇
大通	俄博	永安		一、〇〇〇、〇〇〇
玉樹				一五〇〇、〇〇〇
魯沙爾	上五莊			一、五〇〇、〇〇〇

貴糧	一、〇〇〇、〇〇〇
循化	一、五〇〇、〇〇〇
其他各處	一〇、〇〇〇、〇〇〇
總計	一八、七〇〇、〇〇〇

其餘各部落，或連接新疆南部，或鄰近甘肅之酒泉、張掖、臨洮、夏河、諧地，或毗連康藏、川西一帶，亦有大量之出口，苦無統計可據，亦有因與外國關隔，無處脫售，棄置而無用者亦不少。

青海商業，自羊毛跌價後，輸出輸入，頓形大減，據調查二十二年秋季運青貨物僅五百餘擔，較之往年運到二千餘擔之數，不過四分之一，且各貨到省後，物價大形跌落，省內金融困乏，人民購買力疲敝，可想而知。茲將青海二十二年度各種貨物價格分別列表如左：

青海各種物品價格表

(1) 農產品之價格

物品名稱	現時價格	備註
豌豆	每石十四元	出產大宗
大麥	每石十二元	產量不多
小麥	每石十六元	出產大宗
青稞	每石十二元	出產大宗
清油	每百斤十二元	出產大宗
胡麻	每石十五元	各縣均產

黑采子	每石十二元	新鑿各地所產
小米	每石十三元	產量不多

(2) 商品之價格 (僅舉習用之品)

物品名稱	以前之價格	現在之價格	備註
水襪布	每疋四元三角	每疋三元三角	山西出品
斜布	每板十五元五角	每板十三元五角	染色者較貴
粗洋布	每板十四元	每板十二元	染色者較貴
絲布	每板十七元五角	每板十六元	平津染色者較本地染色者貴
煤油	每箱三十二元	每箱二十三元	
漢陽鐵	每百斤五十四元	每百斤四十二元	
白糖	每百斤八十元	每百斤六十五元	
黑糖	每百斤七十元	每百斤五十元	
綢緞	每尺一元二角	每尺八角	綢緞業在青海極為蕭條

(3) 特產品之價格

物品名稱	省內之開價	天津之開價
羊毛	每擔二十四元	每擔二十八元
羔皮	每張二元—三元	
紫羔皮	每張三元—四元	
猞猁皮	每張二十元—三十元	
狐皮	每張十八元—二十五元	

牛皮	每張三元一七元
鹿茸	每架五十元—八十元
大黃	每斤四角—一元
青鹽	每斤一角五分—二角

(以上三表採自新青海二卷十一期)

第八目 礦業

青海山脈綿亘，礦藏極為豐富，惜以交通阻塞，礦業不振，現尙無大規模之開採，對各種礦質及產量亦無確實調查，其用土法採掘者，方法簡陋，產量甚微，而重要礦產，又多為部落酋長或寺院喇嘛所封禁，不許開採，謂為有關地脈，遂致棄貨於地，良可惜也。

一 金礦

青海金礦，分布甚廣，就縣區言之，則西寧、大通、貴德、民和、樂都、壘源、化隆、都蘭、玉樹、同仁等縣皆產金。就河流域言之，則黃河流域如海南之貢爾勒、蓋哈爾吉嶺、蓋島、佛溝、瑪沁、雪山等地；大通河流域之北大通一帶，通天河流域之玉樹四族、穆多族、固察族、安冲族界內等地，柴達木河流域之馬尼圖、鄂果爾圖、和碩特北右末旗、和碩特西右後旗及西左後旗，大小柴達木一帶；以及湟水流域各地，均盛產金。計全省產金之區，其面積約有十四萬英方里，幾佔全省面積之半，惟大部份砂層甚薄，約僅千分之一為可採區域。在此可採區域內，含金砂層之厚度可達三英尺左右，以每立方尺含金〇·五兩計，則每英方里有生金四、八一兩，共可產生金五、八五四、五二〇兩，以生金成色八成計，可獲純金四、六八三、六一六兩。(係據建設季刊十一期所載)惜以土法採掘，獲利甚微，其在番地者，復因蒙藏

人民，迷信風水，多方阻撓，故金苗雖旺，亦未見大利也。

大通河流域之金礦，現分屬於大通、壘源兩縣，當大通、壘源未劃作兩縣時，壘源金廠多由大通商人經營，每年可得黃金四千兩。分縣後，改由公家經營，金苗不旺，金礦業遂日漸蕭條。壘源縣金礦甚多，如班固寺、朱固寺、永安城、八寶、二寺灘、高岩、天蓬河、野牛溝等處均盛產金。大通河之金礦，現由馬步芳師長派員經營，每年產金數千兩，詳情尙未明悉。

湟水流域之金礦，以民和縣之享堂鎮、老鴉峽及樂都縣之崗子溝為最，農民於農隙淘洗，現因軍隊每人年徵淘金稅一錢六分及手續費黃金五釐，農民以負擔過重，已相率停工。

黃河流域之金礦，以瑪沁雪山為最，礦質優良，為青海著名金礦之一。歷年由湟源、貴德等處人民及外境商人招募礦丁開採，產額年有增加。前清光緒年間，因果洛族劫掠金廠，督練礦務馬隊，往來保護，歸西寧鎮總兵督辦，派員駐廠監視採礦，徵收課稅。其鍊金之多寡，視礦色之肥薄而定，大約挖砂百斤，至少可得金二兩有奇，至多有二十五兩。政府稅其什之一，不立定額，光緒三十四年收課八十餘兩，宣統二年收課四百兩左右。然計其贏利，除官薪兵餉外，所餘無幾。

柴達木河流域之金礦，近年無詳細調查，狀況殊難明瞭。惟據西寧礦產調查冊所載：「柴達木金礦，在前清光緒二十七年以前，每年僅三十兩有奇，嗣後歲產七十五兩有奇，三十二年—三十三年至一百二十餘兩。」

通天河兩岸，皆為產砂金之區域，昔時雖有開採，然因其淘金之法過拙，故一人竭一日之力，往往所得不足一飽，且無論土人或客商欲往開採者，必先納賄於土司頭目，方得開採，因之產額不多。

二 煤礦

青海產煤極富，隨處皆有礦苗出現，且產煤各地，多兼有其他各礦，若能兼採并用，利莫大焉。現已開採者，以金鷲山、五峯寺、樞流堡等處，煤礦產量最富。皆以舊法採掘，產量無增，工人安全，亦無保障，開挖過深，如遇水患，即相率停工，深藏之煤，因之無法開採。一年之中，以秋冬二季產煤最旺。運煤多用牲畜或大車，運往各處銷售，價值極廉，每百斤約二三千文。亦有脚夫自備牲口至產煤地運至城市銷售。業煤者不事運輸，皆賴用煤者或脚夫為之轉運，每馱可一百七八十斤，每大車可裝五百餘斤。產煤以烟煤為多，其質極脆，難得大塊，以居家所用為大宗。普通人民多用煤屑，和以泥土及牛馬糞作成磚塊，以為燃料。青海交通阻隔，工業落後，需煤有限，故祇能就地銷售，以供燒酒及家用而已。茲將所知各煤礦述其梗概如下：

金鷲山煤礦 俗稱煤窩山，界於西寧、大通間，相傳明洪武年間即已開採。原有洞口十二，近年增鑿三個，共有十五，自地面至井底深自一百尺至一百五十尺。每一洞口每日可產煤二百五十六括括，（每括括約六十斤），十五洞口每日共可產煤一百三十餘噸，（共三千八百四十括括），年產約四萬噸左右。運銷於西寧、互助、大通、樂都、貴德、湟源等縣，有時亦運銷蘭州一帶，惟為數甚微。煤質因農時氣候軍事種種關係而有漲跌，大塊每百斤在山售洋七角至一元，把煤每百斤一角七分至二角，碎煤每百斤七分至一角二分，煤屑每百斤五分至七分。四五六七等月煤價較廉，九十等月較貴。運煤人多則山價貴而市價賤，天雨則山價跌而市價漲。若遇軍隊強拉煤車則煤夫裹足，而山上不能銷售，市價因以飛漲矣。

五峯寺煤礦 互助縣之五峯寺煤礦，亦名馬圈炭窩，以其在馬圈溝也。煤質有烟，含硫頗多，燃之有奇臭。現有洞口二，深約一百三十尺。每一洞口每日可產煤一百二十背，（一背重約八十斤至一百斤），二口每日共產煤二百四十背。

筭，約合十四噸餘。銷場限於本縣，作燒酒及燒野灰之用。

樞流堡煤礦 距西寧縣城三十里，相傳明洪武時即開採，煤山周圍二十餘里。煤質極佳，多係無烟煤。現有煤窩十四，內有私窩十二，官窩二，深凡三百餘尺。每窩每日可產煤五六噸，十四窩共可產煤七八十噸。煤窩之外有水井二座，晝夜打水。近來煤窩與水井皆設有捲揚機，可供工人上下及吸水之用，每機可容六人，是則純粹土法之中，亦稍參機器之利矣。運煤用大車或牲畜，因交通梗塞，銷路不廣，銷場祇限於西寧、互助、樂都、湟源、湟德、民和各縣。

八堡川煤礦 距民和縣享堂鎮東北二十里，有煤窩一所。煤質有烟，斜井及煤巷共深二里許。窩主掘井至煤層，即任工人自採自運，每煤價一元，窩主得二角，工人得八角，井下支柱用木腳窩主供給。現在礦山煤價每元三馱，每馱一百二十斤，售洋三角三分。享堂鎮煤價每百斤售洋五角至六角。

樂都縣煤礦 樂都縣城南七十里有煤礦，用土法開採。

觀音堂溝煤礦 觀音堂溝煤礦屬西寧縣，在縣城東七十餘里，煤質不佳，中含硫磺及夾石。本地居民每逢秋季集股開採，至春季農忙時即止。

多羅煤礦 多羅煤礦屬豐源縣，在永安城附近。居民採作燃料，產量甚微。

乙土門煤礦 乙土門煤礦在豐源縣永安城西百餘里。煤質無烟，含硫磺甚多。

俄博城煤礦 距豐源縣城二百餘里，產地名煤窩溝。煤質無烟，火力甚強。

鴿子溝煤礦 在豐源縣八寶拉洞山後，因地在番界，尚未開採。

晒爾免煤礦 在豐源縣永安城西五十里，晒爾免一帶，到處發現煤礦，品質極佳，因在番界，尚未開採。

東溝煤礦 東溝煤礦在距化隆城西八九十里之東溝地方，民國十七八年

曾經開採，以作駐軍燃料之用，煤層距地面僅尺許，質劣有臭，又以交通不便，故駐軍他調後即停工。

甘都煤礦 在化隆縣甘都堂堡谷峽，民國十二年循化縣商民曾集資開採，旋即停工。二十年馬步芳亦曾開採，用去一千餘元，以煤石間出而罷。

可魯煤礦 都蘭縣可魯地方產煤，多露出山外。

茶石浪煤礦 湟源縣茶石浪煤礦在縣屬第四區，深約丈餘，礦質尚佳，面積可七八方里，現由當地商民呈准試辦。

烏絲兔煤礦 湟源縣烏絲兔地方，產烟煤，尚未開採。

東川煤礦 西寧縣之東川產煤，尚未開採。

小峽煤礦 西寧縣之小峽口地方產煤，煤質尚佳，中含硫磺，尚未開採。

此外如可可、八寶、剛察、蘇爾莽、朵把塔達山、木勒哈拉山、查哈囑順山、烏蘭代克山、察哈俄博山、瑪尼嶺等地，皆有煤礦，情形不詳。

三 其他礦產

銀礦 青海銀礦產量亦富，已經探出者有囑順山、隆冲河、瑪尼嶺、希拉采山、大小柴達木、郭密、貴德等處，以隆冲河所產為最佳，現有蒙藏人民從事開採，年產淨銀約一萬二千英兩，運至湟源銷售，漢人以其地方荒僻，未敢逕往。此外樂都北區引勝一帶及八寶山，均產銀礦。聲源距城十里，人頭溝之青石嘴地方，亦產銀礦，清初曾開採，遺跡尚存。

銅礦 青海銅之產量，無確實統計。蒙藏人不善陶業，無論貧富之家，器皿多為銅製，如佛俛法器等，亦為銅造。木勒哈拉、香日德、瑪尼嶺、大小柴達木、八寶山及西寧樂都等縣，皆為產銅之區。所產之銅，色黃而質佳，著翠柔潤，最稱上品。以上各區，亦產紅銅，蘊藏極富，質亦優良。現青海省當局，集資開採，成效甚佳，惜採治仍沿

土法，故產量不旺。其他如積石山、可魯、蒙岡山、完麻等地，亦有銅礦。

鐵礦 青海鐵礦之存在，雖自昔已知，然開採者尙屬寥寥無幾。如哈拉哈精、郭密、阿木尼、阿囑爾山、大小柴達木、積石山、可魯、烏蘭代克山、瑪尼嶺和碩特北右末旗以及西寧樂都等縣境內，均富鐵礦。哈拉哈精之鐵礦，品質優良，藏量甚富，礦苗已露地面，昔時曾經開採，因交通不便，無法銷售，現已停頓。西寧北山鐵礦，曾於明萬曆時設廠開採，規模甚大，每月一爐出鐵二次，約共得生鐵三千斤。後以轉運為艱，採法不良，今已封閉矣。

錫礦 青海錫礦，產於大小柴達木、汪什代海、台吉乃、圖馬河、馬龍山溝、八寶山、積石山及可魯等地，惟俱用土法開採，產量甚微。

鉛礦 青海鉛礦，產於貴德之哇米勒、湟源之響河爾及台吉乃、可魯、保安、樂都、同仁、大小柴達木、和碩特北右末旗、圖馬河、瑪尼嶺、烏蘭代克山、希拉采山等處。台吉乃一帶所產鉛錫，土人掘坑鎔銷，鑄成大塊，售於內地者甚多，品質極為優良。

朱砂 八寶山上十族地方，在昔發現朱砂等礦，曾試行開採，以土人迷信山中有神，光緒中葉，因採礦會引起一度強烈之械鬥。八寶山又名阿米羅呂山，該山已發現之礦產，有金、銀、銅、錫、朱砂、炭、玉等，現又有人得省當局許可，開採該山礦產，土人曾派代表請願保留，聞省當局以豁免上十族一切差徭，作為開採該山礦產之交換條件云。

硼砂 硼砂產於柴達木、那木山、可魯、台吉乃、野牛溝及和碩特西左後旗、北左末旗等地，惟多禁人採挖。

石膏 石膏在青海境內產地甚廣，皆生於紅色岩層之內，有時成極厚之層，自遠望之即可辨識。西寧樂都及柴達木一帶，產額極多，因無銷路，多未開採。

硫磺 青海產硫磺甚豐，積多之區，地中蒸氣甚大，附近多溫泉，隆冬不冰，其水如沸。柴達木南部之那木山瑪尼圖山等處，產量最多，品質極佳，土人所用之土槍，皆賴於是。西寧之小峽，豐源之八寶，均產硫磺，惜用土法開採，產量甚少。

火硝 火硝產於大通河流域大小柴達木、瑪尼圖、可魯、台吉乃、可及和碩特西北後旗、和碩特北左旗、和碩特北右末旗等地，往年曾以土法採掘，嗣因價低滯銷而罷。

礬石 產於和碩特四右後旗、和碩特北右末旗及大小柴達木等處，量多而質良。

玉石 玉樹格吉族境雜楚河產翠玉，採運北平，琢成玩器，價值甚昂。西寧丹馬莊亦產玉，居民開採，琢之成器。溫源小寺爾地方產玉，俗稱加牙玉，該處人民採作茶鐘酒杯及手環等裝飾品之用。

硝砂 硝砂產於海西一帶深山之中，多於嚴寒時取之。取時必須去衣服，著特製皮衣，僅露二目，至洞擊之，不過二時皮色已焦。取出之硝砂，即盛以瓦罐，其性極易揮發，受風或溼，均可揮發淨盡，故罐口必須密封之。

白石粉 白石粉俗稱白土，產於郭密、柴達木、和碩特四右後旗、和碩特北左末旗等處最著，其餘產地不勝枚舉。能去衣服之垢穢，土人用以代肥皂。

第九目 漁業

青海各河流湖泊，如柴達木河、布喀河、烏蘭木倫河、大通河、湟水、黃河、通天河、瑪楚河、子楚河、雜楚河、鄂布楚河、巴爾楚河及青海湖、巴冷湖、鄂陵海、札陵海等處，均盛產魚，而青海湖及巴冷湖布喀河所產無鱗魚，尤為著名特產。無鱗魚背無鱗，而有斑紋，色分黃白二種，長二三尺不等，大者重十餘斤，味甚鮮美。每年西寧湟源兩縣人民多往捕取，運銷西寧皋蘭及甘涼等處，恆以數百萬尾計。捕魚時期分為

夏冬兩季，夏季為乾魚，冬季為冰魚。夏日漁人由湖沿開渠引水至草地，魚則隨渠聚集草叢納涼，然後用棒擊斃，將腹剖開去其臟腑，舖於地面，因地富鹽質，故無腐敗之虞，乾後運於西寧等處銷售。冰魚味鮮美，尤為珍貴，冬季湖水結冰，漁者鑿冰取魚，日可得數百尾，售於小販，轉運西寧、蘭州、甘涼等地銷售。其他各河流之魚，則向無人捕取，人跡不到之處，多為鳥類啄食，往往岸邊積骨高至尺許，蓋因蒙藏人均不食魚，任其自然生長，故魚類繁殖特甚，甚至見人亦不驚避，探手可得。考察藏人不食魚類之原因，據云約有二端：一因佛教戒律所限，對於動物只食蹄為雙歧之獸類，如牛羊等，其餘非蹄歧或為爪者均不食，歷代相沿不食魚類，遂成為習慣。二因視魚為龍之同種，相傳傷害魚類時，必起大風雨，殃及帳房人畜，故相戒不食。現蒙人已漸知捕魚之利，故青海湖附近蒙人亦多從事漁業，但仍不食用耳。

第十目 獵業

青海之瑪沁雪山，東接東山，西接哈爾吉嶺，查哈噶順山，及德什巴嶺，拉安族一帶，高嶺林木無際，盛產貴重之野獸。遊獵者攜械委糧，岩棲穴處，山谷為滿。春夏秋冬三季常打散圍，乃各人各獵所得鳥獸而私有之，冬季則打大圍，糾合數十人，少亦十餘人為一支，張網設罝，以其牛合圍於外，其餘則分入搜捕。此時氣候寒冷，鳥獸常聚居一處，出其不意而掩之，所獲甚夥，無論居守者或出獵者皆均分之。歸帳不能限期，甚至兼旬始歸，而所獲肩挑獸負，不可勝計，剝其皮而醃其肉，以待客商收買，運至溫源西寧等地出售，價值較內地為賤。但有許多山林，仍被寺院喇嘛及部落千百戶所封禁，不許獵取。蓋亦出於宗教信仰，謂山林有神靈居之，如採取其動物，帳房牲畜必遭禍殃，故水為厲禁。誠能一律開放，任人獵取，以所得珍貴物品運銷內地，或輸出海外，每年產量當必不少。茲將青海所產野獸種類列述於左：

(1) 麝 麝盛產於柴達木查哈噶順山下郭密及青海西北部一帶。牡麝臍間香烈異常，獵者割取之，稱為麝香，可為藥物香料。每年客商西來收買，以茶十斤可易麝一隻，較內地價值數十之一耳。集麝二十餘隻可成一斤，其市價以上海而論，約在規銀一千兩至一千一百五十兩左右，每年輸出平均約有二千餘隻，價值十餘萬兩。

(2) 鹿 鹿產於大雪山、乙開哈斯圖山、阿木尼岡噶爾山、阿牙爾巴勒山、柴達木、玉樹各族等處。鹿茸鹿胎鹿腎皆為貴重藥物，鹿筋於肴饌中為珍品。

(3) 犀 犀產於查哈噶順山、玉樹、柴達木、下郭密等處。犀黃為珍貴藥品，惟得之不易耳。

(4) 狐 狐盛產於玉樹各族及柴達木，以格吉中端玉樹各族及乙開哈斯圖山為最多，西寧、貴德、循化等縣亦產之。狐皮細者曰西狐，粗者曰草狐，均可為製裘之用，年產十餘萬張以上。

(5) 狍 狍產於玉樹各族及柴達木一帶。狍皮為製裘珍品，年產數百張，價值特昂。以胸腹皮製成之裘，稱為葡萄獸，輕暖柔和，每件售價在四百元以上。

(6) 猴 猴產於玉樹各族之深山中，種類甚多，以金絲猴為最貴，毛色金黃，極為美觀，用製斗篷，價值極貴。

(7) 虎 虎產於蘇爾莽、蘇謙之山中，產量甚少，價值昂貴。皮張可製褥毯，肉可為食，骨可入藥。

(8) 豹 豹產於蘇謙、蘇爾莽、布慶各族，產量甚多。皮有金錢艾葉花紋之分，以金錢紋者為貴，可為床褥及衣服之用，近年銷於上海、天津及外洋。

(9) 熊 熊產於柴達木、阿木尼岡噶爾山、阿牙爾、巴勒山、蒙古爾津、玉樹、娘

嵯、格吉、竹節、永夏等地。熊皮毛堅而酥厚，可為墊褥，熊掌為肴饌珍品，熊膽為貴重藥物。

(10) 狼 狼產於柴達木等地。其皮可為墊褥之用。

(11) 豺 豺產於柴達木，皮毛較粗，不如狼之適用。

(12) 狸 狸產於那木山一帶，長只二尺餘，無巨種。

(13) 野馬 野馬產於柴達木等地，肉可供食，皮可為貴重之革料。

(14) 野牛 野牛產於玉樹、格吉、永夏、蒙古爾津各族，產額無多，皮可為革料之用。

(15) 羚羊 羚羊產於大雪山、乙開哈斯圖山及柴達木。狀似山羊，角短而直。其肉可食，其角可為藥劑。

(16) 青羊 青羊產於大雪山一帶，其體較黃羊為大，毛長約五寸許，其皮可為褥毯。

(17) 黃羊 黃羊產於柴達木等地山中，肉味甚美，為獵者所爭取，其皮可為墊褥，亦有以之製衣者。

(18) 旱獺 旱獺產於西北柴達木一帶，毛短而光澤，以黑褐色者為佳，每生皮一張，價值七八兩，若硝練拔針者，則值十餘兩至二十兩不等，多用為帽緣及大衣領袖。

(19) 豪豬 豪豬產於柴達木，尾長而脊毛硬如針，其肉味香潔勝於家豚。

(20) 鼯鼠 鼯鼠產於柴達木，土人有捕而煎味者，加以辣椒，味甚鮮美。

第十一目 鹽業

青海鹹湖甚多，產鹽極富。因其色澤不同，可分為青鹽、紅鹽、黑鹽、白鹽、四種，而尤以青鹽為最著名。茲特分述如次：

(一) 青鹽 青鹽產於達布遜淖爾即察卡鹽池及希勒達布遜淖爾(即新鹽池)兩鹽池,每年運銷甘、陝、康、藏諸省區,以數百萬斤計。青鹽在地面者,色白質鬆,多棄而不用,稍下色微青,最下者色純青,質堅味佳,較淮鹽尤美,但以交通不便,未能遠運。往青窮苦蒙人,多在各旗請領照票,運銷西寧淖源一帶,換取布疋糧食等物,以維生活。現省府於池邊設局督運,仍僱蒙人挖鹽,每挖一畝,可得工價三角。鹽係天然生成,挖過地方,一經天雨,即可長平,可謂取之不盡矣。青鹽僅達布遜一池所產者,每年亦達六七千石,(每石重一千五百斤),計有一千萬斤左右,運銷陝甘等省者約有二千石,運銷康藏者亦約二千石,其餘則為青海人民食用之需。

(二) 紅鹽 紅鹽產於科魯古,向力迭等處,色微紅,味純美,年產約四百萬斤,除供果落族食用外,餘則分售於南鄭西安一帶。

(三) 黑鹽 黑鹽亦稱黑泥鹽,產於柴達木河,可為烏蘇河、賽什克池一帶,色微黑,略雜不淨之質,味尚純正,運銷於肅州及嘉峪關外。又哈拉池南有鹵井二十餘處,深不過三四丈,廣二丈至六七丈不等,亦產黑泥鹽。

(四) 白鹽 即石鹽,亦產於哈拉池附近。有二種:其一為粉末狀,色白如霜,細如雪,望之與硼砂無異。土人掃之即食,不加製造,惟味微苦。鹽質亦係天然結成,隨掃隨生,日曬不溶,遇雨則為沖化。其一為塊狀,如白鹼白礬,又如初燒之石灰,細視之紋理如碎瓷。驗取之法,滴水其上,不乾,則鹽質已透,可以取食,搗而成粉乃用之,否則鹽粒堅如碎石,不易溶化。此二種石鹽,實為青海之特產。

此外樂都之享堂鎮,尚有煎鹽一種,名為土鹽,產量不多,僅供本地人民食用。

第十二目 森林

青海臨江河上游,水源極富,適於森林蕃殖。惟因蒙藏人民崇信佛教,謂山林

有神,向無林木之地,即不敢種樹,恐致不祥,而開墾之區,又以林木有礙農田,燒焚斬伐,摧毀殆盡,以致童山荒谷,觸目皆是。近年青海水患旱魃,相繼為虐,蓋亦森林缺乏所致。據最近調查,青海全省總面積約為七十二萬八千一百九十八萬公畝,而森林佔地僅一萬四千五百六十三萬九千九百六十六公畝,其餘宜林地帶尙有三十四萬二千二百五十三萬零六百公畝,現皆荒置。可見欲開發青海,造林實屬要圖。

青海現有森林,多係天然林,間有人工造成者,規模不大,所植樹木多為楊柳之屬。天然林則以松柏為最多,楊、柳、樺、榆、椴、蘇木、等次之。在共和縣境黃河南岸,森林繁茂。河南之汪什科、先木多一帶,森林亦盛。至港哇、大河堤以及往西之可可烏蘇等地,有居力蓋丹巴、托力合三處森林,皆松柏楊柳之屬,綿亘數十里,日光不透,大者有十數圍。青海王,可貝勒之地,松柏亦蕃。宗合受、巴隆之西南山中,可魯古之北山中,以及台吉乃爾等地,森林之地域極廣,人跡罕至。此外查哈噶順山、阿牙爾巴勒山、都蘭、玉樹、囊謙、蘇爾莽、巴燕峽、郭莽寺等處,以及湟水兩岸山谷之間,森林亦極繁茂,惟無詳確統計可資參考耳。茲據到青海去一書所載青海各縣森林概況列表如左:

縣別	森林地址	所佔面積	樹木種類
樂都縣	羊官堡	七〇畝	松
	高廟堡	六〇畝	松
	馬營堡	三〇〇畝	松
	歸德堡	五〇畝	松
	壘壘堡	四〇畝	松
	勝番堡	三〇畝	松

鹿角哇寺	三〇畝	松
貴德縣		
竹筓林	一〇、〇〇〇畝	松
東山林	五四〇畝	松楊
野里哇	一、〇〇〇畝	松柏
坡卜拉	七四〇畝	松楊
官壯林	二〇〇畝	松樺
大通縣		
鶴子溝	一、二、〇〇〇畝	松
興隆堡	三〇〇畝	松
豐稔堡	一、二、〇〇畝	松
硃門堡	一〇〇畝	松柏
化隆縣		
年板坡	一、二〇〇畝	楊松
德加寺	一、三〇〇畝	松柏
他佳莊	一、二〇〇畝	楊松
順善四莊	一、三〇〇畝	楊松
循化縣		
柔楞莊	二、六〇〇畝	松
卑塘莊	二、五〇〇畝	松
同仁縣		
墨受莊	四、三〇〇畝	松柏
暖柴莊	一、六〇〇畝	松柏
鹽源縣		
仙米寺	一、〇〇〇畝	松柏樺柳
朱岡寺	一、〇〇〇畝	松柏樺柳

班固寺	五〇〇畝	松柏樺柳
八寶二寺灘		松柏
共和縣	七八〇里	松柏
大河堤		
都蘭縣	一、〇〇〇畝	松柏
都蘭寺		

第十三目 藥材

青海地多荒莽，高山深谷，人跡罕到之處，出產天然藥材，極為繁富。茲將各種藥材名稱及產地列述於下：

大黃，產於大雪山、柴達木、郭密、囊謙、札武、達布慶等處，為輸出大宗，由西寧運銷於內地者，年約數千擔。

枸杞，一名杞子，產於巴延河兩岸，及郭密、柴達木等地，而以巴延河之產量為最多。

阿魏，產於大雪山，截其根，流白汁如乳，俟乾後割取，經久凝成塊狀，即為阿魏。獨活，又名羌活，根可為藥，產大雪山。

肉蓯蓉，產於大雪山，為寄生植物。知母，產於格吉三旗一帶，根可入藥。鷄頭參，以形得名，產於大雪山柴達木。

藍習參，以形得名，產於柴達木一帶。草參，產於大雪山柴達木郭密等地。

當歸，產於柴達木大雪山郭密，根可入藥。貝母，產於格吉三旗一帶。

紅花，產於西柴達木玉樹一帶。

藏草，產於步慶、中堪、格吉各地。

甘草，產於郭密，以當哈伊瑪圖山產量最高。年產一百餘萬斤，運銷西寧及四

川松潘一帶。

芍藥，產於郭密，根可入藥。

銷陽，產於大雪山一帶。

黃芪，產於大雪山。

雪蓮，產於大雪山、積石山等處。

藏青蕨，產於玉樹一帶。

藏蕨，產於玉樹一帶。

藏桃，產於玉樹一帶。

雪猴子，產於大雪山。

茵草，產於大雪山。

藥草，產於柴達木、大雪山一帶。

第十四目 財政

青省地多荒蕪，利源未闢，加之人口稀少，文化低落，故政府財政之收入，自難望其富裕。建省以後，政費既不能不稍有增加，而連年以來，戰亂相尋，軍需浩繁，財政愈感支絀。按青海財政之收支，每年均呈入不敷出之象，其收入方面，據財政廳報告列表如左：

青海歷年財政收支概況表

年	份收入金額(元)	支出金額(元)	負債金額(元)
民國十八年	1,332,000	1,521,000	511,000

民國十九年	1,609,000	2,152,000	543,000
民國二十年	1,019,000	1,752,000	733,000
民國二十一年	959,000	1,155,000	196,000
民國二十二年	1,133,000	1,153,000	211,000
共計	6,050,000	8,313,000	2,263,000

故觀上表即知每年收支未能平衡，其彌補之法，惟有向商家借債並發行紙幣及印花暫時敷衍。每年支出之中，以軍費佔最多數，而黨務、行政、教育、建設、司法等費，二十二年度合共僅八十五萬餘元，內中教育建設兩項合計僅十八萬一千餘元。夫以一省之大，而收支尙不及內地之一大縣，區區之數，維持現狀且不易，尙何能云新建設哉。

青省財政，雖甚困難，然僅爲維持現況，似亦非全無辦法。蓋青海財政狀況，除收入短少而外，尙有一病根，即收支未能完全統一。故地方稅收，既多中飽，而稅款報解，亦不盡入倉庫，如此而欲收支適合如何可能。且青省收入雖少，而開支亦甚簡單，以二十二年度而論，相差不過二十八萬餘元，誠能切實整理，或亦勉可抵補，縱然不能積極興辦各種建設，當亦不致如現狀之積欠累累，補苴無術也。

雖然如此，青省財政仍不能不另外設法救濟，因青海在西北方面，地位頗佔重要，故實行交通教育以及農村種種建設，實已急不容緩。一方地方人民，遭受災害與剝削，已到山窮水盡之境，故於苛捐雜稅之減免，亦非積極想法不可。但就青海現狀而論，其本身實不易覓得合理之辦法。按十八年甘、寧、青三省劃界時，原定由甘、寧二省每年接濟青省八萬元，以資協助在案，除於青省府成立時，曾實行接濟八萬元外，以後即告停止。此八萬元爲數本不甚巨，然若依照原案實行，則青省

受益實屬不淺。原甘寧二省之未能實行，或亦有其本身財政上之理由，故將來對於青省之接濟，似應由中央另行設法，通力合作，始可收建設之效也。

第十五目 金融

青省金融業極枯竭，不惟現在尚無一銀行性質之組織，即較大之錢莊，亦尚稱有。對外貿易，多係以貨易貨。例如商家販運皮毛至天津等處銷售，所得之價，即用以購買布疋雜貨之類，運回省內，故對外往來，幾無大宗匯兌之可言。其次境內貿易，更多實際以物易物之情況。蒙藏民族，以其所有之牲畜藥材，換其所需之布帛鹽茶之類，僅漢回人民交易，始多用貨幣。省內現金極缺乏，市面流通者，十分之九為財廳所發行之維持券，數額據謂為六十萬元。維持券一元，折合銀幣約七角。多通用於西寧，外縣不甚行使。流通之輔幣，有一角二角五角券及當十銅幣等種。國內各大銀行如中央中國交通等鈔票，未見行使，惟中央票近於西寧尚有人收受，因中央銀行已設有蘭州分行，信用鞏固，而甘青密邇，來往頻繁，商人為節省鞍高匯水，故多樂攜鈔至蘭州販貨也。

各縣地方，因居民大部尚在自給自足經濟時代，鮮有大宗之買賣，故金融之

流通更少。窮苦農民在天災人禍壓迫之下，不能不常在借貸中過活，其利息甚至高至百分之十。即普通利息，據調查各地平均利率，西寧為三分，貴德為四分至五分，大通為二分至三分，循化為二分半至三分，豐源為二分至三分，互助為三分，湟

為五分，化隆為二分八，民和為三分六，樂都為四分，共和為二分半至三分。平民在此高利貸剝削之下，真有生死不得之苦。

青海因金融之困難，致各種經濟之活動大受其阻礙，最近青省府有呈請中央於西寧設一中央銀行分行之議，果能見諸事實，於青海之開發，誠有莫大之幫助也。

第十六目 交通

一 公路

青省境內各地公路，自二十一年實施兵工築路以來，迄今已完竣者甚多。惟大都係就原有車道，加工修築而成，橋樑極少，路基不固，天雨往往不能通車，是其缺點。茲將青海全省已成未成各線概況列表如左：

名	稱	距離	離里數	路幅寬度	經過山水	建築橋樑	備考
寧	循	線	二八〇	二丈五尺	黃河青沙山	在古什軍峽之黃河上建築木橋一座	此線經過本省化隆縣通甘肅臨夏縣
寧	民	線	二五〇	同	湟水	在享堂之湟水上建築木橋一座	此線經過本省之樂都縣通甘肅會州
寧	共	線	二六〇	同	日月山倒淌河		此線經過本省湟源縣通大河渠
寧	玉	線	一、六〇〇	同	黃河上游及通天河阿米晒石慶山那朵哈山		此線經過共和縣之恰卜恰現已修至大河渠完成後可通西康
寧	臺	線	二一〇	同	大坂山大通河	在大通縣之大通河上建築木橋一座	此線經過本省大通縣可通甘肅張掖縣
寧	五	線	九〇	同	湟水	在西寧縣北郊湟水上擬築浮橋一座	此線正在興築完成後可通甘肅武威縣

寧同線	三八〇	同前	黃河及青水河架榜山口
寧都線	七二〇	同前	倒淌河大力麻河甘珠爾齊老山
寧貴線	一八〇	同前	黃河拉雞山
共計	四千零六十華里		

在貴德共和交界黃河經過之阿什貢擬架浮橋

此線經過化隆循化兩縣正在修築間將來全線完成可通甘肅夏河縣

此線經過湟源將來可伸至甘肅安西縣

向南另築支線可達玉樹

此線已移至貴德之黃河渡口全線完成可通同仁縣之拉加寺

二 水道

青海據江河上游，地勢崇高，水流湍急，水道運輸，未臻便利。南部通天河附近，人口稀少，河中僅以少數木筏，藉渡往來行人，尙無舟運之利。惟黃河暨湟水附近，人煙較稠，農產皮毛，多賴皮筏運輸。湟水導源大雪山，自東出湟源之戎峽後，西寧樂都之小麥，及附近皮毛，皆賴皮筏輸出，每當春秋水盛，毛商糧販，接踵雲集，商務隨之繁榮，惟早年水小，筏常不通，殊爲憾事。黃河導源於葛達素齊老峯，自出貴德與化隆界之李家峽後，通過產糧區域，每年運輸甘肅小麥以萬石計，出口木材，亦多藉以運輸，惟暗礁過多，水流湍急，偶一不慎，即有重大危險，雖經幾次轟炸，而全部障礙未易鏟除，非加以極大之鑿疏，河運終難暢行。

三 郵政

青海郵政，隸於甘肅郵務管理局，西寧等縣及市鎮設有郵局及代辦所，西南通玉樹須十餘日，西北至都蘭須八日，東至蘭州須四日，因交通不便，均以馬力或人力遞送，極爲遲緩。茲將青海郵局數目及所在地列表於後：

等別	局數	所在地
一等郵局	二所	西寧 湟源
二等郵局	三所	都蘭 玉樹 樂都
代辦所	二十餘處	

四 電政

(一) 有線電報 青海有線電報，因境內人口稀少，商業又不發達，交通又不便利，多未設置，僅湟源經西寧至蘭州有電線直通內地各省，西寧湟源二處設有電報局，近有於玉樹都蘭設置電線之議。

(二) 無線電報 青海省府爲靈便消息起見，曾於二十年春，在津購置無線電機兩架，於是年秋九月成立電台，一爲固定，設西寧，一爲行軍用，地點不定。二十一年冬又在玉樹設一電台，於二十二年元旦正式通報。二十三年二月，青海班羅辦公處，亦設立電台一座。以迄於今，青海已有電台四座，其工作情形，如下表：

台名	呼號	地點	電力	收發字數	每月字數	與他台聯絡情況
青海無線電台	XTS	西寧	二百五十瓦特	約在兩萬以上	約三萬餘字	與 XOGCI, XHZ, FTS, N2, XVI, XIT, XM3, KOI, XTS2, XTS3, XTS4, XPF, 工作
青海行軍電台	XTSI	地點不定	十五瓦特	不定	不定	不定
青海玉樹無線電台	XTS2	玉樹	一百五十瓦特	約五萬餘字	不定	與 XTS, XTS3, XTS4, 工作
班羅行軍無線電台	PA2	青海	一百五十瓦特	不定	不定	與 XPA, PA3, XTS4, 工作

(採自新亞細亞入卷一期)

(三)電話 民國十九年，青海始有電話，因經費困難，計劃之電話網，未能全部實現，茲將現狀分述如下：

(1)省垣電話網 十九年省垣設電話總局，省內各機關，均裝設電話機，行政上頗感便利，統計省垣所設電話機，約有數十具。

(2)長途電話 各縣政府，俱已裝設長途電話，惟玉樹、都蘭等縣，道路寫遠，尚未裝置，現正積極籌備裝設中。茲將已成長途電話列表如左：

線路名稱	經過地點	長度(公里)
西民線	西寧、樂都、民和	136.2
西同線	西寧、化隆、循化、同仁	130.4
西貴線	西寧、魯沙爾、貴德	103.7
西共線	西寧、湟源、共和	113.1
西鹽線	西寧、大通、鹽源	131.0
共計		914.4

第五節 康藏

第一目 農墾

(甲)關於西康方面

一 西康各縣墾地及土壤氣候

(1)康定

墾地 可墾地佔全縣面積十分之四，多在沿河一帶之斜平地，約佔五六萬畝。其餘約三萬餘畝土地，多在山腹，均係近二年來所新墾者。可墾而未墾之地約

佔全縣面積百分之三十五，多係山腹平地。

土壤 肥瘦不等，瓦斯溝及折多山一帶土壤，石礫較多，瘠薄異常。魚通及榆林宮、頭二三道橋、阿娘壩等處，土壤較為肥沃，農事甚為發達。

氣候 縣境各地，氣候各異，東部如瓦斯溝、魚通、孔玉等地，因位於小金川流域，故氣候與漢源、樂經等地，相差無幾，而此數處之農業亦較盛，瓦斯溝尤為康定產稻唯一區域。

(2)瀘定

墾地 沿河土厚之地，及高山腰腹以下，均已開墾，佔全縣面積四分之一，為西康唯一純農業區域，近年來墾地日廣，乃至高山懸壁，亦有農人之跡，其可墾而未墾者尚有四分之一。

土壤 沿大渡河與入口諸溪多沙質壤土，甚肥沃，惟間雜石礫，山地皆石英砂與赤砂混合之砂土，至北區嵐州及西區磨西面，全為壤土，故無論乾旱年歲，均可收成。

氣候 分山地及河谷兩區，河谷如瀘定縣城及大壩、沙灣、冷磧、興隆堡、咱威、加那得安等處，與四川南部氣候相侔。山地則較寒，雨量與河谷區相差無幾，故河谷區產稻米，而山地則產雜糧。

(3)巴安

墾地 巴安墾荒之開始，遠自清風全入康以前，清末因趙爾豐之提倡鼓勵，遂益進展。金沙江兩岸墾地約佔全面積十分之三，可墾地佔十分之四。農產最盛之區，以縣城附近之平壩、七村溝、冷卡石，及沿江竹哇、龍、莽里六至十五村一帶為最。

土壤 沿金沙江兩岸一帶土地均甚肥沃，東部稍瘠。

氣候 江流附近，氣候溫和。東部及北部畜牧區域較寒，高山經年積雪。

(4) 鐘靈

墾地 中區新都河現有官墾地十餘畝，東區蝦拉沱附近有官墾地三十餘畝，南區呷宗巴里一帶，有民墾地數十畝，納林區有民墾地三四十畝。

土壤 十分之八屬礫土，十分之二係壤土。

氣候 較寒，雹災較多。

(5) 丹巴

墾地 已墾地佔十分之三，多在沿河及山腹高平地，可墾地佔十分之二。

土壤 沿河一帶，土壤較佳，唯多含沙礫，純土甚少。

氣候 寒暖潤溼，略同內地，盛夏時溫度在攝氏二十四度及三十一度間，低亦二十度，昇過三十四度之時甚少。此就縣城言，距城漸遠，地勢漸高，溼度漸降，沿河地方及縣城雨量較少。山谷則必較晴，雨，天時變幻無定。

(6) 瞻化

墾地 佔全縣面積十分之三，在沿江及山谷間一帶平地，其餘皆懸岩或森林，可墾之地，佔全縣面積十分之二，如近河一帶斜平地及牛廠皆是。

土壤 全縣土質，皆係礫土，純土甚少，故農產不豐。

氣候 尚溫和，極熱時期與川南相等。極寒時期，雖重裘不暖。縣城早晚甚寒，日中則較暖，至於鄉村，則下瞻對較上瞻對為寒。

(7) 甘孜

墾地 本縣為西康北路商業中心，人民大半從事商業，故少從事耕植，因之墾地較少，墾地佔全面積十分之一，可墾者佔十分之四。

土壤 因屬山地，雖沃土亦雜石礫不少，以境內各處比較，雜科純為礫土，東

谷較少，孔撒、麻書、白利、林甸、朱德、阿都又較少。

氣候 極熱時只似內地三四月天氣，極冷時則較康定尤寒。多雨水，每十日總有五六次，惟多在山谷中，少在平地耳。

(8) 道孚

墾地 道孚城附近暨泰寧鄉已墾之地約三百畝，因全縣為一高斜平原，故可墾之地極多，尤以入莫一帶之地為最多。

土壤 全縣土層極薄，多砂礫，僅低谷平原，土壤稍為肥沃。

氣候 附近縣城之五區，均甚溫和，泰寧地勢較高故較寒，至檜科鄉則無農作物矣。

(9) 理化

墾地 境內莫拉村、灑桑村、墨洼村、拉波村、窮堪、得窩村、鄧柯村、嘛喇丫村約一萬二千餘畝，唯逃亡者多，刻僅百餘畝。

土壤 本縣為西康大風區，故多砂礫土，壤土極少，為全康土壤最劣之區，唯礦產則頗富。

氣候 夏季較暖，冬季至寒，平均夏季溫度，在攝氏二十二度至二十四度之間。

(10) 雅江

墾地 已墾者佔全縣面積十分之三，多在雅江兩岸，及山腹平原等處，可墾地佔全面積十分之二，如蒙喜區之牧場，地勢并不高，可供開墾。唯人民注重畜牧，可墾之地，多半荒廢。

土壤 皆含沙礫，唯顏雅雅江之河谷，土壤甚佳。

氣候 溫暖，夏季約在攝氏二十八度，冬季約四度。

(11) 稻城

墾地 已墾之地，佔總面積百分之四十八，可墾地亦頗多，唯該縣經數次民變後，人口減少，而耕者鮮矣。

氣候 本縣因有無量河縱貫縣境，故氣候溫和，適於農作。

土壤 多礫土，河谷之地壤土亦多。

(12) 鹽井

墾地 沿浪滄江一帶，墾地甚多，縣治附近，及壁雍宮、宗岩、朔和寺等處，均已開墾，浪滄江西岸，盛產桃李、梨、等果樹。玉蜀黍、蕎麥、青稞等雜糧，產量亦豐。唯縣民以曬鹽為正業，對於耕種，不甚努力，可墾之地，多未開發。

氣候 風甚大，雨量較少，冬日甚寒，夏不甚熱。

土壤 多含砂礫，沿江一帶含鹽質。

(13) 鄉城

墾地 境內二耶河一帶可墾之地甚多，已墾者不及十分之一。每年所產糧糧，不敷食用，須由鄰境中甸供給。

氣候 縣治所在地，氣候甚暖，在康南各縣中，以此處溫度最高。

土壤 砂土甚多。

(14) 德榮

墾地 縣治所在地及沿金沙江、巴耶河兩岸，均已開墾，盛產青稞，及雜糧。

氣候 大致溫和。

土壤 沙土及礫土居多。

上列十四縣係西康農事較盛區域，其餘如義敦、白利、德格、鄧柯、石渠各縣，均係畜牧區，氣候寒冷，土壤瘠薄，殊無農事可言。至金沙江西岸各縣尚在西藏

政治勢力範圍之內，調查困難，暫付闕如。

二 西康農產品統計

糧食類	產地	備
稻	瀘定 巴安 得榮 科麥 雜	瀘定所產之稻與內地同惟品質稍次 巴安得榮等處所產均為紅米
糯	瀘定	
芋麥	定鄉 稻城 貢曠 鹽井 巴安 瀘定 丹巴	又名玉麥又稱包穀即玉蜀黍也以瀘定出產為最多
青稞	西康各縣均產	為麥之一種粒實較麥為大而色微黑為康人大宗食品
小麥	同上	
燕麥	康定	又名油麥
蕎子	康定 巴安 鹽井 定鄉 稻城	有甜蕎苦蕎之分
粟穀	巴安 瀘定 定鄉	又名小米色黃僅能煮粥
黎	瀘定	俗名天粟
豌豆	西康各縣均產	有黑白二種黑者產量較多為康北大宗食品
蠶豆	巴安 曠化 雅江 康定 瀘定 道孚	又名胡豆
高糧	瀘定	
貢豆	瀘定 丹巴 巴安 雅安	
四季豆	巴安 瀘定 康定 雅江	
豇豆	瀘定 巴安	
菜蔬類	產地	備
白菜	西康各縣均有	

青菜	同上	
蓮花白菜	康定巴安甘孜道孚雅江鹽井	
蘿蔔	各縣均產	有紅蘿蔔白蘿蔔之分而白蘿蔔中又有紅頭青頭之別大者每個四五斤
芋	巴安康定道孚瀘霍甘孜	俗名洋芋即馬鈴薯
茄	巴安康定	
莧	巴安康定瀘定	
芥	巴安鄂柯甘孜	均係野生
萎	巴安康定瀘定	
蒜	康定瀘定武城巴安道孚甘孜	
菌	西康各縣均產	有白菌青紅菌雜菌數種白菌以石渠理化產者為最佳
葵	瀘定九龍康定巴安雅江	
菲	各縣均產	
菲黃	康定	為康定特產雖四川成都所產亦不及其香冽
薑	瀘定康定巴安	
蕓	瀘定縣巴安	
葱	各縣均產	康定縣屬瓦斯溝及道孚所產粗大香冽最為著名
花椒	康定瀘定巴安道孚甘孜	
油菜	康定瀘定道孚巴安甘孜	
辣椒	瀘定巴安得榮昌都	昌都所屬之察窪貢尙有高數丈之辣椒樹

黃瓜	瀘定巴安	
苦瓜	瀘定	
南瓜	瀘定巴安康定道孚九龍	
東瓜	同上	
西瓜	瀘定巴安	
芹菜	康定瀘定巴安道孚甘孜	
瓠瓜	瀘定	
紅苕	瀘定	
果實類	產地備	
梨	丹巴瀘定巴安鹽井康定	丹巴所產之梨名金川梨味甜而香最為著名
桃	瀘定巴安鹽井	
杏	瀘定康定巴安	有甜杏苦杏之分
棗	瀘定巴安	
柑子	瀘定	
石榴	巴安得榮瀘定丹巴	丹巴所產尤為著名
柿子	瀘定	
胡桃	瀘定丹巴康定巴安鹽井	法傳教士攜來之種
葡萄	瀘定巴安	巴安尙有印度及西洋之胡桃均為美
櫻桃	瀘定巴安康定	
枇杷	瀘定	

產區	品產	整理方法	播植期	施肥次數	施肥種類	收穫期	每畝收穫量	貯藏方法
康定	玉蜀黍青稞小麥燕麥豆類馬鈴薯	犁後耙平即播種	五月中旬	無	無	七八月間	三至五斗	以生牛皮縫袋裝入貯
瀘定	稻穀麥豆玉蜀黍收子	犁後耙平播種水田則犁後並用耙齒平之	稻在四月插秧麥類在九月初	稻田四次山灰等	炭灰畜糞骨	稻米在八月初類在四月初	五斗及一石一斗零	貯於穀倉中不用其他手續
丹巴	小麥玉蜀黍青稞羌根等	犁後耙平播種	四月底	一次	畜糞	八九月間	三至六斗	與康定同
爐霍	小麥青稞	同	無	無	九月間	二斗至三斗半	同	同
瞻化	青稞麥豆類	同	無	無	九月間	同	同	同
甘孜	青稞麥子豌豆	同	無	無	同	三斗至四斗	同	同
理化	青稞	同	無	無	同	二斗至三斗	同	同
雅江	玉蜀黍小麥青稞豆類	犁後耙平播種	五月底	無	無	八月底	三斗餘	以生牛皮縫袋裝入貯
巴安	青稞紅米大小麥	同	五月底	一次	畜糞	八月中旬	三斗至五斗	同
道孚	小麥青稞	同	同	無	無	九月初間	二斗至四斗	同
九龍	青稞麥子	同	五月	無	無	八月底	三斗至五斗	同

三四康各縣農產品及耕作概況表

檫子	瀘定	
檫子	瀘定	
蘋果	巴安	初本不產現由美國教士攜來種植成績甚佳
花紅	瀘定康定巴安道孚	形如蘋果而果實較小
香櫞	瀘定	
棋枰	瀘定	

林檎	瀘定康定巴安	
油柿	瀘定康定巴安	
白菜	瀘定	
牛奶果	巴安瀘定	為藤本植物莖上有刺葉為肺葉二月開白花四月結果形如牛奶色紅巴安所產係外人移來之種瀘定係野生實有大小之別
落花生	瀘定	

稻	青稞小麥玉蜀黍南麥燕麥	同	五月中	無	無	九月初	二斗至三斗	同
德	青稞大小麥豆類	同	同	無	無	九月中	二斗至三斗	同
鹽	青稞包穀大小麥南麥燕麥	同	同	無	無	同	二斗至四斗	同

(乙) 關於西藏方面

西藏全境，平均皆高出海面萬餘尺，北部高平原，氣候劇寒。多鹽湖，不生樹木，均無可耕之地。南部雅魯藏布江流域，氣候較為和暖；可墾之地甚多，能種青稞、豌豆、蕎麥、等雜糧。惟以藏人不善耕種，已墾之地不及十分之一。且以調查困難故從略。

第二目 工業

一 丹巴之織絨業

西康出產之氈牛，其毛純黑而細柔，丹巴土人利用製為織品，出品細密有如嘩噠，而耐用過之外籍旅客，多購以縫製衣服，或做毯墊。統計全縣操織絨業之工人約一千數百名。每年可出絨五萬餘丈，售藏洋五六十萬元。

二 丹巴人之砌牆術

該縣土人，善砌牆垣，所砌土牆有高至四五丈者，端整齊切。等於磚砌。從不傾塌。故全康各縣如有建築，必均延僱為路柱（丹巴位於康定之西）擔任砌牆工作，全縣操是業者，約一千四百五人。

三 德格白玉兩縣之金屬工業

金屬工業，盛於德格白玉兩縣。工人約千餘名。分銅匠銀匠（兼製金飾）鐵匠三種。大而如數丈之銅佛，小而如蜜碗器具，無不精緻絕倫。所造彎刀，每柄有售至生銀一千餘兩者。所造飾物，亦極細巧玲瓏，內地尚不多見。

四 甘孜縣之抓絨種毯

該縣之抓絨種毯與天津所造絨毯相似。如將二者混合銷售，絕難辨認，其製品之細緻華美可知。全縣工人約一千七八百名，每年出品，可售藏洋一百萬元。

五 瞻化縣之毯子工業

縣內土人，善製毯子，細者等於嘩噠。粗者亦類於夾板呢。運銷康藏各地，每年可售藏洋二百萬元。

六 巴安之栽絨毯

巴安操此業者，有兩三家，其織法花紋圖案均取法於北平出品。染色之耐久，絨頭之結實，較之北平出品，并無遜色。長五尺寬三尺之毯，只售藏洋三十元，則較北平之價為廉矣。惟出品不多，并無設肆出售者。欲購此物，須訂製。

七 巴安之毛織物

巴安婦女協進會，近組織一婦女工業社，專門編織毛織品出售。其毛線係擇本地羊毛，用酥油揉熟後，以手捻成細線，堅實耐用。出品有毛衣、毛襪、毛手套、毛帽等。售價低廉。惜康地無分毛機器。染漂羊毛，均用土法，故不及外來之美觀。

八 西康各縣之造紙工業

西康在清季中葉，已知造紙之法，蓋由洪雅夾江一帶所傳入也。如德格、稻城、昌都、巴安、寧靜等縣，均有蠻人所辦之造紙廠。近來亦有漢人創辦。但為數極少。製紙原料，多係剝取樺樹楊桑等樹之皮，將外皮粗剝去，用石錘擊破置水池中，

加注石灰水浸之約一兩月之久再取出搗爛使悉化爲純纖維質始以植物膠液復注清水中化散濾爲薄皮塗成紙紙色尙白性質較粗每磅洋一枚可購此項紙皮四十五張民國初年駐康之新軍管帶孫鳳翔與稻城委員冷家驥曾提倡改良而僑居德格縣城之滇省鉅商姜麗山亦出資在德格辦抄紙廠派人在洪雅夾江等地購竹簾入康以抄紙由是西康製紙工業逐漸進步已非昔之笨拙矣康藏之印刷經典及西康各縣地方政府之文告單報大多購用此紙至如綿竹洪雅一帶之紙張則僅康定釐定等處之機關及少數漢人購用。

第三目 商業

一 康藏主要商品輸出概況

(1) 麝香 康藏各地均有之。每年產量達萬餘斤。可謂世界最大麝香產地也。每斤價值現時約銀二百二十兩至三十兩。運至港滬各地能投三百數十兩之換價。惟稅額極重徵收達百分之四五運費約需百分之十。多運由四川雲南兩省集中上海香港兩處再運銷海外。以法國銷場爲獨巨。昔年輸出年在萬斤以上。近年銷場大減。法國且以此物爲奢侈品增重入口稅額達百分之三十。因之西康出口額銳減。近來每年出口不過六七百斤。

(2) 羊毛 康藏各地物產二十三年產量約爲五十萬斤。在產地購買每百斤值銀七兩至八兩。外加運稅「行」「退」在康市約銀十三兩餘之市價運至上海約能得十六至二十兩之行市。以前康定之出口稅爲百分之十五。近年則增至百分之三十五。二十三年出產數量雖多而以稅率增加故入關出口之數近僅三四十萬斤。一部份則由青海輸出天津前後藏之出產則直接運往印度暢銷。

(3) 蟲草 理化德格均爲大量產地。每年產額達三萬斤。在產地購買價值每百斤約六百餘兩。在重慶上海銷售每百斤約值千餘兩以外。由康到達重慶

上海運稅每百斤須銀三百兩左右。昔年出口約達二萬餘斤。近以捐稅繁重業已大減。每年出口額僅四五千斤而已。

(4) 貝母 出產地多在理化道孚及甘孜釐霍等寒冷地帶。年產約四五萬斤。產地購買每百斤約四五十兩。運抵重慶上海可得五百兩之價值。運稅約百分之三十。昔年出口數量年約三萬斤以上。近僅萬餘斤。遠減百分之七十強。

(5) 知母 西康各寒冷地帶皆產。產額約六七萬斤。產地購買每百斤約銀八九十兩。運達東北各省後每百斤值一百四五十兩。運稅約百分之二十。出口總額年達五萬斤。銷場悉在遼寧東北各省。日人強佔東四省後出口減百分之九十五。僅少數銷於上海及香港。

(6) 皮貨 以狐皮、貉狸、牛皮、狼皮、羊皮等爲最多。西康各地均有。以昌都崇善一帶爲最。年產約共拾萬張。價值運稅不一。每年出產總額約一百餘萬元。運稅百分之十至二十五。銷路大部均在本地。小部分輸出省外。

二 康藏主要商品輸入概況

(1) 茶 據十八年統計爲十三萬四千六百包。每包平均以十七斤計。合八百五十五萬三千六百斤。價值爲一百三十三萬六千五百元。此種茶之輸入除雲南之普洱佔極小部份外。其餘則全爲川茶。產地在四川名山、天全、榮經、雅安、邛崃等縣。茶之種類繁多。大概分爲粗茶細茶兩種。普通一般食用均以粗茶爲主。細茶則爲一般貴族如土司、頭人及喇嘛始享用之。川茶除運銷西康外。并運銷前後兩藏。今日中藏貿易最密切之一部。即爲茶之輸入也。

(2) 菸類 草菸爲最。紙烟黃烟次之。總價值爲十八萬餘元。紙烟黃烟多爲在康藏之漢人吸用。草菸則至普通吸用。又爲製鼻菸之原料。

(3) 肉及油類 如鮮臘豬肉及各種油類。其輸入額總值約國幣八萬餘元。

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

(T) 100

此為在藏漢人所消費。康藏土人，食用則均為牛羊肉及酥油，無須仰給於外也。
 (4) 雜貨 如綢緞布疋、磁銅鐵器、飾物、染料等，輸入總值國幣二十七萬餘元。

康定為全康商業之中心，各商幫在康藏各地經營商業者，其總號均設於此。民初之際，極為興盛。自民國六年以後，因受康藏戰事影響，市面漸趨蕭條。商號逐年均有倒閉。茲將二十四年四月經市政公所調查全市商業概況，分處如下表：

三 康定城區商業統計

康定商號概況統計

業別	性質	獨資			合夥		
		數	資本總額(元)	職工人數	數	資本總額(元)	職工人數
邊茶販賣業		二二三	七〇〇,〇〇〇	一一〇	一五	二五〇,〇〇〇	一〇〇
麝香販賣業		九	六〇〇,〇〇〇	七〇	二	二〇〇,〇〇〇	二〇
赤金販賣業		三	三〇〇,〇〇〇	二〇	二	一〇〇,〇〇〇	一〇
生藥材販賣業		二〇	二〇〇,〇〇〇	五〇	一一	一一五,〇〇〇	三〇
野性皮貨販賣業		一〇	二五〇,〇〇〇	三〇	四	八〇,〇〇〇	二〇
布疋販賣業		二五	八〇,〇〇〇	一一五	二〇	一七〇,〇〇〇	九五
綢緞洋貨販賣業		一〇	三〇〇,〇〇〇	七五	四	三五〇,〇〇〇	二〇
菸草販賣業		一五	二五,〇〇〇	三五	一三	四〇,〇〇〇	二二
黃菸販賣業		一七	一五,六〇〇	三〇	五	二〇,五〇〇	二〇
熟藥材販賣業		五	二〇,〇〇〇	二五	二	一〇,〇〇〇	八
紙張販賣業		四	一〇,〇〇〇	二五	三	八,〇〇〇	一〇
藏產品販賣業		一〇	五〇,〇〇〇	四〇	七	四〇,〇〇〇	三〇
電氣事業					一	五〇,〇〇〇	一六

備註	表內紙張販賣業內有一家兼營印刷業。 屠宰販賣業，該地無屠宰場之設備。全市屠猪者僅有四家，屠牛羊者五家，其他屠鷄鴨者僅一家，平均每日約屠牛三頭，羊二頭，豬四頭，鷄十隻，鴨二隻。					
總計	一七一	二,五五〇,六〇〇	六四五	八九	一,四二四,五〇〇	四〇四

四 康定瀘關輸出統計表

貨品種類	輸出數量	每單位	價值總	價額	備考
麝香	一,二七六斤	一三四〇〇元	一七一,〇八四元		
蟲草	二三,四六八	一〇〇〇	二三四,六八〇		
貝母	一〇,五三七	四〇〇	四二,一四八〇		
知母	八三,六八九	一二〇	一〇〇,四二六八		
鹿茸	二,九一〇	一〇〇,〇〇〇	二九一,〇〇〇		
鹿角	一五,七九八	二五	三,九四八五		
秦芩	九七,二〇〇	三五	三四,〇二〇〇		
大黃	一二一,三五五	二二	一四,五六二六		
羌活	二〇,九四〇	一四	二,五二二八		
赤芍	八二,四三〇	〇八	六,五九四四		
羊毛	八一五,〇八〇	二〇	一六三,〇一六〇		
牛毛	四一,五九〇	一〇	四,一五九〇		
羊皮	七六,七〇〇張	七〇	五三,六九〇〇		
狐皮	二,三六〇	一二〇〇	二八,三二〇〇		
貉狸皮	九八二	一六〇〇	一五,七二二〇		

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

(T) 1011

五 康定瀘關輸入統計表

貨品種類	輸入數量	每單位價值	全年總價值	備考
赤金	二、六〇〇兩	一〇〇〇〇	二六〇、〇〇〇〇	
黃耳	三六〇	四〇〇	一、四四〇〇	
白菌	五、六〇〇	一、六〇	八、九六〇〇	
花椒	三、四〇〇	六〇	二、〇四〇〇	
青菌	一二九、六〇〇斤	四〇	五一、八四〇〇	
牛皮	一、一五〇	七〇〇	八、〇五〇〇	
狼皮	七五〇	一〇〇〇	七、五〇〇〇	

貨品種類	輸入數量	每單位價值	全年總價值	備考
茶包	五三四、六〇〇包	二、五〇元	一、三三六、五〇〇元	
茶葉	四、七〇〇斤	〇、五〇	二、三五〇	
紙烟	八七箱	四〇〇〇	三、四八〇	
黃烟	五六〇石	五五〇〇	三〇、八〇〇	
草烟	四、四八〇	三〇〇〇	一三四、四〇〇	
大麴酒	九七挑	六〇〇〇	五、八二〇	
火酒	七五〇甕	一四〇〇	一〇、五〇〇	
豬油	三、四四斤	三六〇〇	一、一三〇四	
清油	一、一三六	三〇〇〇	三、四〇八〇	
洋油	一、三五箱	三〇〇〇	四、〇五〇	設電燈後日見減少

洋燭	一七六	一三〇〇	二二八八	
肥猪	一、二八五隻	二〇〇〇	二五、七〇〇	
猪腔	一九六	一八〇〇	三、五二八	
臘肉	七、五〇〇	〇、三〇〇	二、二五〇	
稻米	一八五石	一四〇〇	二、五九〇	尙有軍米二千餘石不計
其他食物			六〇、〇〇〇	種類繁多全年進口總數約值上數
海菜類			四、〇〇〇	
洋紅	四、三〇〇筒	三〇〇	一二、九〇〇	
各色染料	二〇〇	二〇〇	四〇〇	
紙張	三四、二八〇刀	一、五〇	五一、四二〇	
磁器	二、七〇〇		六、〇〇〇	磁器多江西產品全年進口約值如上數
銅器	一、〇〇〇		二、〇〇〇	類皆日用物品
鐵器	二〇、〇〇〇		八、〇〇〇	以鐵鍋爲大宗
洋廣雜貨			一二、〇〇〇	種類繁多全年進口約值如上數
土產雜貨			一〇、〇〇〇	
各色綢緞			三〇、〇〇〇	
各色疋頭			一六六、〇〇〇	
呢絨			五、七〇〇	
絲棉			八、〇〇〇	
其他服物			一〇、〇〇〇	

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

第四目 鑛業

一 西康鑛務之概況

西康蘊藏甚富，而尤以黃金為最。清末川邊大臣趙爾豐曾聘一美籍鑛師，跋涉至西康各處實地調查，並派委員李瀛洲、高等學堂鑛務學生盧師誥、張鎔、王亮四人隨行。於光緒三十四年六月一日由打箭爐、燈臺窩動起，歷雅江、裏堂等處，至宣統元年止。據勘查結果，謂上古時西北高原之河流冲刷刷金粒，積於泥沙低窪間，並無地質結成之鑛。祇宜土法開採，不宜機器開挖，因並無鑛苗鑛質孕結故也。其後，各地金鑛試辦，多係土法開採，已著成效。而委員收課者，有偏岩子、燈臺窩、三道橋、魚通、雅江之大竹卡、裏化之葛母溝、毛丫、曠對之麥科、馬博科、德榮之縣治、道孚之泰寧、魚科、鑛雀之雄鷄嶺、德格柯鹿洞、丹巴之二凱等處，自趙提倡開採後，至民十以前，每年各廠課取收入最旺年分，達四百兩之多。至少亦百餘兩。民十以後，各廠因糧食高昂，盜匪出沒，皆至停歇，而金廠遂無人辦。稅課亦且寥寥矣。除金鑛外，如寧靜、德榮之銀鑛，同普之銅鑛，九龍踏耳河之鐵鑛，皆開辦未久即停歇。惟魚通之鉛鑛，至今尚未開採。民國十六年後，駐軍亦從事於鑛務之調查，然因生活高昂，所有瞻化、理化、鑛雀、泰寧、丹巴等之金礦，歷經令飭縣官設法勘探，迄無應者。二十一年北平地質調查所派員來康調查，據謂李兩委員報稱：皆係冲刷刷積成。惟理化、瞻化兩處，有苗引發現，尙有開採價值。

二 西康鑛產調查

(一) 西康各縣金廠最近調查(二十四年)

所在地廠	名	金	夫	人	數	附	註
康定	梭披金廠	九十餘人					
	魚子石金廠	六十餘人					

瞻化	麥科金廠	一百餘人		
	曲衣金廠	三四十人		
	甲司空金廠	二三十人		
	雍母金廠	一二十人		
德格	柯鹿洞金廠	三四十人		
	鑛雀金廠	六七十人		
道孚	將軍橋金廠	四百餘人		
	泰寧金廠	三十餘人		
	河壩金廠	四十餘人		
	柏楊樹金廠	三十餘人		
	泗水塘金廠	二十餘人		
	蒙自古金廠	二十餘人		
得榮	得榮金廠		正開辦中	
雅江	崇西金廠			
	密西溝金廠	一二十人		尙未納課

九龍	坭馬冲金廠	三十二人	正開辦中
	三埡金廠		正開辦中
	羊橋金廠		正試辦中
理	昌會金廠	十六人	
	各母金廠	三十六人	
	曲科金廠	十九人	
	沙馬金廠	三人	
	獨科金廠	五人	
	卡龍金廠	五人	

(2) 康定石油鑛

康定嘉峪關外，赤金堡東南九十里，祁連山北麓，有一河流，盛產石油，天然湧現於地面。前清同治年間，堡民入山採金，往來其間，遂被發現。試燃以火，烈焰熊熊，因名其地曰「石油泉」，并名其河曰「石油河」。挖坑勺取，相沿迄今。該堡都司營，年抽油捐二千斤。民國十七年，都司裁撤，改由酒泉城防軍收捐。油區面積，約十餘方里。冬春盛雪不消，油亦凝結不流。夏日水漲，油始湧出，採油鄉民，勺取納入桶內，負運上岸，再由油商（現有三家）用大車運銷各處，以供村民燃點，或塗大車輪軸。至其油質，民初曾經某比人及某德人先後攜至上海化驗，認為成分極佳。後請開採，省署未准。十八年春，甘省府派專家張人鑑前往調查，并經攜回蘭州化驗。計含汽油百分之一六·五〇，煤油百分之七〇·〇〇。此外石油河東約四十里，黑河堡八十里，白揚河村南四十里之石油灘地方，面積六七方里，亦產石油，成分與石油泉所產相似，但迄今猶未開採。

(3) 道瞻支路發現鐵礦床

川康軍總指揮劉文輝，前派劉丹楮君考察西康各地產業。劉君出發後，於道瞻支路上，發現偉大鐵礦床，其高大略與魚通赤鐵礦相似。

(4) 丹巴縣盛產雲母

西康所屬丹巴縣，一入其境，光耀奪目，蓋遍地皆雲母石也。俗呼為千層石。因愈起愈薄，直至透明如玻璃，其薄如紙而後已。前有川東熊禹卿君，集資在該縣澤龍溝開採石片，大小不一，有寬尺餘長二尺餘之巨塊，小亦數寸。最近復有越嶲縣李光明者，在該縣日沒山渣科山兩地，發現雲母石礦，計礦區一千一百四十八畝，擬組織「富康公司」從事開採，并擬具礦區礦床說明書，及履歷保結等，俟呈准西康財務統籌處後，即可進行開採。

第五目 財政

一 糧賦及捐稅

(1) 西康最近各項稅捐歲入數目概算表(二十四年)

類	別	全	年	收	入	數	備	考
雜	稅	六	九	八	六	四	〇	元
雜	捐	五	九	四	二	三	八	七
茶	稅	一	二	五	一	四	四	八
礦	稅	八	一	〇	〇	〇		
禁烟	罰金	四	三	六	二	五	八	一
官	產	六	三	〇	〇	〇		

常	稅	一〇〇、七三五、〇六六
共	計	三四七、一三一、四五六
附	記	本表以藏洋爲單位如折合大洋則有十五萬元左右

(2) 西康最近各項政費歲出數目概算表

類別	歲出數	備考
戊邊官	一、〇八〇、〇〇〇元	戊康軍計步兵四團又一騎兵團部特務一營又二連又特科一營又一連又兩司令部戰鬥兵八千餘人月需餉款九萬餘元年支如上數
被服	一四四、〇〇〇	以戰鬥兵八千計每年棉軍服一套四元單軍服兩套每套二元皮外套一件每套十元爲節計被蓋未置年需款如上數
軍米	一二九、六〇〇	戊康官兵與出康官兵眷屬按例均應領糧月約需米九百石每石以十二元計算年支如上數
軍米運費	三〇〇、〇〇〇	關外山路崎嶇
臨時軍費		
預定軍費		
整理康政		收服鄉宿總等縣以後地方庶政極待整理其餘修復台站等費未預算
交通	一二、五二五	現因經費支絀係照舊案津貼電報局與烏拉費又遞騎哨等費
教育	一三、四〇五	係照舊案津貼康定師範學校各小學校已停辦者未支如繼續恢復或創辦未預算
雜支	八、七六三	係津貼麻喇夷人在康代表等此係照案圍保甲薪水等因

團務	五、三七六	邊康夷係除納糧而外一概不負地方費用責任
財政	四九、三一五	全康各稅收機關開支
合計	一、七四二、九八四	
明說	(一)本表以國幣元爲單位。(二)本表係現在急需應用。 (三)本表臨時軍費預定軍費，整理康政各項雖未列數，亦在急需之列。(四)本表支出項下，當有各縣公俸與頭人等口食補足司法等開支未列出，因此項費用向由地糧折徵開支。	

(3) 西康十九縣糧額表(數量單位爲石)

縣名	每年所納青稞數量
縣	
康定	一、〇三八、五六石
瀘定	七一五六
雅江	八八七六五
理化	八九七五四
義敦	一二二、九〇
巴安	三、六二五、〇四
九龍	三、六二五、〇四
稻城	一、三二〇、五九
定鄉	二、六六一、〇八
得榮	八八七、四五
丹巴	六四〇
道孚	五七八、六九

(4) 西康十八縣性稅表

合	白	德	瞻	石	鄧	甘	爐
計	玉	格	化	渠	科	孜	霍
二八、八四三·二三	八一四·四〇	一、三三三·三九	一、四四九·六五	九五·二二	一、一三三·五〇	一一、六四六·九三	七四九·〇〇

縣	名	徵	稅	數	目
康	定			一、一六〇元	
瀘	定			二七四	
雅	江			八四四	
理	化			九五五	
巴	安			九四七	
定	鄉			一三二	
道	孚			五七八	
爐	霍			七八九	
甘	孜			四、三三五	
鄧	科			九、六三七	

二 貨幣種類

合	白	德	瞻	石	丹	德	稻	九
計	玉	格	化	渠	巴	榮	城	龍
八三、四三一	二、三九〇	一三、七〇〇	一〇、〇九七	三五、五〇〇	一五五	一、〇六三	四三三	四四六

西康各地通用貨幣，有銀錠、大洋、藏洋、雲南半元、銅板、牛夾、銅元、銀幣等八種。茲將各幣目前行使狀況略誌於次：

(1) 銀錠 銀錠亦名「大寶」又名「一秤」，係前清雍正初年，漢商輸入西藏之生銀，普通每錠重量五十兩。初由藏商運康，成色極佳，盛行於康人部落中，後因康商藉口傾銷成錠，摻壞成色，大使藏商失望。近年已無銀錠運來，各傾銷店亦相繼歇業。從前每秤生銀可合藏洋百六十元，後跌至百四十元，今則跌至百二十元。此劣幣充斥之結果也。

(2) 大洋 西康行使之大洋，共分川省新舊大洋、新疆省銀元及外省龍洋三種。川省新舊大洋，及外省龍洋，一律通用，每元可換銅元二十六千左右，新疆省銀元，每枚重量一兩，成色甚佳。上鑄回漢兩種文字，行使與大洋價值相同，但為數不多。

(3) 藏洋 藏洋爲西康主幣。前清時，趙爾豐鑄於印幣盧比，大量流入西藏，擬設法拒使，託成都造幣廠仿照盧比形勢及重量，鑄造藏洋，但將英皇后像改換爲光緒帝像，藏幣行使後，盧比果即漸次斂跡矣。據造幣廠報告，自光緒二十八年，以迄於宣統三年共計鑄造一元藏幣一千萬枚，半元藏幣十二萬枚。一厘幣（即一元之四分之一）約十萬枚。迄今藏幣約佔全康銀幣百分之九十。康人交易概以藏幣爲單位，計每枚重三錢二分，可換銅元九千文左右。

(4) 雲南半元 爲建昌商販所帶來，每元換銅元十九千餘，約合大洋七角至八角左右，流通數量不多，約佔全銀幣百分之四五。

(5) 鋼板 爲雲南半元之一種，係零用商販及建昌米販所帶來，形式比成都廠板稍大，概係半元，充滿鋼色，市價可換銅元五千餘文。

(6) 半夾 半夾亦稱零塊，即藏洋經宰成兩半之銀幣，康定現已禁止使用，但關外各縣，則全係半夾或一咀，已毫無整洋矣。

(7) 銀幣 銀幣係印幣，自西藏流入，約有制錢大小，而無孔，花紋似盧比，在西藏值一咀，惟康定則甚少，且不通用。

(8) 銅元 分大當二百銅元與小當二百銅元兩種。前者雖能通用，但流通數量甚少，後者以關內康定瀘定兩縣爲多，關外則不多見。按銅元之行使於西康，始於前清宣統年間，當時川邊學務局總辦吳嘉謨，採購大批教育用品，農業種子，日常用品，並大批銅元，運抵巴塘，指定地點陳列，一任變民觀摩或購買，用以開通風氣。豈知數日並無人前來問詢。吳氏乃施自賣自買之計，令所屬人員，持藏錢前往掉換銅元，復以銅元購買物品，或逕以銅元前往買物。如是者又數日，變民始喻其意，而知銅元之爲用，不及半載，全康變民，皆通用銅元矣。

第六目 交通

一 公路

(1) 西康公路

路線名稱	起訖及經過地點	路長里數(華里)	備考
雅康公路	由四川雅州經漢源瀘定至康定	五三〇	
康巴公路	由康定至雅江理化而至巴安	一、二四五	
巴榮公路	由巴安至德榮		
榮大公路	由德榮至大理		以上二線總長八百餘里
巴界公路	由巴安經白玉鄧柯湖金沙江上游至青海界谷	二、三〇〇	
康昌公路	由康定經道孚鎭霍甘孜德格至昌都	九〇〇	
附註	以上西康公路計長五千七百餘里，全國經濟委員會正在測量興築中。		

(2) 西藏公路

路線名稱	起訖及經過地點	里	程(公里)	備考
拉昌路	拉薩至昌都		七八〇	通西康四川之大道
拉札路	拉薩至札什倫布		二七〇	
拉泡路	拉薩至泡河老		三六五	通青海甘肅之大道
拉關路	拉薩至新羅子關		一、四四五	通新羅之大道
扎噶路	扎什倫布至阿里噶大克		九、九〇〇	
江亞路	江孜至亞東		二、二〇〇	通哲孟雄及印度之大道

昌阿路	昌都至阿敦	三七三	通雲南之大道
札森路	札什倫布至聶拉木	三五五	
合	計	一五、六八八	

查西藏道路坎坷曲折，向無精確測量，右表所列，係根據舊籍台站里數，參酌外人輿圖，加以推算，其中數字，容有錯誤，俟將來實地測量後，再行更正。

二 郵政

(1) 西康郵政現況

西康郵政現況，據四川郵政管理局報告，自康定起，北路經道孚、爐霍，可通至甘孜，南路經雅江、理化，通至巴安，再由巴安經德榮境內之羊拉，通至雲南邊境之阿敦，可與雲南郵線銜接。康定、瀘定、巴安三處設有郵局，道孚、甘孜、雅江、理化、丹巴等五處設有郵寄代辦所，爐霍、九龍二處設有村鎮信櫃，雖近年來邊境多事，各處盜匪四起，郵務并未因之頹廢，原有鹽井代辦所，位於金沙江兩岸，因在川康邊防軍勢力之外，不得已而暫時停辦。至南北兩路郵件，原係經由康定轉遞，四川管理局現已另闢一新郵線，即由瞻化至康北之甘孜，南至康南之理化聯絡通郵，以後西康南北兩路郵線，概可直接寄遞，不必經過康定矣。

(2) 西藏郵政現況

西藏郵政現況，自拉薩起，南可通至江孜，東可通至江達，自江達至昌都及江卡一帶，則用驛站傳遞。惟藏人通信，交郵投遞者甚少。公文則有驛站，私函則用專差，故郵務不甚發達。拉薩所印行之郵票，只能在西藏政府管轄範圍以內通行。過江孜仍須加貼印度郵票。

三 無線電

(1) 藏文電碼之發明

康藏地方，消息素稱沈滯，自交通部在西康、康定、甘孜、德格及西藏拉薩設立電台後，文書傳遞，消息報告，頓感便利。惟因康藏人民，能諳漢文者甚少，輾轉翻譯，殊感不便，現由關係部會製訂一種藏文電碼，共有符號五十九個，業經試驗通報，成績良好。

(2) 中央廣播電台增播藏語報告

西藏僻處邊陲，風氣閉塞，民衆對於國內政情，素極隔闕。前致祭達賴專使行署所設拉薩無線電台，有廣播收音機一座。雖距京遠，而所收中央電台播音，尙屬宏亮，藏中官民，對之極感興趣，惟因語言不同，報告事項，未能完全了解。中央廣播電台管理處爲啓迪藏民智識起見，每週增加藏語報告新聞一次。時間爲每星期日下午十時十分至三十分。自本年二月二日起，已開始廣播。從此西藏人民，對於中央政情，得有明悉之機會矣。

(3) 康藏無線電台

康藏各地無線電台一覽表

地名	電 力	成 立 年 月	備 考
拉薩	一〇〇瓦特	二十三年三月	
康定	五〇	二十三年四月	
巴安	一五	二十三年八月	
甘孜	五〇	二十三年五月	
德格	一五	二十三年十月	
理化			計劃設置尙未成立
丹巴			同右

四 川康邊防總指揮劉文輝開闢西康交通四年計劃

川康軍總指揮劉文輝，前爲開闢西康交通，曾擬具「開闢西康交通四年計劃」，其中並敘述與交通有關之西康政治、經濟、社會等情形，茲僅將內中關於西康交通之沿革，及開闢程序摘錄如下。

一 西康交通之沿革與現狀

西康在實質上成爲國內一行政單位，應斷自遜清光緒三十二年趙爾豐被命爲督辦川滇邊務大臣時始，蓋西康之種切政事，莫不由趙氏發其端也。交通要政，趙氏極爲注意，其所興辦各事，至有價值，足備參考。茲分路航電驛四項述之。

(一) 路政

趙使籌辦邊務，首重開治道路，遜清宣統三年，趙氏上奏清廷云：「竊查邊務地方，自改土歸流以來，辦墾設學招商練兵，百務並舉。惟凡人購物，皆須來自川省。近年藏中陸續募兵，轉運餉械，邊地又爲樞紐之地，而關外跬步皆山，崎嶇險阻，人皆望而生畏，轉輸異常艱難，糜費更不待言，是非設法使之通車不可，不然，不但於邊務不宜，抑且於藏事有礙。臣於光緒三十二年十二月會同川滇督臣，具奏會籌邊務大概情形，即以開治道路爲宗旨。惟工程浩大，經費無多，不敢輕舉。現在川藏均已奏明，分段興工，成都至打箭爐一段，由川省興修，察不多至前藏一段，由藏款開辦。打箭爐至察木多一段，自應由邊務擔任。一律修治，闢爲車路，以便輸運，而資聯貫。現在揀派熟悉車路工程之員，分段查勘動工。遇有崇山峻嶺，設法繞越，懸崖絕壁，度勢開鑿。河渠大小不可涉者，或架木樑，或修石橋。相度形勢，就地取材，總以工堅款省爲主。造車一事，川中當無此項匠人。臣由去年派員由陝西覓僱以來，業已購料製造。查修路造車兩項，除中渡修築鋼橋，曾經奏明不計外，通盤估計，約需銀三十萬兩之譜，擬請在邊務經費項下動支。將來工竣，造冊報部核銷，除各部

立案外，理合恭摺具陳，伏乞皇上聖鑒訓示。謹奏。」此於道路交通，在經濟上軍事上國際上之鉅大價值，言之剴切。故趙氏奏准之後，當即派員查勘撥款動工，並牙促川藏同時辦理。

查趙氏所謂車路，其建築情形，於其批示名山雅安榮經清溪各縣文中，可以窺見。文云：「車路之寬窄亦須就地勢爲准。要之寬者約丈餘，即可雙軌並進。窄者六七尺，亦可單獨進行。惟於三角轉彎處，必須開寬丈餘，以便轉折。至於山坡如過陡峻，當稍填成漫坡，亦有開如螺旋，盤折而上。此等處或用藥糞，或用人力，此則在該縣臨時察酌情形辦理。」

此與現時各省公路正復無異。至於建築經費，據當時邊（即康）川兩方估計，屬邊區內之一段，由爐城起經雅江、理化、巴安、寧靜、察雅，以達昌都，預算需銀三十萬兩。而雅江鐵橋之建築費，當不計入。屬四川區內之一段，由雅城起經榮經、清溪、滄定，以達爐城。預算需銀二十萬兩。而城都至雅安一段，不在其內。上項預算，皆於趙爾豐咨四川總督文內見之。其咨文云：「爲咨復事，宣統二年九月二十二日准貴督部堂咨開，據布政使王人文詳議雅爐一段車路需用經費二十萬兩，曾經籌足，請咨商辦理。會同奏咨等由。准此。本大臣查雅爐車路既經該司籌足經費，應請貴督部堂遴選熟悉車路之員，前往會同前勘路委員實地巡檢，再行逐段估勘妥協，然後興工，以免貽誤。現在本大臣委鑪定橋巡檢寶琛與楊府經修以前所用各款，應劃歸川省，以便將來彙案報銷。似此辦理，界限清楚，款項分明，而辦事之員，各專責成，車路成功，自屬易易。其

前估由雅至爐需款二十萬兩，由省至雅一段不在其內。由爐至察一段需款三十萬兩。河口鋼橋亦不在其內。相應咨明貴督部堂，請煩查照，會銜奏咨辦理，須至咨者。」

查當日所謂熟習車路人員，並非工程專才，故其預算極不精確。跬步皆山之康川地勢，三千餘里之長途（由雅安至昌都）建築等於現在所稱「公路」之「車路」，僅估價五十萬兩，雖以趙氏辦事之認真，以無法以善其後，而車路終未實現。此後城鄉稟請修造車路，趙氏已由經驗查知「車路」之工繁費鉅，未予核准。故批示曰：「稟悉。車路一項，工繁費鉅。本大臣上年飭令裏巴等興修，迄今款已用過數千，而行車尚且不能。去年另行委員勸修，係為大道轉運計，不得不舉辦也。」

西康南北幹道路線概況

至定鄉等處，乃鄉僻之地，非有大宗轉運，不能開修車路。縱有險峻之處，只可由各地方官諭令民間稍加修治，便於馱運，如修各地費工無多，並免給予口食。萬不能修築車路，圖用公款也。」

按：今日由雅安至康定，由康定至巴塘之官道，固即趙氏曾費款五十萬兩所關治者，其現狀調查如下：

區別	路幅		土質	及里數	通	山名	水	道橋	樑備	考
	最寬度	最窄度								
康定縣至折多塘	四·四	二·二五	堅砂	二·二	四〇	折多山	爐河	一一·一	三	由折多山頂下至十里之兩路口循下列各線前行是為「南路」
折多塘至提茹	三·六〇	二·四〇	鬆砂	五·八	九〇	折多山				
提茹至東俄洛	六·〇二	二·五〇	鬆砂	二·五	一〇〇	喇嘛山	木亞鄉河	一三·五		
東俄洛至臥龍石	五·四〇	二·〇〇	鬆砂	一·三	七〇	高日寺				
臥龍石至臥龍石	二·五六	一·五〇	鬆砂	六·〇五	一〇〇					
雅江縣至中波	六·〇〇	一·五〇	堅砂	一·〇	一〇					鋼橋一已毀
中波至麻蓋宗	六·〇〇	一·五〇	堅砂	四·〇	四〇	八廊山	雅隴江	一五六·〇	七	
麻蓋宗至剪子灣	六·〇〇	一·五〇	堅砂	四·〇	四〇	剪子山				
剪子灣至西俄洛	六·〇〇	一·五〇	堅砂	五·〇	五〇	博浪宮山				

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

美	中谷至八	中谷	長春填至	兩路口至	長春填	竹巴籠	巴安縣至	邦察木至	察木	大湖至邦	朔	三填至大	二耶灣至	三填	二耶灣	益納山至	益納山	拉耳塘至	拉耳塘	耳塘	頭塘至拉	頭塘	理化縣至	理化縣	火竹卡至	至火竹卡	咱馬拉洞	咱馬拉洞	馬頭山至	馬頭山	西俄洛至			
	四〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	一〇〇	三二〇	三五〇	四〇〇	四〇〇	二八〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	四八〇	四八〇	四五〇	四五〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇				
	一〇〇	一六〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一二	一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一二〇	一二〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一二〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇				
						七八	五四	四六	六	二	三	七〇	三九	五〇	六	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇				
	堅砂	鬆砂	堅砂	堅砂	堅砂	堅砂	堅砂	堅砂	堅砂	堅砂	堅砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂	鬆砂			
		二〇〇	三〇〇	一二	六	九	八四	五八	六〇	三五	三五	八〇	六〇	六〇	六六	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一	七一			
	四〇	五〇	七〇	九〇	六〇	五五	九〇	六〇	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五		
	中谷樺子			茶樹山	大朔山		大朔河口	松林口	二耶灣山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山	益納山		
				金砂江			大朔河口	松林口	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河	喇嘛了河		
				牛古渡																														
				三五〇〇			四二〇〇	八〇	一〇〇〇	七〇																								
					二																													
				三	六	一																												
				折多山下坡十里至兩路口與南路分道循下列路線前行是謂「北路」																														

趙氏除開治川康藏幹道(即由成都經雅安、康定、巴安、昌都而達拉薩之線)外，其餘康甘、康青、康滇及康區內各線之交通路線，亦甚注意。

趙氏飭員勘測康甘道路結果，詳管理石渠委員孫敬英兩稟中，孫稟曰：「欽憲閣下，敬稟者，竊委員去歲臘月初一日，面奉鈞示，探探通甘道路，是否險夷。遠近如何？委員到渠後，逢人即詢，人異詞異，難衷一是。近有洮岷行商閔學昌等十餘人，係久商於界古邑許間者。因下俄洛，色他多堪，萬馬奔康干等廠，交堪屢次搶劫，請保護維商前來，備詢經過各地廣狹危坦，水道淺深難易。據稱由石渠走上俄洛，經二輩哈松所轄地界，盡屬草場，一望無涯。過關地兩道，岸均約二丈多寬。平常水深二尺餘，雖極漲不逮馬鞍。若果修橋，更屬容易。健牛七日程，即至頭道黃河，寬約里許，水落僅至馬腹，漲時淹騎者膝蓋。中間多箠，深淺不一。有時僅餘馬首，有時直露馬蹠。無筏無船，任人採渡，過河約八十里之十站，至第二道黃河，寬處三五十丈不等，狹處約十丈之譜，深不可測。有木船擇狹接濟，頗屬平穩。惟內有松潘廳屬歐那四站，較爲寒苦，不見人烟。且夏日草芭出水，瀾泥陷馬者約百餘里。此外有牛廠可棲，均屬坦途焉。再四日程，入甘肅洮州城。若走西寧，由二道黃河經草地兩站至貴德，再兩站即西寧城，均寬平大道等語。竊查西寧偏在西北，委員未及親達，不敢妄陳。至洮州至蘭州省城，祇有五站。由該處三十里之長流坡，出蓮花山，走馬家集，過狄道州，亦屬蕩蕩平平，通行車道。倘能關此前途，則運糧轉餉，似較川省尤便捷。惟查白石渠至德格等處，山雖不高，而崎嶇可慮，路雖不狹，而坎坷難行。否則，用力少而成功多，尙覺不難成事也。所有探探通甘道路險夷遠近各緣由，理合據實稟陳憲台俯賜鑒核。肅此具稟，恭請福安，伏乞垂鑒。宣統二年四月十五日。」

二 開闢程序

邊地急務，首在交通。蓋無論爲解決中藏問題計，爲鞏固西南國防計，爲完成

西康統治計，爲發展康藏經濟計，要當儘先集中財力人力，以四年爲期，努力完成

次列之交通事項，方足以謀解決而策遠圖。否則一切策劃，均將無所措手也。

(1) 路政

A 雅康幹路 查成雅公路，(成都雙流新津邛州名山)已能行駛汽車，羌江水運，亦可直達嘉敏(樂山宜賓已能行駛)與岷江航運啣接，而通於大江。惟雅康一段，路線所經，大山橫亘，轉輸遞運，惟恃人畜。民國十八年，曾派員勘探新線，由雅安經天全而達蘆定。既可繞越素稱險峻之大相飛越兩山，路線且較平整短捷。實測竣事，繪製圖表四十幅，實呈中央鑒核在案。竊按此線，結合川康，斷貫邊腹，關係至巨，價值至大。遜清趙爾巽督川時，已曾注意及此，故乃奏請開築成都至康定車路。其奏摺內申敘理由，至爲詳明，其奏摺文云：「竊查川省以邊藏爲屏藩，而邊藏恃川省爲根本。彼此相維相繫，尤莫要以交通之便利，爲結合之機樞。查由成都至西藏，程途萬里而遙，關嶺跬步皆是。控制轉輸，諸多阻滯。自非即將道路修闢，能行車運。無以便運輸而益邊陲。迭准駐藏大臣聯預邊務大臣趙爾豐咨稱，由前藏至察木多一段，關修車路，由藏擔任。察木多以內至打箭爐一段，由邊主持。分段派員，勘測興工，打箭爐以內至成都省城，咨由臣撥款興築。查由爐至察，由察至藏兩段路，既由邊藏分別擔任，而成都至打箭爐一段，雖係關內，中間仍大山橫亘。若大相橫飛越嶺，素稱險峻，有礙轉輸，非一律修治，闢爲車路，與關內之路連接，乃難收靈捷貫通之效。且邊藏用人用物，無不恃川省爲之聲致。欲爲邊藏謀進步，爲川省策遠圖，則興修成爐一路，尤爲切要不可稍緩之舉。現擬遣派熟悉車路工程之員，逐段勘驗興修。其路幅仿照藏邊辦法，以寬一丈五尺，能容牛車兩輛爲度。高山峻嶺，設法繞避。其不能越過之處，則設法開鑿。此外當有溪流交午，鄉民於兩岸支架木橋，或兩山壁立，中橫鐵索而渡者，勢甚危險，必須另闢新路，或將大小橋樑

易修堅固，期利挽運。綜計此項路工，由成都至雅州府，修治當易。由雅州府至打箭爐廳，查看一路情形，估計工程價值，應需銀若干，擬請將來於稅契經費贏餘內，撥津捐節存各款內撥用，工竣核實造報，如此分別修治。款以各認而有資，路以合擊而易舉。行見川邊藏萬里餘之長途險道，胥化康莊。不惟轉運稱便，易廣招徠，交通既靈，易輸文化，為實邊馭遠之至計，而川省與藏邊，聲氣靈通，脈絡聯貫，亦足厚保障而固藩籬，實於西陲大局，交有裨益，理合仰懇天恩俯准，勅部立案照辦。俾得及時勘修，以葺大工。所有請修成都至打箭爐廳車路緣由，除咨部外，理合恭摺具陳，伏乞皇上聖鑒訓示，謹奏。」

B 康北幹線 此線由康定打多山之兩路口，與康南幹線分道，經道孚、爐霍、甘孜、德格，而至金沙江畔。逾江西行六百七十里，而達昌都。與康南幹線合。舊稱此線為小路，所以別於由康定經雅江、理化、巴安、江孜、乍丫，而達昌都之康南官道也。惟按現在情勢，則康北幹線之重要，至少應等於昔康南官道。蓋西康重鎮康（康定）（巴）（巴安）兩地，最被著稱。至於今日，言政治中心，則屬康定，言商場重心，當屬甘孜，言軍事要點，則德格且重於巴安。再以地形而論，康北幹線所經，山嶺河流，亦不若康南幹線所經之險峻而多。（詳見中段西康南北幹線道路線情況調查表）至金沙江以西之路線情況，現雖無從察勘，僅就路程之長短論之，由巴安至昌都為一千三百一十里，較之由德格至昌都之途程，恰多一倍。故以需要之緩急論，以工程之難易論，尤當儘先完成康北幹線。俾與雅康幹線相接。并應於情況許可之際，從速展至昌都。

C 康南幹線 由康定折多山之兩路口，與康北幹線之分道，經雅江、理化、巴安，而達金沙江畔。逾江西行一千三百一十里，經江卡乍丫而抵昌都。與康北幹線合。舊之入藏官道也。查康南各縣，素稱難治。民國以來，失御已久，逐官行劫，抗糧抗

差，迭嘗有之。鄉城、稻城、得榮等縣，最近始克復治。一旦邊防有警，即為後顧之憂。設非南康幹線完成，決難期獲澈底之統治也。再此線於情況許可之際，應即展至鹽井，以便關築康滇線。（鹽井—阿敦子之線。）

D 寧藏幹線 按建南七屬，在界劃上，政治上，經濟上，皆與西康有最密切之關係，目前之軍米問題也。將來之移民的糧食問題也。產業之發展也。經濟之調劑也。夷務之整理也。皆應相依相維，始能日起有功。故聯貫西昌與康定間之康寧幹線，不啻西康省區之一大血管。此幹線應由康定摩西取道越嶲之田灣（河道七場之一）南經冕寧，而抵西昌。查此路所經區域，大體平坦。由康定至摩西一段，雖踰雅加埂雪山（三七六零米）上下兩面，並僅作四度以下之傾斜。間有數處陡坡，皆長不過一里，斜不過十度，在工程上容易改修使平。摩西田灣間，現在之鳥徑路甚亦佳。不難關治。田灣經冕寧以達西昌，則更易施工也。

E 支線 支線中之最關要者為：

(a) 鹽井石渠線 為康區由南至北貫通鹽井、巴安、德格、鄧柯、石渠之線。現刻康藏暫時劃江西界，此線亦即軍事上之一防禦線也。

(b) 石渠界古線 為青海西康間為最便捷而最重要之通路，查藏方內侵，恆探和青對康和康對青之策略，乃屢佔優勢。經民國二十一年之役，青康兩方切取聯絡，攻守一致，藏軍遂不逞，處現在中藏情況之下，控制藏方軍事上之唯一方式，即為青康作戰之協同動作。故此支線，實具有軍事上之價值。又查此支線恰與青海省道中之寧玉（西寧至玉樹即界古）馬路相接，是則此線，亦可以聯絡邊腹也。

其他幹支各線，持與上列各縣相較，當屬次要。為顧及財政上之困難與工程上之進度計，故不列入四年計劃。

F 鋼橋 次三鋼橋，乃川康道路交通必需之建築物。

(A) 河口(即雅江)鋼橋 查該橋橫跨雅龍江，趙爾豐任內所建造，被陳步三亂兵所毀。橋毀迄今，僅有渡船一隻以備往來之用。

(B) 瀘定鋼橋 瀘定為川康往來之衝衢，現有鐵索橋一道，不能任重，亦難經久，行人運物，異常危險。查傳蓋煉代理邊務時，曾決改築鋼橋，惜值國變，未能實現。

(C) 雅安鋼橋 雅安為川康道路交通之樞紐，羌江匯山溪諸水而成，流速甚大，渡船往來，極為不便，且常出險。

G 台站 查康區折多山以西，無尖宿店，趙爾豐時，曾善設台站，俾公文得以按站接遞，兼作往來食宿之所，法至善也。迄於今日，十九敗瓦頽垣，應即修復，以利行旅。

(2) 航政

A 金沙江航線 金沙江縱貫康境，三千二百餘里之地區，經瀘邊而入建南，流至四川嘉定，與岷江合，東下而注於海。為西康與內地各省之天然聯絡線。疏鑿通航之後，由長江湖流上駛，直達康區中部。以此為中心，東至康定，西至於藏。舉凡邊區之軍事、經濟、政治，及一切建設事業，皆將藉此航路，獲得最大之便利而迅速進展。再查疏鑿此線之費用，趙爾豐時，曾有六十萬兩之估計。

B 道釐河道 查釐釐水自西北向東南流，至道孚始折南經雅江而匯於雅龍江。凡道孚釐釐兩縣精華區域，皆經流貫。水程長約五百餘里，海拔高差約三百米。除將軍樓子一段有急流外，餘盡平流。河面闊四丈至六丈，水深盛夏七尺至五尺，嚴冬五尺至三尺。河心深處，冬不結冰。僅淺處有薄冰一層。河牀與兩岸，盡係沙質，夾以角礫，淘深築堤，並易施工。關治河道，可行駛淺水汽船，則康北交通，舟車聯

絡，至為便利也。

再則貫通寧、康、川境之大渡河，沿河地區，據專家調查，寶藏豐富，若關治河道，使行舟船，則大渡河谷，將為國內之一重工業區，誠有巨大價值。惟此河流，水急難多，未曾勘察，乃四年計劃告成後之工作也。

(3) 電政

查康藏區域，架設電線，工程既艱，費用復鉅，應一律設置無線電台，則用宏而費省。且設置電台，除便商用外，更應注意於軍事上政治上之便利，以固邊防。除已成立康定、甘孜、巴安、德格四台不計外，下列各台，應速設置。

A 昌都電台 查昌都一縣，現雖陷於藏方，終當劃歸康轄。無論其屬康屬藏，要為邊區軍事上政治上經濟上之一重鎮。現在即宜商之藏方，設置電台。則辦理中藏康藏交涉，皆較便利。

B 裏化電台 查裏化東連雅江，南撫鄉稻，西接巴塘，北鎮瞻化，為南北兩路交通之樞紐，康區軍事之中樞。故趙爾豐為建府治，駐以重軍。蓋內足以鎮安反側，外可以應援邊防也。尤當設置電台，以利機宜。

C 定鄉電台 定鄉、稻城、德榮三縣，素為康區極難治理之區，而就中尤以定鄉民風最為刁悍，鄉城姓搶掠行為，著聞於全世界。近始復治，委官駐軍。如果定鄉攝服，康南各縣，皆得平靖。查定鄉接壤滇境，距康定十有七站，若非設置電台，則軍政情報梗阻延滯，貽誤甚大。

D 九龍電台 查九龍東界越嶲，南鄰鹽源，為接木裏地區，北距康定五站。為辦理建南夷務計，應設電台於此，俾康寧兩方，消息靈捷。協力整頓。

E 西昌電台

F 會理電台

G 鹽源電台
H 越揚電台

以上四台，皆為發展邊疆經濟，辦理建南夷務，鞏固邊區防務，必不可少之設備，應即成立者也。

至於有線電報，現有線路為：

A 雅康線 自雅安經榮經、漢源、富林、越嶲、西昌、而達會理。

B 雅會線 自雅安經榮經、漢源、富林、越嶲、西昌、而達會理。

C 郵航應速實現，飛航康藏，除郵電敏速外，當有次列重大之效益。即（一）行旅便利，逐漸減除中藏間種種隔閡，促進中藏之密切關係。（二）飛機測圖。蓋康藏地形，尙未精確測量，迄今未有詳確圖件。惟交通農林牧礦以及外交國防等項要政，皆需此項圖件，用為設計基礎。故利用飛機測量康藏地圖，誠不可稍緩之舉。（三）康區民間槍械，至為犀利，惟懼機噠飛機。而一般康民，因智識低陋，認為飛機不適於康區，今若飛航實現，亦可藉以內鎮反側也。

查邊區交通不闢，一切治邊方策，咸必無所依附及根據。康藏雖再歷時千百年，一切仍必如故。惟慮我不經營，勢必有蓄意經營者出，則康藏不復為我有矣。茲鑒於時之不容再緩，事之不容不舉，僅揀擇最極需要之事，釐為此四年計劃，并訂其進度如左表：

西康交通四年計劃進度表

項別	第一 年	第二 年	第三 年	第四 年
路政	1. 修復合站	1. 建造河口橋	1. 完成雅康幹線	1. 完成康南幹線
	2. 修築康北幹線并完成之	2. 修築雅康幹線	2. 建造雅安鋼橋	2. 修築鹽井石渠支線并完成之

航政	電政	郵政
3. 建造邇定鋼橋 1. 航線籌備興工疏鑿 2. 疏鑿道鑪河 3. 興工疏鑿金沙江航線 1. 繼續疏鑿金沙江航線 1. 完成金沙江航線	1. 設理化電台 2. 設昌都電台 3. 設鹽源電台 4. 整理康雅有線電 1. 設定鄉電台 2. 設九龍電台 3. 設會理電台 4. 整理康會有線電 1. 設西昌電台 2. 設越嶲電台 1. 廣設收音機於各縣	1. 加密已有郵路之班期 2. 開辦郵航機 1. 推廣郵路 2. 定期郵航 1. 加密推廣郵路之班期 2. 增辦郵匯處 1. 設立郵政儲金
3. 修築界古石渠支線并完成之 3. 修築康南幹線		1. 電政郵政事項，儘可於一二年內辦竣。設人員機料，一時不敷配用，則就情形之緩急論，應如左列擬次第興辦。 2. 路政工程。假定為通行汽車之路。但康雅幹線，要以建築鐵道為上，次之亦當敷設為輕便鐵道，再次之始為汽車路也。 3. 各項工程之進行如能加速，則四年之期，便可縮短。此定四年，乃最大限度之期也。

三 經費

(一) 估計 以右所列各事項為標準，所需經費之精確預算，應俟專家就各項工程，作詳密設計後，始能擬定，乃無差誤。茲但根據實際情況，估計如左：

A 路政 按現在之物質標準與生活程度，以半兵工半民工修築汽車路為準，普通橋樑及涵洞統計入內，則：

(一) 康南幹線 此線工程最難，趙爾豐氏所擬修治此項之經費，為三十萬兩，(包有巴安至昌都一段) 而其工作結果，僅行與馬，當感困難。現在興築，平均每里之最低經費約為二千元。由康定至巴安之竹巴籠，長以二千二百里計，共需經費洋二百四十萬元。而河口鋼橋之建築經費，尚不在內。

(二) 康雅幹線 此線自雅安經天全而達瀘定之段，皆係沿山麓斜上，施工較易。平均每里之最低經費，約為一千五百元。長以三百里計，共需經費洋約為四百五十萬元。再由瀘定至康定一段，沿山谷行，擊險絕幽，工程頗鉅。此段平均每里之最低經費為二千元。長以一百里計，共需經費洋二十萬元。全路合計，共需經費洋六十五萬元，而瀘定橋之建築經費，不在其內。

(三) 康北幹線 此線自康定城隍折多山至兩路口之段，長七十里，與康南幹線共由兩路口經道孚、爐霍、甘孜、繞竹慶(避去撤拉山)而達德格之岡拖，路線所經，咸係淺山，半屬平坦。平均每里之最低經費約為一千元。長以一千里計，共需經費約一百萬元。

(四) 寧爐幹線 此線工程狀況，與康北幹線相似。長以六百里計，共約需經費洋十萬元。

(五) 鹽石支線 此線經過地區，工程難易不一。平均每里之最低經費約為一千八百元。長以一千五百里計，共需經費洋二百七十萬元。

(六) 石界支線 此線現時程站，由石渠西北行，馬站一站至達木多，一站至歇武寺，一站至界古。工程狀況與康北幹線相似。平均每里之最低經費約為一千元。長以四百里計，共需經費洋四十萬元。

(七) 鋼橋 根據於趙爾豐之開支與傳黨休之預算，以現時之金價物價生活等標準計之，河口、爐定、雅安三橋，每橋約需建造經費洋十萬元。共計需洋三十

萬元。

(八) 台站 按照現時旅途情形，康南幹線，應設台站十一，康北幹線，應設台站九。每一台站之建造及設備費，需洋八百元。南北兩路，計二十處，共需經費洋一萬六千元。

B 航政

(一) 金沙江航線 根據趙爾豐時之估計，而以現時之物價、及生活為準，此航線之疏鑿經費，至少應五倍於當日，約計需洋三百萬元。

(二) 道爐河道 疏鑿此線之工程，僅將軍稜子一段，較為費力，合造船所需計之，約需經費洋十二萬元。

C 電政

(一) 無線電台 昌都、理化、會理三台，宜用一百瓦電機。其餘各台，用十五瓦電機足矣。計共需百瓦電機三部，十五瓦電機五部。惟道路遼遠，宜多配備材料。以時價計之，共約需洋二萬元。

(二) 有線電 整理雅、康線路，所需材料及工程費用，共約一萬四千元。整理康、會線路由漢源起算，所需電料工程費，共約一萬六千元。兩共合計需洋三萬元。

D 郵政

加密班期及推廣郵務，所需皆屬無幾。惟郵航所需機場，康區預定三處(即康定、甘孜、巴安)每一機場之建築及設備費用，約需洋一萬元，共計需洋三萬元。綜計所需經費，路政八百零六萬六千元。航政三百一十二萬元。電政五萬元。郵政三萬元。是西康交通建設所需經費之最低額，共為一千一百二十六萬六千元。

(2) 籌集 查西康財政，全年收入，糧稅合計，年僅四十萬元。決不能自給自

足。向由國庫及四川省庫協款。案牘俱在，不難復舊。此最低額之交通經費，設非另行籌集，則任舉一事，皆非康區財力所能勝任，所能支付。似應分期發行西康建設公債若干千萬元（第一期發行一千萬元應此計劃之需要）俾此西康交通上最低限度之事項，得以於最短期間完成。非僅西康一隅之幸，西南國防，實利賴之。至於此項經費，其保管支付，擬由中央特組織機關專司之。兼督工程之進行。四年之後，行見康藏局面，煥然一新。其影響於國計民生者，其價值殆十倍於此一千萬元之經費耳。

第七目 電氣業

康藏全境，僅康定現有電廠一所，其電源，則為安息會，福音堂，美人安得烈醫生；安氏於民國十一年在會內置有小型水力發電機一座，僅備自用而已。十九年二月當地人士乃有設置電燈廠之計劃。經積極籌備，分向內地購置機械，於二十一年四月試燈，於七月正式營業。其設備現況如下：

- 水槽一座 約長二十丈寬五尺
- 四十四匹馬力原動機 一座
- 安迪生發電機 一座
- 電壓 二四零弗打
- 電流 六十安培
- 每秒周波 六十週期
- 速度 一千二百度
- 變壓機 一座
- 能力及現況

依照發電能力，本可裝置十六支光燈一千六百盞，惟以機械式樣陳舊，裝置

欠當，兼以偷電換泡，現下開足馬力，僅足燃七百五十餘盞。

（附記）按中國經濟年鑑二十四年續編邊疆經濟章，原分為蒙古康藏及新疆三節。康藏新疆，固係各就其全區域內之經濟情形，加以檢述；而蒙古則僅以察綏寧青等省內之蒙旗經濟為主，其在省縣區域內者，概付缺如。又蒙旗尚屬游牧生活，經濟進展，異常遲滯，一載之隔，變動甚微。故本期注重敘述察哈爾綏遠寧夏香縣方面之經濟狀況，而屬於蒙旗者，則隨文隨事而及，以期詳略互見。外蒙青海，上期亦係因便敘入於有關蒙藏之各節，散見難出，難窺其全。故本期亦使其各自成節，以資調整。康藏新疆，一仍舊題。東北未復，難知其詳，姑缺之，以俟異編。綜上成章，析為五節：曰察綏寧三省，曰外蒙古，曰新疆，曰青海，曰康藏。節分為目，純視材料之有無而為多寡，頗不一致，實無如何。本期取材大致限於二十四年內之新事實，且力避與前期重覆，惟邊疆經濟資料，本極缺乏，復因交通遠阻，難以時至，內容枯乏，未臻精審，實編者之所憾也。爰將取材各書報，附列於後，用備覽觀焉。

本章參考書目

- （一）新疆印象記 徐戈吾著
- （二）最近之青海 青海民政廳編
- （三）到青海去 顧執中陸詒合著
- （四）寧夏省考察記 傅作霖著
- （五）內政調查統計表 內政部編
- （六）二十四年申報年鑑 申報館編
- （七）川邊季刊 重慶中國銀行出版

中國經濟年鑑第三編 第二十章 邊疆經濟

(八) 川康邊務計劃

(九) 藏幣

(十) 新亞細亞月刊

(十一) 開發西北月刊

(十二) 西北問題季刊

(十三) 邊事研究月刊

(十四) 新青海

(十五) 康藏前鋒

(十六) 拓荒月刊

(十七) 各報所載新聞

新亞細亞月刊社出版

開發西北協會主編

西北問題研究會出版

南京邊事研究會出版

新青海社出版

康藏前鋒社出版

拓荒月刊社出版

附錄 書報介紹

本會年鑑，承各機關，各學術團體，暨各報館，贈閱各種書報，俾得參考，獲益良多，除分別函謝外，茲將本年來收到各處惠贈刊物列下，以資介紹而申謝忱。

甲 報紙類

報名	全年定價	地址
時事新報	一五·一二元	上海山東路二三四號
華北日報	一〇·〇〇	北平王府井大街
上海民報	九·〇〇	上海山東路二〇一號
申報	一六·二〇	上海
天津庸報	一二·四〇	天津法界二十六號路
武漢日報	一四·四〇	漢口江漢路
徐州徐報	七·〇〇	徐州新東門內
河南民報	八·八〇	河南開封書政府前街
天津益世報	一三·六〇	天津義租界大馬路
綏遠西北日報	八·五〇	歸綏文廟街
湖南國民日報	一一·〇〇	長沙皇倉坪四二號
廣州民國日報	一八·〇〇	廣州光復中路七九號

中國經濟年鑑第三編 附錄 書報介紹

報名	全年定價	出版機關暨所在地
香港超然報	二五〇〇	香港威靈頓五十二號
上海新聞報	一六三〇	上海漢口路一九號
上海時報	一一〇〇	上海四馬路大新街口
上海大陸報	三六〇〇	上海
青島民報	一二八〇	青島福建路三八號
香港南華日報	二五〇〇	香港荷里活道
上海日報	一六〇〇	上海北四川路
青島白日報	三五〇〇	南京國府路
北平實報	三〇〇〇	北平宣武門外五六號
新民報	七二〇〇	南京估衣廠
救國日報	五〇〇〇	南京太平路中段

乙 月刊類

刊物名稱	全年定價	出版機關暨所在地
海關進出口貿易統計月報	二〇〇〇元	上海總稅務司署總計科
津浦線鐵路月刊	三三〇〇	津浦鐵路管理委員會總務處
浙江財政月刊	三〇〇〇	浙江省府財廳第四科
民族	二〇〇〇	民族雜誌社上海愛多虞限路四五號
山西實業公報	四〇〇〇	山西實業廳公報編輯處
中國實業	二〇〇〇	南京中山路第一七九號

中國經濟年鑑第三編 附錄 書報介紹

湖北省政府公報	八〇〇	湖北省政府秘書處
平漢線鐵路月刊	四〇〇	鐵道部直轄平漢鐵路管理委員會
工務月刊	二四〇	天津市工務局
中行月刊	三四〇	室
中華畫報	四八〇	新中華圖書公司上海海寧路北四川路轉角
良友畫報	四四〇	良友圖書印刷有限公司上海
電氣月刊	二〇〇	電氣月刊社杭州電氣股份有限公司總廠
錢業月刊	二〇〇	上海市錢業公會上海寧波路二七六號
檢驗月刊	二五〇	實業部天津商品檢驗局
商標公報	二五〇	上海實業部商標局
檢政與商業	三〇〇	上海實業部商品檢驗局
中國建設	二〇〇	中國建設協會南京首都電廠左巷
上海市政公報	三〇〇	上海市市政府秘書處
政治成績統計	二〇〇	中央統計處
勞工月刊	二〇〇	勞工月刊社南京秣陵路
建設委員會公報	一一〇	建設委員會總務處
財政公報	二〇〇	財政部總務司公報股
審計部公報	二〇〇	審計部秘書處
統計月刊	三〇〇	國民政府主計處統計局
山東財政公報	四八〇	山東省府財廳公報編輯處

京滬滬杭甬鐵路月刊	三〇〇	京滬滬杭甬鐵路管理局文書課
港務月刊	三六〇	青島市港務局
安徽民政公報	三六〇	安徽省府民廳第一科
浙江建設月刊	三六〇	浙江省政府建設廳
天津市政公報	四八〇	天津市政府
湖南建設	四八〇	湖南省政府建設廳
鹽務彙刊	二〇〇	財政部鹽務署
河北財政公報	七二〇	河北省政府財政廳
天津棉鑑	三〇〇	實業部天津商品檢驗局
合作月刊	〇六〇	中國合作學社上海淡水路鹿水坊
中華月刊	二〇〇	中華月刊編輯部上海河南路三〇三號
南潯線鐵路月刊	一六〇	南潯鐵路管理局
農聲	一五〇	國立中山大學農學院
氣象月報	九六〇	青島市觀象臺
湖南省政府公報	三〇〇	湖南省政府秘書處
北寧線鐵路月刊	三〇〇	北寧鐵路管理局文書課
實業雜誌	三二〇	湖南實業雜誌社長沙小桃源桃源籃里
甘肅省政府公報	一六八四	甘肅省政府秘書處
中國經濟月刊	二二〇〇	實業部國際貿易局
上海物價月報	二〇〇	上海國定稅則委員會

國際貿易導報	三〇〇	實業部國際貿易局上海商品檢驗局
機聯會刊	一・二〇	上海機製國貨工廠聯合會上 海法界貝勒路
水利	二・四〇	中國水利工程學會杭州浙江 省水利局
道路月刊	二・〇〇	道路月刊社上海勞神公路六 〇八號
金融統計月報	六・〇〇	中國銀行總管理處經濟研究 室
陝西建設公報		陝西省政府建設廳
民衆論壇	二・〇〇	上海東亞銀行樓上
復興月刊	二・〇〇	新中國建設學會上海福履理 路五七〇號
江蘇建設月刊	四・八〇	江蘇省政府建設廳
實業統計	一・五〇	實業部統計長辦公處
物價統計月刊		實業部統計長辦公處
僑務月刊	一・〇〇	僑務委員會南京金陵路黃鵬 巷
市政月刊		長沙市政府秘書處
上海市水產經濟月刊		上海市裏馬路太平里一號
前途	二・〇〇	前途雜誌社上海環龍路七六 號
社會經濟月報	三・〇〇	社會經濟調查所上海南陽路 四十四號
開發西北	二・〇〇	開發西北協會南京新街口興 業里三號
經濟評論	二・〇〇	中國經濟評論社漢口特三區 金城里六十號
中央銀行月報	二・〇〇	中央銀行經濟研究處
經濟統計月誌	二・〇〇	中國經濟統計研究所上海霞 飛路九七弄二五號

漢口商業月報	二・六〇	漢口市商會商業月刊社漢口 中山路
水產	〇・五〇	實業部上海魚市場籌備委員 會

丙 季刊類

刊名	全年定價	出版機關暨所在地
中國社會	〇・五〇元	南京鼓樓正中書局雜誌推廣 所
上海貨價季刊	二・〇〇	國定稅則委員會上海漢口路 江海關二樓
河北物價指數季刊		河北省政府實業廳
交大季刊	〇・八〇	交通大學上海徐家匯
鑛業季刊	二・〇〇	湖南鑛業公會長沙靈官渡
安徽建設季刊	二・〇〇	安徽省府建設廳
社會科學季刊	二・〇〇	國立武漢大學武昌珞珈山
青島工商季刊		青島工商學會青島熱河路六 一號
貿易報告	二・〇〇	實業部國際貿易局
實業季報	一・〇〇	全國商會聯合會上海香港路 四號

丁 旬刊類

刊名	全年定價	出版機關暨所在地
農林新報	〇・六〇元	農林新報社南京金陵大學農 學院
山東財政旬刊	三・六〇	山東省政府財政廳
江西省政府公報	五・四〇	江西省政府秘書處

中國經濟年鑑第三編 附錄 書報介紹

陝西財政旬刊	五·四〇	陝西省政府財政廳
山東民政公報	一〇·〇〇	山東省政府民政廳秘書處
經濟旬刊	一·五〇	江西省政省經濟委員會

戊週刊類

刊物名	全年定價	出版機關暨所在地
紡織周刊	五·〇〇元	紡織周刊社上海斜橋製造局路餘慶里四號
中國經濟週刊		實業部國際貿易局
市政公報	一·〇〇	北平市政市
農業週報	二·〇〇	農業週報社南京破布營
山東建設公報	五·二〇	山東省政府建設廳
山東省政府公報	一·二〇〇	山東省政府秘書處
每週重要書報目錄索引	二·〇〇	上海中國銀行總管理處
出版週刊	一·〇〇	上海商務印書館
廣播週報	二·三〇	南京中央廣播電台

己日刊類

刊物名	全年定價	出版機關暨所在地
國民政府公報	七·二〇元	國民政府文官處印鑄局
江蘇省政府公報	九·〇〇	江蘇省政府秘書處
陝西省政府公報	一四·〇〇	陝西省政府秘書處

鐵道公報	七·〇〇	鐵道部公報處
河北省政府公報	二一·六〇	河北省政府秘書處
河南省政府公報	一四·四〇	河南省政府秘書處
浙江省政府公報	九·二〇	浙江省政府秘書處
道清日刊	二·九〇	道清鐵路管理局總務處